

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
その他	DVD	ドラマ	言葉があるから・・・	<p>建築会社で働きながら、土日は両親が経営する花屋を手伝っている千花。ある休日、千花が配達から戻ると、千花の母親が、花束を買いに来た韓国人のミンジュンを接客していた。「日本語上手」「韓国人男性はロマンチスト」などの言葉に少し戸惑った様子を見せるミンジュン。千花は接客を替わり、丁寧にコミュニケーションをとりながら花束を作る。別の日、新入社員の中川から結婚の報告を聞いて、驚く千花と同僚たち。先輩の岡部は、「若いにもったいない」「焦る必要はない」とまくし立てる。その後、千花と二人きりになった中川は、心配で言ってくれていることとはいえ、結婚報告をする度に「よく考えて」みたいと言われることが気になる、と複雑な心境を吐露する。それからしばらくして、ミンジュンが再び来店し、千花に先日のお花束のお礼を伝える。「日本人女性は優しい」「千花さんもそうでしょう」といったミンジュンの決めた言い方に、少しだけ困惑する千花。また、別の日、友人の市川が転職をしたと知り、会って話を聞いてみる千花。同性愛者の市川は、前の職場でカミングアウトしていなかったため、「彼女いないの？」「結婚は？」という周りからの悪気ない言葉に毎回モヤモヤしていた。転職を機に、職場で性的指向のことをオープンにしているが、今度は「ゲイの人ってこうだね」と決めつけられることがしばしばあり、返答に困ると話す。そんなある日、「マイクロアグレッション」という言葉に出会った千花は、日頃感じていた様々な違和感がこの言葉に関係していると感じ、それと同時に、そういった言動を自分もしている可能性があると感じ、どうすればよいか考え始める。一方、語学学校のクラスメイトと話していたミンジュンも、これまでの自分の言動に決めつけがあったことに気づき・・・</p>	<p>あからさまな差別表現でなくても、無自覚に相手の尊厳を傷つけている言動のことを指す「マイクロアグレッション（小さな攻撃性）」。その言動の背景には、国籍や人種、性別、性的指向など、特定の属性の人たちへの軽視や偏見が隠れていることがあります。「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にもあります。しかしながら、普段そのことを当たり前のように理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの近く親しい関係性においては、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまうことがあります。</p> <p>自覚なく加害者にならないために……。属性にとらわれずに、ありのままのその人と向き合うことの大切さを、ご職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけとしてお役立てください。</p>	31分	R5年度 (2023年度)	R5年度 (2023年度)
部落差別問題	DVD	その他	部落の心を伝えたいシリーズ 番外編 靴下の穴から未来が見えた 上巻・下巻	<p>70代の江嶋修作（社会学者・解放社会学研究所所長） 40代の川口泰司（解放研究所理事・山口県人権センター事務局長） 50代の坂田かおり（解放研究所理事・人権テイク・ルート代表） 20代の愛梨・瑠梨（看護師） いずれも明るく楽しく真面目な講演スタイルで全国に多くのファンをもつ</p>	<p>20代から70代の世代を超えた論客5人が、部落問題を語り尽くす前代未聞のシンポジウム。 長時間に渡る自然の議論を、上下巻にまとめています。</p>	上巻 27分 下巻 30分	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)
性的少数者の人権	DVD	ドラマ	LGBTsと社会 職場 声に出せないハラスメント	<p>社会人が生活の中で多くの時間を過ごす職場。ここでは無自覚に発せられる言葉がLGBTs当事者を傷つけ、勤労意欲を低下させたり、メンタルヘルスを悪化させる原因にもなります。そうしたハラスメントをはじめ、トランスジェンダーが直面する就職活動の困難や情報管理の甘さから起こる無自覚なアウティング、制服規程や同性パートナーを認める社内規程整備の必要性など、職場で起こりうる様々な事例が描かれています。</p>	<p>このシリーズは性的指向と性自認をはじめとするあらゆる多様性を尊重した社会であれば、人間関係が豊かになるということ伝える一方、社会の様々な場面でLGBTsの人々が直面する「生きにくさ」の事例をドラマで描き、彼らがどのような心理的ストレスや困難と苦悩を抱えているのかを知り、その背景にどのような課題が潜んでいるのか考えます。職場、家庭、福祉、地域社会といった社会の様々な場面に物語を描き、それぞれの現場での実践的な取り組みに繋がる内容です。</p>	25分	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
女性の人権	DVD	ドラマ	STOP!DV	<ul style="list-style-type: none"> ■ドラマ 4つの事例を通して、DVの種類を知る ■DVの定義・DVの周期 ■DV被害者・加害者へのインタビュー ■解説 ■DV被害者から抜け出す 	<p>日本では既婚女性の4人に1人。結婚前の女性では6人に1人がDV被害の経験者といわれています。パートナーからの暴力により、生きる力を奪われてゆく被害者。なぜDVは起こるのか。なぜDVから抜け出せないのか。本作はDV被害者の内面を知り、DVが起こる原因を探ることで、DV解決への糸口を見つけることを目的としています。</p>	29分	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)
性的少数者の人権	DVD	ドラマ	パースデイ	<p>羽野美由紀は、20歳になる娘の笑花が“女らしい”振る舞いをしないことが不満だった。笑花は誕生日の夜、自分がトランスジェンダー男性（自認する性が男性）であることを両親に打ち明ける。性別違和ゆえに小さい頃からずっと辛かったこと、将来は手術もしたいと考えていること、そして、これからは名前を「尊」に変えて生きていくことを意を決して告げる笑花。突然のカミングアウトに動揺する美由紀たち。尊の気持ちを受け止めることができない美由紀は、翌日から尊を避けるようになる。</p> <p>上司の玉木や同僚からの理解もあり、職場では自分らしく働ける尊。一方、誰にも相談できずに悩んでいた美由紀は、何かを抱えていることを同僚の祐奈に見透かされ、友達に娘かということにして相談し少し気持ちが軽くなる。</p> <p>数日後、先輩が尊のことをアウティングしてしまう。不安と恐怖から早退する尊。ただ事ではない様子で帰宅してきた尊を見た美由紀は、心配ゆえに、女性のままでいるように懇願し、かえって尊を傷つけてしまう。尊は家を飛び出していく。</p> <p>上司の玉木の協力もあって、尊は無事に見つかり、安心する美由紀。そして、玉木や祐奈の考え方に触れ美由紀は、次第に自分の心と向き合っていく……。</p>	<p>テーマは「性の多様性を認め合う～誰もが自分らしく生きられる社会を目指して～」</p> <p>性的少数者については、依然として社会理解が進まず、偏見や差別、配慮に欠けた対応などで、自身の思いや悩みを打ち明けることが難しく、周囲の無理解に苦しみ、生きづらさを感じている状況など様々な問題があり、深刻な人権問題になっています。一方、性的少数者であることを打ち明けられた家族や友人等は、既成概念による偏見や知識不足によって、理解しようと向き合う前に混乱や抵抗感にとらわれてしまうことが多くあります。</p> <p>性の在り方は多様で一人ひとりの人権に関わることであるため、性的少数者の存在や悩みに気づくことが大切です。この作品を性的少数者について理解するきっかけとし、その多様性を認め、互いの人権を尊重することは、すべての人が自分らしく生きていける社会につながっていきます。</p>	37分	R4年度 (2022年度)	R4年度 (2022年度)
障がいのある人の人権	DVD	ドラマ	あなたの笑顔がくれたもの～周りから見えにくい障がい・生きづらさ～	<p>美容メーカーでチームリーダーを務める麻友子は、久ぶりに会う幼馴染の紗希から結婚の報告とともに発達障がいであることを告白される。麻友子は「発達障がい」という言葉に対する思い込みから「そんなふうに見えない」、「実は天才だったりして!」と励ますが、紗希は困惑した表情で言葉を失くす。</p> <p>麻友子と同じチームで働く先輩の桃田は仕事が早く、いつも定時になるとすぐに帰っている。社内コンペに向けて親睦会を企画するも、桃田だけは「業務でないなら」と参加には消極的で、他の社員から「ノリが悪い」と非難される。</p> <p>ある日、麻友子は公園の多目的トイレでパーチを拾ったことからオストメイトである女子高生的美織と出会う。周りにはオストメイトであることを隠さず伝えているという美織に対し「強いね」と口にする麻友子だが、「そう見えるだけかもよ?」と複雑な表情を浮かべる美織。</p> <p>それからしばらくして、介護用おむつを持って歩いていた桃田と偶然鉢合わせた麻友子は、桃田が認知症の祖母の介護をしていることを知る。そして、自身も小学生のころ桃田と同じような境遇だったことを思い出す。</p> <p>麻友子から当時の話を聞いた美織は「ヤングケアラーだったんだね」と一言。麻友子は初めてそういう言葉があることを知る。美織との会話を通じて、紗希や桃田に対してきちんと向き合えていなかったことに気づいた麻友子は2人とあらためて話すことを決意する。</p>	<p>「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にもあります。しかしながら、普段そのことを当たり前のよう理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの近く親しい関係性においては、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまうことがあります。</p> <p>主人公は、発達障がいである幼馴染、オストメイトの女子高生、祖母の介護をしている同僚、それぞれの周りからは見えにくい生きづらさを抱えている3人との関わり合いによって、自分の思い込みに気づき、変わる決意をします。</p> <p>外見で決めつけたり、障がいのある人やヤングケアラーなどカテゴリーで人を判断せず、一人ひとりが考えや感じ方も違う人間であるということを理解して向き合うことの大切さを学ぶことができる作品です。</p>	37分	R4年度 (2022年度)	R4年度 (2022年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	よかったら“想い”を聴かせて～自分も相手も大切にするために～	吉沢七海は会社の川柳同好会に所属している。同好会のメンバーは社内の所属も年齢もバラバラだが、安心して何でも話せる人ばかりだ。ある日の同好会、人権週間が近いことから川柳のお題に「人権」をテーマとして選ぶことになった。同好会の面々は、雑談しているうちに何か川柳のヒントになるかもと、職場の人間関係で印象に残っているエピソードをお互いに話し合うことになった。 <ul style="list-style-type: none"> ■ハラスメント ■いろいろな性 ■外国人 ■障がいのある人 ■働き方 ■部落差別 	この作品では、ハラスメントをはじめとした職場における6つの人権テーマを切り口に、相手の想いを聴くこと・自分の想いを伝えること・お互いを受け止め合うことの大切さを登場人物たちと共に考えていきます。職場の誰ひとり取り残さないために、自分も相手も大切にするためにとはどういったコミュニケーションが必要なのかを学ぶことができる作品です。	29分	R4年度 (2022年度)	R4年度 (2022年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたいシリーズ第33巻 12年後の決断	11年連れ添う夫、敬愛する義父、信頼する先輩、見守る母親…綾さんを取り巻く人々の含蓄ある言葉の数々が深く温かく胸に響く…。 <ul style="list-style-type: none"> ■「私の喋り方、イントネーション、ヘンでしょ？出身を隠したかったからなんです。部落差別の恐怖は、物言いまで変えてしまった」 ■「これまで部落差別体験は4度あります。21歳の時の話は必ずします。今の私があるのは、その体験があったからです。」 ■「人権問題を他人事じゃなく自分事として捉え、子どもたちにも伝えてくれたら有り難いです。私の差別体験も意味があったのかなと…」 	吉岡綾さんが出演している同シリーズ第12巻「若い力は今」から12年。その間、綾さんは結婚し、生活環境も激変した。二人の子どもに部落についてどう伝えるべきか、母としての不安、揺れ動く気持ちを赤裸々に語ります。	28分	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)
障がいのある人の人権	DVD	ドキュメンタリー	知りたいあなたのこと3 ～きこえない人の生活・気持ち～	<ul style="list-style-type: none"> ■オープニング 普段聞いている音。それがもし聞こえないとしたら… ■知っていますか？聴覚障がいの3つの区分 ■PART1 聴覚障がいの理解 ■PART2 普段の生活での配慮 ■PART3 職場などでの配慮 ■エンディング 私たちにできる配慮とは 	私たちは、「音のない世界」を一体どこまで想像できているのでしょうか？耳の聞こえない・聞こえにくい方々は、人知れず不安や困りごとを抱えながら生活を送っています。ですが、彼らは障がいを持っていることが周囲から分かりにくいので、困っていても周囲にはなかなか伝わっていません。この作品では、1人の難聴の方を中心に取材する中で、彼らは一体どんな職場で困っているのか？どんな配慮が求められているのか？聴覚に障がいを持つ方々の話を通じて、私たちにできる配慮を共に考えていく内容です。	21分	R4年度 (2022年度)	R4年度 (2022年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	考えてみよう差別の歴史⑥ 戦後の部落問題とさまざまな差別	近現代は「解放令」によって制度的には廃止されたはずの差別が存在してきた時代で、それが今日まで残っています。部落差別は、結婚の際に頭をもたげるなど、今なお決して解消されてはいません。身分が廃止されたにもかかわらず、社会の構成員は江戸時代までの身分という境界に加えて、さまざまな理由をつくりだし、差別を維持してきました。 2016年には「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行され、そのなかでも「教育及び啓発」の必要が謳われています。差別の解消のためには、まず問題の内実を知ることから始めなければなりません。差別は私たち社会の構成員がつくりだし、維持してきたものです。部落問題とは何かを理解するとともに、自らのあり方を考える機会にもなることを願ってやみません。 <ul style="list-style-type: none"> ■戦後の部落解放運動の状況 ■続く部落差別の問題 ■差別の背景と今も続く差別 	近年、新しい資料の発見や歴史資料の見直しによって、学校の社会科教科書では、差別の歴史を史実として知るといった客観的な視点が取り上げられるようになりました。しかし多くの教科書には、身分制社会成立の中で、差別意識がどのようにして生じたのかという歴史的な記述はあまりありません。今なお、偏見による根深い差別意識。現代にも残る様々な問題をふまえた上で、差別の歴史を掘り下げ、背景にある問題に目を向けることが大切です。 この作品は、学校の社会科、歴史教科書に準拠しながらも、それだけにとどまらず、新たな史実や新しい歴史的な解釈を取り上げ“差別の歴史”を深くたどり、過去にどのような差別が、どのようにして生まれたのかを考え、「人権尊重」とは何かを考えてもらう視聴覚教材です。	24分	R3年度 (2021年度)	R3年度 (2021年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	夕焼け	<p>■青野瑠依は中学二年、放課後になると早々に家路を急ぐ。帰宅すると家事や弟の虹太の世話をしている。父親は病気で入院の繰り返し、母親の咲子が日夜働いて家計を支えている。虹太を迎えにいった帰り道、小学生の時に担任だった佐藤灯と再会するが早急に立ち去ってしまう。</p> <p>■灯はかつて採用を目指し教員として働いていた。しかし親代わりの祖母が認知症になったことで離職、介護中心の生活を続けてきた。祖母が他界し就職活動を始めようとするが、三年の空白が重荷になり二の足を踏んでいる。ある日、祖母が通っていた美容室の世良歌絵が訪ねてくる。夫を介護してきた歌絵は、灯の心境を理解し寄り添う。</p> <p>■中間テスト当日、瑠依は、虹太の荷物を忘れて困っているところに灯と光葉の母親の彩佳が通りかかる。そこで灯は彩佳から瑠依の家庭の事情を知る。</p> <p>■話を聞いた歌絵が、瑠依は「ヤングケアラー」ではないかと言う。今の瑠依の状況がかつての自分に重なる灯。そんな灯に「ケアラーをケアする居場所」というカフェの企画を進めていて手伝ってほしいかと誘う。</p> <p>■溜め込んだ不安と自己嫌悪から公園で落ち込む瑠依。その姿を見かけた灯は声をかけ、自身の経験から「一人頑張るのはしんどかった。助けてといえればよかった」と語った。その言葉は瑠依の心に響く。</p> <p>■瑠依の力になりたいと考えた灯は歌絵に、カフェで子どもたちの学習支援もできないかと提案して・・・。</p>	<p>テーマは「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」</p> <p>相手が家族や親しい人であっても、毎日誰かの介護や世話をすることは、身体的、精神的、さらに経済的にも大きな負担がかかります。特にヤングケアラーは、学校に通い、教育を受け、友人と交流を通して成長する重要な時期であるにもかかわらず、その状況が周囲から見過されることが多いという問題があります。</p> <p>この作品では、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーと家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える「だれもが人権尊重される社会」の実現をめざすことを目的とした人権啓発ドラマです。</p>	35分	R3年度 (2021年度)	R3年度 (2021年度)
障がいのある人の人権	DVD	ドキュメンタリー	知りたいあなたのこと2 視覚障がい者の生活・気持ち	<p>■オープニング 点字ブロックの種類と意味、知っていますか？</p> <p>■CASE 1 バス停・駅のホームでの配慮</p> <p>■CASE 2 職場などでの配慮</p> <p>■CASE 3 視覚障がい者への理解～弱視者の存在</p> <p>■CASE 4 気軽に声掛けのできる社会へ</p> <p>■エンディング 私たちにできる配慮とは</p>	<p>目が見えないということ、私たちはどこまで想像できるのでしょうか？視覚に障がいを持つ方々は、いろんな場面で危険や不安を感じながら生活を送っています。</p> <p>この作品では、3人の全盲の方と1人の弱視の方に取材しました。一体どんな場面で困っているのか、どんな配慮が求められているのか。今作は、視覚に障がいを持つ方々の話を通じて、私たちにできる配慮を共に考えてゆく内容です。</p>	21分	R3年度 (2021年度)	R3年度 (2021年度)
さまざまな人権問題	DVD	その他	いわれなき誹謗中傷との闘い ～スマイリーキクチと考えるインターネットにおける人権～	<p>1999年、お笑い芸人として活躍するスマイリーキクチさんが、実は凶悪事件の犯人であるという根拠のないデマがネット上で発信された。はじめは、いずれ収まるだろうと放置していたが、次第に誹謗中傷は拡大し、殺人予告まで届くようになる。仕事にも支障をきたしはじめたので、スマイリーさんは警察に相談するが、解決には至らなかった。その後、誹謗中傷はさらに拡大し、個人の方ではどうすることもできなくなる。弁護士やボランティア団体、警察にも相談するが、解決の糸口が見つからない。そんななか、ある刑事との出会いが事態を大きく変えていく。その刑事は刑事告発を約束し、捜査をすすめて、その結果、19名の加害者が検挙された。それでも誹謗中傷はなくなり、今現在も脅迫メールなどが届く。ネットの誹謗中傷と、私たちがどう向き合っていくか、考えるための内容となっています。</p>	<p>ネットでの誹謗中傷やデマが、たいへん大きな問題となっております。ネット上の誹謗中傷により、命まで落とす人もいますし、社会的にたいへん大きなダメージをうけることもあります。</p> <p>この作品では、根拠のない誹謗中傷により、20年以上にもわたって大きな被害を受け、現在にいたるまで誹謗中傷を受け続けながらも、誹謗中傷と闘い、乗り越えていく経験をお持ちのスマイリーキクチさんからネットの誹謗中傷の現実と対策、そして人権的な課題について、実際の事例をもとに考えるものです。</p>	20分	R3年度 (2021年度)	R3年度 (2021年度)
子どもの人権	DVD	ドキュメンタリー	どう防ぐ？児童虐待 ～体罰は必要なのか～	<p>■体罰はしつつけ？</p> <p>児童虐待をした保護者が、理由を聞かれたときによく答える言葉は、「しつつけのため」だ。街頭で体罰についての意見を聞いてみても、意外に多いのが体罰容認の声、その背景には・・・。</p> <p>■体罰のエスカレートによる死亡事例</p> <p>体罰をエスカレートさせてしまい、子どもが死亡してしまった事例を再現映像で描く。そして、このような事例がなぜ起きたのか、どうすれば救うことができたかなどを考える。</p> <p>■体罰が昔からあった？</p> <p>江戸時代の日本では、子育てにおいて体罰はあまり用いなかった。しかし明治時代になり体罰を認める民法ができたこと、また日露戦争後の軍隊の考え方が家庭教育まで浸透したことが、現代の人々に体罰容認の考えを根強く残す要因となっていると考えられる。</p> <p>■スウェーデンの事例から改善の糸口は？</p> <p>体罰を法律で最初に禁止したのが、スウェーデンである。どのような経緯があったのか、在日スウェーデン大使に詳しく解説してもらおう。そして、体罰を無くしていくために日本ではどうあるべきかを考えていく。</p> <p>■体罰は次世代に連鎖するの？</p> <p>体罰を受けた経験のある親の中には、厳しい体罰のおかげで現在の自分があると考える人がいる。しかしそれは正しいのだろうか？</p>	<p>児童虐待によって幼い命が奪われる事件が後を絶ちません。そうした事件をなくすために2020年4月から「改正児童虐待防止法」が施行されました。それによって虐待にさらされている児童への社会の取り組みはある程度改善されることになりましたが、法令の周知はまだ十分ではありません。今回の法改正の重要な内容である「体罰の禁止」が徹底されれば、少なくとも体罰による虐待死をなくすことが可能です。</p> <p>この作品では、体罰に焦点を当てて考え、地域全体で虐待死のない社会づくりへのひとつの道を示します。ミニドラマ、イラスト、専門家のコメント等を挿入し、改正児童虐待防止法のポイントを解説。また、児童虐待死事件の多くは、周囲の人に気づかれ何らかの形で公的機関の関わりがあった事例です。言い換えれば、当事者からSOSのサインがあったにもかかわらず、救うことが出来なかった事例が数多くあったということなのです。</p>	21分	R3年度 (2021年度)	R3年度 (2021年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	その他	ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～ 【令和2年度法務省委託人権啓発教材】	①プロローグ ②国立ハンセン病資料館展示コーナーにて ③あるハンセン病元患者とその家族の物語<アニメ> ・全国ハンセン病療養所入所者協議会会長 森和男さん ・ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長 志村康さん ④ハンセン病と人権に関する説明1 ⑤あるハンセン病元患者とその家族の物語<アニメ> ・ハンセン病家族訴訟原告団団長 林力さん ⑥ハンセン病と人権に関する説明2 ⑦林力さんからのメッセージ ⑧エピローグ	隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録しています。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるためのDVDです。	34分	R2年度 (2020年度)	R2年度 (2020年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	映像でみる人権の歴史(第7巻) 水平社を立ちあげた人々～人間は尊敬すべきものだ～	1922年3月3日、京都の岡崎公会堂に差別されてきた人々が集まり「人間は、差別するものでなく、尊敬すべきものだ」と宣言し、「全国水平社」を結成しました。 この中心人物の一人で宣言の起草に関わったのは西光吉でした。当時、差別は当たり前のように行われており、万吉も学校でひどいじめを受け、悩み苦しみました。しかし、支えてくれた仲間たちと「差別をなくすには、自分たち自身が立ち上がらなければ」と、水平社の創立を呼びかけました。呼びかけに応じて九州、四国、関東などからもたくさんの青年が創立大会に参加しました。その中には、当時まだ16歳だった山田孝野次郎もいました。彼もまた病氣と闘いながら各地へでかけ「泣いてはだめだ」と命の限り訴え続けました。	日本の人権の歴史を大きく変えた水平社創立の背景や、創立大会の様子、そこに参加した人々の想いを、現地や関係者を訪ねて取材し、明らかにしました。自分たちの力で差別をなくそうと立ち上がった人々の姿から学ぶことにより、「差別」や「いじめ」を根絶するため、いま何をなすべきか問いかけて	17分	R2年度 (2020年度)	R2年度 (2020年度)
部落差別問題	DVD	ドラマ	今そこにいる人と、しっかり出会う～同和問題～	介護付き老人ホームの事務所で、先輩の介護福祉士の佐藤が、新人の臼井にこと細かく仕事を教えている。そんな時、入居者の木村からコールがある。木村は、歩行障がいと手のこわばりがあり車椅子に乗っている。また、高齢のため物忘れがあり会話がかみ合わないこともある。佐藤は、木村のトイレ介助を手際よく行い、臼井もその技術とコミュニケーション力に感心して学んでいる。木村も佐藤をよく信頼している。雑談のなかで、木村は佐藤の出身を聞く。佐藤が木村も知っているある地名を答えると、木村はなぜか態度を急変させ「もう来なくて良い」とそっぽを向いてしまう・・・。	部落差別問題はわが国固有の人権問題であり、日本の長い歴史の発展の中で形作られた身分差別によって、形成されたものです。生まれた場所や住んでいる場所だけで偏見をもち、差別されるという理不尽な差別といえます。 いま、現代社会でもさまざまな差別の問題が起こっています。この作品は、部落差別問題について理解を深めていただくと同時に、部落差別問題をモチーフに、人と人がしっかりと出会う、差別とどう向き合っていくかについてのヒントになる構成となっており、ドラマ形式で描かれているため、登場人物の気持ちに寄り添って視聴することができます。	24分	R2年度 (2020年度)	R2年度 (2020年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	「違い」を「力」にするために～職場のコミュニケーションのヒント～	■ルーツの違い 営業課長の中内と客の松井が商談中に、鈴木が帰ってくる。鈴木はアメリカ人の父と日本人の母というルーツを持っている。松井は、鈴木の見た目に対して偏見を含んだ発言をする・・・。 ■障がい者という多様な性 総務部長の肝入りで、社内全フロアに多目的トイレを増設することになった。社員で車椅子利用者の内海にも聞き取りを行うが、反応が良くないことに気付いた林は、丁寧な問いかけをしながらか聞き出すと・・・。 ■ハラスメント 休日の研修会を勧めていた広報室長とそこに参加しなかった主任の関係が悪化。派遣社員の三角は、室長と主任の思いをそれぞれ聞き出し、お互いの思いのズレをそれぞれに伝える・・・。 ■部落差別問題 人事部の毛利が公正な採用選考についてプロジェクトメンバーに説明している。採用の場で理不尽な差別は許してはいけない。毛利は「聞かない」コミュニケーションについて語る。 ■働きやすさと働きがい 広報部の小津が、プロジェクトの活動を紹介した社内報を手に入会室に入ってくる。それぞれのシーンを振り返りながら、違いを力にするためのコミュニケーションのポイントを確認する。	職場では、グローバル化が進み少子高齢社会が進んだことで、より多様な人材が活躍する時代になっています。 もともと、人と人には違いがあり、コミュニケーションはその違いを乗り越えるための重要な手段であるともいえます。そして、職場の多様性が進んでいるなか、コミュニケーションのあり方は、「職場の人権」を考える上でもますます注目度を増しています。 いまは、お互いの「違い」を理解するという段階から、「違い」をプラスにして、積極的に新しい価値に転換する時代になっています。この教材では、「違い」を新しく「力」にしていくために、どんなコミュニケーションのあり方でそれを実現していけるのか、事例をとりあげながら考えます。	26分	R2年度 (2020年度)	R2年度 (2020年度)
高齢者の人権	DVD	ドラマ	カンパニユラの夢	谷口誠一は、自宅に20年以上ひきこもっている。両親と同居しているが、できるだけ顔を合わせないよう窮屈に暮らしている。 岸本麻帆は、娘が高校生になったことで近所の喫茶店で働き始めると、近所付き合いの中で「谷口家の息子さん、ずっと働いていないみたいなの。気をつけて」と言われる。ある日、麻帆は裏手にある谷口家から「出ていけ！」という怒鳴り声や大きな物音を耳にする。翌日、誠一の母の谷口洋子に思い切って話しかけ、洋子の相談にのる。誠一がひきこもっていること、どうすればいいかわからず、不安を抱えていること等を聞き、なにか自分ができることはないかと、考え始める。	テーマは「超高齢化社会とひきこもり（8050問題）」です。主に「80代」の高齢の親が「50代」のひきこもりが長期化した子を支えている家庭が増加しています。背景には、家族や本人の病気、親の介護、リストラ、経済的困難、人間関係など複合的な課題を抱えながらも、親子共倒れの問題が発生するまでSOSの声を上げることができない、現在の超高齢化社会における「家族の孤立」が地域に潜在化していることがあります。 急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうることを認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくすとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現を目指す人権啓発ドラマです。	36分	R2年度 (2020年度)	R2年度 (2020年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	シェアしてみたらわかったこと	<p>上京して、期待を胸に入居したシェアハウス。そこに暮らしているのは、個性豊かな住人たち。この住人たちとの交流は戸惑いの連続だけど、時間、空間、思いをシェアしてはじめて気づくこともある。私がシェアしてみたらわかったこと。</p> <p>■外国人、キライですか？ 主人公・未来と和也が、リビングで外国人に対する陰口を言っていると、ネパール人のガネスが帰宅し、気まずい雰囲気。見かねた家主の守は、震災時に避難所で出会った外国人家族のエピソードを話し始める・・・。</p> <p>■素敵な女性になれると思ってた 未来は、和也のアウティングによって、じゅんがトランスジェンダーであることを知ってしまう。じゅんは「こんな形で話すのは不本意だけど・・・」と自分の辛かった体験を交えて語りだす・・・。</p> <p>■わたし、発達障がいなのです 未来が帰宅すると、沙織がリビングで熱心にメモを書いている。話を聞くと、沙織は発達障がい、生活上のトラブル回避のためにやっているとのこと。気になった未来は、自まで発達障がいについて調べてみると・・・。</p> <p>■災害時の人権 突如、地震が発生。住人たちはリビングに集まってくる。守の提案で、消費期限間近の非常食を食べながら、それぞれ災害時の大変だった経験などを語り合う。</p>	<p>舞台は、東京のどこかにあるシェアハウス、ここには年齢も社会的立場も異なる人たちが、同じ屋根の下暮らしている。 主人公が時間、空間、思いをシェアすることで気づき、成長していく様子を通して、「人権」について自分の日常の問題として考える機会となる作品。</p>	46分	R元年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)
子どもの人権	DVD	ドキュメンタリー	ずっと助けてと叫んでた	<p>家の中の出来事は決して外に漏らしてはならない。少女は「母を守るために」実父の性的虐待に耐えた。 少女の苦しみに気づく大人はいなかった。闇の世界が少女を飲み込んだ。摂食障害、自傷行為、援助交際、暴力団、薬物依存、ホームレス。「床を這ってでも生きないかんよ」母の遺言が少女に声をあげさせた・・・「助けて」。</p> <p>■第1部 ずっと助けてと叫んでた（37分） 虐待サバイバーほしおか十色さんの半生を辿りながら専門家がその行動と心理を紐解いていきます。</p> <p>■第2部 助けてと言えない子どもたちのために（26分） ほしおかさんを支えた支援者や、被害者支援に携わる方々を取材。被害者が助けてと声を上げることができる社会にするために、私たちにできることは何か？最前線の現場から学びます。</p>	<p>近年まで、「子ども時代に受けた性暴力被害」は、誰にも言えないタブーでしたが、今、多くの被害者が自身の尊厳を取り戻すために被害を語り始めています。社会はようやく被害の実相に向きあい始めました。本作は、被害当事者の苦しみを知り、支援のあり方を探るドキュメンタリーです。</p>	37分	R元年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)
性的少数者の人権	DVD	ドキュメンタリー	わたしらしく あなたらしく～多様な性を生きる～	<p>男性の身体に生まれ、いまは女性として生きる歌手。自身がゲイであり、性的マイノリティの交流会やイベントなどを運営するNPOのメンバー。大阪市パートナーシップ宣誓証明制度の認証をうけたレスビアンのカップル。女性の身体に生まれ、いまは心身ともに男性として、パートナーと生きる人。いまは笑顔で出演している人達も「差別を受けるのではないか」と悩んだ過去がありました。</p> <p>カミングアウトは求められるものではありません。カミングアウトせずに生きる人があなたのそばにいることを覚えていて欲しいという人もいます。カミングアウトの反対で、本人の承諾無しに性的指向や性自認を暴露する「アウティング」がもたらした事件もありました。</p> <p>求められるのは、カミングアウトをすることが大きな決心を伴うことなく、打ち明けた相手や周りに自然に受けとめられる社会、打ち明けたことで差別を受けるようなことがない社会です。</p>	<p>多様な性が存在することに対する無知や無関心によって生じる差別や偏見。それが根強く残る今の社会で、性的マイノリティの人にとって、本当の自分をカミングアウトすることは容易ではありません。 この作品では、悩みながらも自分らしく生きようとする性的マイノリティの人たちの姿を通して、多様な性が共に生きる社会はどうあるべきかを考えていきます。</p>	38分	R元年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
障がいのある人の人権	DVD	ドキュメンタリー	知りたいあなたのこと ～外見からはわからない障がい・病気を抱える人～	<p>■オープニング こんなマーク知っていますか？ 街中で見かけるヘルプマークやハートプラスマーク、耳マークなど。これらは障がいや病気を持っていることを知らせるためのもの。こうしたマークをつけている人を見かけたとき、私たちはどんな配慮が求められているのでしょうか。</p> <p>■電車や駅で困ること 池崎悠さんはCIDPという難病で、腕や足の力が入りづらい。長時間立っていることがつらい時、優先席に座っていると「若いくせにどけ！」と怒鳴られたことがあった。左手に力が入りづらいがエスカレーターの手すりにつかまりたくても右側を開けるとい暗黙のルールがあるため、右側に立ちづらいという。</p> <p>■職場や学校で困ること 志佐さんはクローン病という難病の症状を抑えるために、日常的に食事制限をしている。宴席では無理をしてつらい症状に苦しんだことも。クローン病は中高生に発症することが多い難病でもある。学校や職場ではどんな配慮が必要だろうか。</p> <p>■脳の病気や障がい 横関さんは、てんかんや発達障がいがある。てんかん発作の時は周りにはどのような対応をとればよいのか。また、発達障がいによりコミュニケーションが苦手な横関さんの母親は「おおらかな気持ちで見守ってほしい。助けを求められた場合はしっかり話を聞いてほしい。」と語る。</p> <p>■エンディング 私たちにできる配慮とは 外見からは分からない障がい・病気を抱える人に対してできることは、まずは相手に対して想像力を働かせること。そのうえで、見守る・声をかける・手伝うなどの配慮を自然に行える社会は、誰にとっても住みやすい社会ではないだろうか。</p>	<p>外見からは分からない障がいや病気を抱えながら日常生活を送っている人は多くいます。一見すると健康そうに見えるので、障がいや病気が周囲に理解されず、辛い思いをすることも多いといます。この作品では、2人の難病患者さんと、てんかんや発達障がいをもつ大学生を取材しました。どんな場面で困っているのか、どんな配慮が求められているのか。外見からは分からない障がいや病気を抱える人の話を通じて、私たちにできる配慮を共に考えてゆく内容です。</p>	21分	R元年度 (2019年度)	R元年度 (2019年度)
高齢者の人権	DVD	ドラマ	なぜ、騙されるのか？ ～高齢者を狙う悪徳商法・詐欺に対処するには～	<p>■なぜ騙されるのか？ 妻に先立たれ、娘家族とともに離れて一人で暮らす鳥山は、「自分は騙されない」と絶対的な自信を持っていた。ある日鳥山は、娘との会話から老後の不安を感じ、今ある老後の資金を増やしたいと考える。そんな時、仮借通債による資金運用の勧誘の電話がかかってくる。元本保証という一文にひかれ契約を交わすが、その後連絡が取れなくなり、鳥山は自分が騙されたことに気付く。娘にも周囲にも相談できない鳥山は、自分でネットを駆使し、相談に乗ってくれそうな税理士事務所を探し出す。しかし担当者からは着手金が必要だと言われ・・・</p> <p>■なぜ高齢者が狙われやすいのか？ ■高齢者を狙う悪徳商法・詐欺に対処するには？ ①知らない業者からの勧誘や電話に応じない ②即断即決しない ③公共の相談窓口を利用する ■家族や周囲の人にも気をつけてほしいことは？</p>	<p>高齢者を狙った悪徳商法・詐欺は巧妙化の一途をたどっており、自治体や警察などでも様々な対策を行っていますが、被害は一向に無くなりません。それにもかかわらず、「自分は騙されない」と考えている人は多く、内閣府の調べでは、高齢者になる程その傾向が強いというデータもあります。この作品では、「自分は騙されない」と思っている主人公が、悪徳業者の巧みな罠にかかっていくドラマを通して、自分だけで判断することの危険性を訴えるとともに、被害に遭わないための対処法と、周囲とのコミュニケーションの大切さを描きます。</p>	23分	R元年度 (2019年度)	R元年度 (2019年度)
外国人の人権	DVD	ドラマ	サラーマット ～あなたの言葉で～	<p>■樫本珠美は介護事業所の責任者。フィリピン人の介護福祉士ミランダが職場に入ることになり戸惑う。何か問題が起きたらどうするのかと夕飯の席で夫と娘の小春に愚痴る珠美。一方、小春は食事中もスマートフォンを手放さず「私だけスルーしたら仲間はずれにされる」とSNSをチェック。</p> <p>■ミランダが担当になった仙田令子という独り暮らしの女性。珠美は初日だけ同行するが、立ち会っていた令子の息子は外国人が担当することに不満をあらわにする。その後も、ミランダの仕事の様子を厳しくチェックするが、注意をするたびに「どうして」と問いただされ、次第にイライラしてくる。</p> <p>■数日後、珠美にミランダから電話がかかってきた。アパートの大家で町内会長の川村と、ゴミ出しルールが守られていないと疑われ揉めたらしい。涙ながらに訴えるミランダを珠美も後押しし、川村は疑ったことをミランダに謝る。</p> <p>■ある日、令子が飼っているインコが逃げ出した。自分の責任でもないのに必死に探すミランダ。家族と離れて暮らしているミランダは、家族に会えない寂しさが痛いほどわかってた。そんなミランダの思いに心を動かされた珠美も行動を起こす。</p> <p>■たすね鳥のチラシと動画をSNSにもアップすることを思いついた珠美。外国語版も作るために川村を通じて地域に住む外国人に声をかけると、たくさんの方が協力的してくれた。小春はクラスに転向してきた中国人を連れてくる。偏見を持たず接する小春の姿を珠美は嬉しそうに見つめる。</p> <p>■無事に発見され令子へ届けた帰り道、ミランダに感謝の言葉を伝える珠美。ミランダのおかげで大切なことに気付くことができた。国が違えば色々な違いがある、でも違うから面白い。深く心を通わせた二人の唄声が夕暮れの空に響いていく。</p>	<p>テーマは「SNS時代における外国人の人権」。訪日外国人の増加や、改正出入国管理法の施行など、外国人の人々と接する機会が増え、職場や地域で共に生きる時代になっています。一方で、文化、言語、習慣などの「違い」や偏見から、外国人が増えることに抵抗を感じている人も少なくありません。また、スマートフォンの急速な普及によって、SNS内でのいじめなどが深刻化し、社会問題になっています。一人ひとりがSNSを利用する際のマナーや配慮について考えていく必要があります。「違い」は壁ではなく、自分自身を成長させ、地域を豊かにする源です。異なる文化の人たちを、共に未来をつくる新しい存在として尊重し、互いに高め合っていく、そんな多文化共生社会の実現を目指しましょう。</p>	36分	R元年度 (2019年度)	R元年度 (2019年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
高齢者の人権	DVD	ドラマ	「やさしく」の意味 ～おばあちゃんは認知症だった～	<p>■きよばあがうるさい 実由は大家族で暮らす小学3年生。同居する曾祖母「きよ」は101歳。「今日は何曜日だね?」と1日に同じことを何度も聞いてくる。実由は、ついきよにキツイ言葉を投げつけてしまう。介護を仕事とする祖母のみえ子は「百回教えてあげてな」と優しく諭すのだった。</p> <p>■きよの得意な習字 認知症のことが少しずつ分かり、ゆっくり根気強く教えるようになってきた実由。実由がやさしく接するときよはとてもしんどそうだった。ある日、きよが実由に習字を披露すると達筆に「希望」の文字を書き上げ、自身に満ちた笑顔だった。</p> <p>■帰りの道がわからない 病院へ行くと言って一人で出かけたきよを見送った実由。きよは夕方になっても帰らず、実由は祖父に頼まれていた「名札カード」渡し忘れていたことに気付く。慌てて街中を探し回るのが見つからず日も暮れてしまった。</p> <p>■変わっていくきよばあ きよはインフルエンザをこじらせ寝込んでしまう。回復してからも笑顔は減り、表情が無くなってきた。そんなきよを戸惑いながらも何とか励まそうとする実由だった。きよの102歳の誕生日を家族で祝う。実由は歌のプレゼント「空より高く」を元気に歌い、大好きなきよばあちゃん笑顔と健康を願って・・・</p>	<p>日本は2025年に65歳以上の約5人に1人が認知症患者になると言われています。認知症という言葉は知られていても、その多くは「どのように接したらよいかわからない」という戸惑いのイメージが先行し、正しく理解されてない現状があります。</p> <p>この作品は、敦賀市で開催された「小中学生の認知症サポーター作文コンテスト」で、最優秀作品に選ばれた『「やさしくする」ということ』という作文を脚色し、ドラマ形式にしたもので、全国の認知症患者、その家族、そして彼らを取り巻く地域社会、一人ひとりが安心して暮らしていくためにできる工夫とは何かを示唆していくものです。</p>	33分	R元年度 (2019年度)	R元年度 (2019年度)
性的少数者の人権	DVD	その他	みんなで考えるLGBTs 第3巻 性的指向と性自認	<p>性的指向と性自認の多様性について社会の関心が高まっています。新聞などマスコミでも取り上げられる機会が増え、多様な性のあり方への理解が広がっています。統計によると、人口の約8%前後がLGBTsであると推定されています。これは30人クラスでいえば約1～2人の生徒が該当することになります。</p> <p>しかし、学齢期の早い段階での教育を待ち望まれているが、教える立場の人自身の正確な知識や理解が追いついていないという現状があります。この作品では、性の多様性を開設し、LGBTsを取り巻く社会の動きなども紹介し、その理解を深めます。</p>		22分	R元年度 (2019年度)	R元年度 (2019年度)
障がいのある人の人権	DVD	ドラマ	お互いの本当が伝わる時 ～障がい者～	<p>①見えない人が見ている景色 山中と藤光がいる店舗企画本部に、視覚障がいのある桜田が配属されることになった。最初は戸惑う山中だったが、テキパキと仕事をこなす桜田を見て徐々に打ち解けていく。ある日山中は、藤光が桜田の着ているマリンスーツの服の色を褒めているところを見かける。山中は、藤光が視覚障がい者に対する配慮が足りないのではないかと考えるが・・・。</p> <p>②本当を伝え合う 山中がエレベーターに乗っていると車いすの吉村が乗ってくる。山中は降りる際に気を利かせたつもりで吉村に先に降りるよう促すが、「いいから先に降りてください」と強い口調で言われ不快な気持ちになる。その話を聞いていた藤光がエレベーターで吉村と乗り合わせて・・・。</p> <p>③弱みが強みに変わる時 伊坂がいるウェブ事業部には、前園という発達障がいのある社員がいる。周りとうまくコミュニケーションが取れない前園は、部長からも良く思われていない。ある日、前園が落ち着かない様子だったので伊坂が声をかけると、「ここでは集中できません!」と言って、思いつめた顔で席を立ち部屋を出ていく。追いかけて理由を聞くと・・・。</p> <p>④医学モデル・社会モデル 山中と藤光は、桜田と吉村との食事会のために、ロビーで待ちながら立ち話をしている。障がいとは何かを考える際には、「医学モデル」と「社会モデル」があるという話になる。</p>	<p>雇用分野に関して改正障害者雇用促進法が、雇用以外の分野に関して障害者差別解消法がそれぞれ施行され、事業者・事業主に対して、障がい者に対する「不当な差別的扱いの禁止」と「合理的配慮の提供義務」が定められました。</p> <p>しかしながら、障がいのある人に対する差別は解消されたとは言えず、また、自分が意図せずとも相手を傷つけているケースも少なくありません。</p> <p>「障がいのある人をどう助ければいいのかかわからない」という声をよく耳にします。本作では障がいのある人が、どんな場面で困っているのか、どんな「バリア」があるのかなどの具体例を挙げ、それをどう取り除いていけばいいのか、また障がいのある人から発信することの重要性も示しています。</p> <p>「障がいのあるなしに関わらず皆で共生していくためにはどうすればいいのか」を考える一助となれば幸いです。</p>	24分	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
高齢者の人権	DVD	その他	はじめて認知症の人に接するあなたへ	<p>■記憶障がいの特徴 認知症の記憶障がいは「物忘れ」とは異なります。体験したこと自体を忘れ、また、新しい記憶から順に失われていきます。記憶障がいの特徴を知っていれば、一見不可解な言動でも、その理由を推測できます。</p> <p>■そのほかの症状 時間や場所を認識できなくなったり、物事を判断する能力の低下、段取りを考えて実行する能力の低下も、症状として現れます。</p> <p>■認知症の人の気持ち 認知症の人は何も分からないのではありません。誰よりも早く異変に気づくのは本人自身。不安な気持ち、辛い思いを理解することが良い接し方につながります。</p> <p>■何度も同じことを聞かれたら 直前に質問したこと自体、本人は覚えていません。何度でも答え、話題を変えたりして別のことに関心を向けさせましょう。話を合わせて演技することも必要です。</p> <p>■「家に帰る」と言い出したら 今ここに住んでいることを忘れて「家に帰る」と言い出す・・・これは認知症の人によく見られる行動です。説得しようとせず、本人の世界に合わせて自然な態度で接しましょう。</p> <p>■介護は合わせ鏡 強い態度で接すれば強い反応が、優しく接すれば穏やかな反応が返ってきます。また、本人のプライドを尊重し、子ども扱いしないことも大切です。</p> <p>■まちで認知症の人を見かけたら 徘徊と思われる人を見かけたら、さりげなく様子を見守り、不安を感じたら声をかけてあげましょう。あなたの行動が命を救うことにつながるかもしれません。</p>	<p>はじめて認知症を学ぶ方々を対象としたDVD教材です。「症状についての正しい理解」と「認知症の人への接し方の基本」の2点に内容をしぼり、認知症についての基礎知識を学んでいきます。専門用語を使わない誰にでも分かりやすい解説と、大切なポイントに気づかせる適切なハウツー映像で、正しい知識を自然と身につけることのできる、入門編として最適な内容の教材です。</p>	19分	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)
子ども・若者の人権	DVD	ドラマ	君が、いるから	<p>■母親からの心理的虐待に悩む予備校生の水越奏。自由な買い物さえ許されず、自分の好きなものを自分で買うことに憧れていた奏は、予備校からの帰り道、思い切ってコンビニエンスストアに立ち寄る。そこで店員の中井欣子から店の手伝いを頼まれる奏。初めての仕事に戸惑いながらも喜びを感じた奏は、母には内緒でアルバイトとして働くことに。</p> <p>■1か月ほどたったある日、一組の母娘が来店する。機嫌が悪い母の優奈は、棚のお菓子を落とした娘の真凛を大声で怒鳴りつける。叱られる真凛の姿に自分を重ねてしまった奏は、過換気症候群に陥ってしまうが、来店していた救急救命士の榎山亮平に助けられる。</p> <p>■この店は亮平にとっても特別な場所だった。中学の頃、親の離婚や学校でのいじめが原因で非行に走っていた亮平は、欣子や店の常連で民生委員の武田謙三が世話を焼いてくれたことで更生できた。そして自分も人の役に立ちたいと思い、救急救命士を志した。亮平との会話で、心が安らぐのを感じる奏。</p> <p>■ついに奏のアルバイトが母・ゆかりに気付かれてしまう。激怒し、強引に辞めさせようとするゆかりに反発する奏。ゆかりの心無い罵りの言葉に大きなショックを受けた奏は家を飛び出し、夜の街を呆然と彷徨う。その足は自然と欣子の元へ。子どものように泣きじゃくる奏を欣子は優しく励ます。</p> <p>■数日後、真凛が一人でコンビニにやってくる。以前から真凛のことを気にかけていた奏は、その様子を不審に思い、話を聞いてみようとする。奏に心を開いた真凛は、奏を自宅へと案内する。そこには夫からのDVによって怪我をし、倒れている優奈の姿が。驚き、戸惑いながらも、奏は母子を助けるべく無我夢中で行動する。</p> <p>■保護された真凛から感謝のメッセージが奏に届く。奏の勇気ある行動をねぎらう欣子たち。そんな奏の胸には自分で見つけた自分だけの夢が生まれていた。奏は母親と向き合う決意をし、自宅への道を歩いていく・・・。</p>	<p>作品のテーマは、「子ども・若者の人権」です。子どもや若者は、社会の希望であり、未来をつくる存在です。しかし、現実を顧みると、子どもや若者が被害者や加害者になる悲痛な事件が後を絶ちません。今この時も虐待やいじめなどにより人権を侵害され苦しんでいる子どもや若者が「すぐ隣り」にいることに、私たちは気づかなければなりません。</p> <p>この作品は、母親からの心理的虐待に悩む若者「奏」が主人公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感の低い彼女も、コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々とのふれあいを通して新たな価値観に気づいていきます。ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描きます。</p> <p>子どもや若者が社会的に成長し自立していくために、人と人とが関わり支えあいながら希望の種をまいていく、そんな社会の実現をめざす人権啓発ドラマを制作します。</p>	33分	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたい(番外編) 「恥ずかしい」のはどっちだ 差別する側・される側 ～江嶋修作～	<p>■原点は狭山事件だった 社会学者として狭山事件に関わったことが部落差別問題との出会いだった。聞き取り調査を通して生まれた思い。それは、差別問題への関りは“情と共感”抜きに成り立たないという確固たる信念だった。</p> <p>■一貫して変わらぬ視点 1985年、一冊の本が出版された。やがて多大な影響を及ぼすことになった江嶋修作編「社会「同和」教育変革期」だ。新しい人権教育への熱い思いを込めて、「変革期」に「つくりかえ」とルビが打たれた。</p> <p>■人権テイク・ルート（根を張る） 2018年10月、「人権テイク・ルート」の初総会。江嶋修作を敬愛するたくさんの老若男女が全国各地から駆けつけた。「差別は醜いこと」だから「カッコよく」生きる。江嶋修作の撒いた芽が開こうとしている。</p>	<p>種拙な人権教育を批判するときに誰もが一度は口にするタテマエ・タテジワ・タニンゴト。劇唱したのは、社会学者の江嶋修作（77）だ。40年に亘り人権教育の変革を訴え続け、意識革命の端緒を開くとともに、多くの青年たちも育てた。今、江嶋が提唱するのは「人権テイク・ルート（根を張る）」だ。各地に「人権の根を張って生きる」個人をつなぐ取り組みだ。部落差別解消推進法の施行後の今、新しい解放教育とは？</p>	27分	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
障がいのある人の人権	DVD	ドラマ	障がいのある人と人権 ～誰もが住みよい社会をつくるために～ 【平成30年度法務省委託人権啓発教材】	①オープニング ②障がいとは？ ③障がいのある人が直面する人権問題 ・高校への進学を希望する障がいのある生徒の事例 ・盲導犬を連れて視覚障がいのある人に対する入店拒否の事例 ・障がいのある人の意向が十分に尊重されなかった事例 ④誰もが住みよい社会をつくるためには 「心のバリアフリー」を中心に差別の解消に向けた取組を紹介しながら、私たちに何ができるかを考えていきます。	ユニバーサル社会とは、障がいの有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することができる社会の事です。 障がいのある人もない人も誰もが住みよいユニバーサル社会をつくるためにはどうしたら良いでしょうか。 本DVDは、障がいのある人が直面する人権問題やその問題を解決するための取組などを具体的に紹介し、「障がいのある人と人権」について考えていきます。	33分	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたい(第31巻) ありのまま生きる ～坂田愛梨・瑠梨～	①寝た子を起こす 「寝た子を起こすな」で始まり「寝た子を起こす」で終わる部落差別問題。それを間近に見聞きしてきた姉妹は、「寝た子を起こす」活動を無理せず軽やかに積み上げる。 ②逃げればいい。嫁(か)わ)せばいい 差別との闘いを教えたのは、江嶋修作先生だった。「圧倒的な力で差別してくる相手には、逃げればいい。嫁せばいい。しなやかに生きることが大切なんだよ」 ③母から娘へ、そして子へ 母から受け継ぐ「ありのまま生きる」姿が幼い頃から姉妹の自尊感情を育んだ。たくさんの仲間をつくり、つながりを結び、プラスの出会いを重ねていく。幼子にも部落にルーツをもつ「私」を伝えていく。	愛梨(25)・瑠梨(24)、7年ぶり2度目の登場。母から受け継いだ「ありのままに生きる覚悟」。就職・結婚・出産を経た今、伝えるべきことは？仲間、つながり・・・部落差別問題をはじめとする人権問題を考えることが「生きる力」を育んだ。	24分	H29年度 (2017年度)	H29年度 (2017年度)
高齢者の人権	DVD	ドラマ	防ごう高齢者虐待 ～日常の介護から考える～	①妻の介護をする夫の場合～老老介護の現場から～ 山田直美の母、幸子は認知症を患っており、幸子の夫、勇が在宅介護をしている。会社で働いている直美のもとに、ケアマネジャーの安住から連絡がきた。勇が幸子に暴力をふるっているかもしれないというのだ。直美が勇に事情を聞いて、見えてきたのは…。 ②母を介護する娘の場合～認知症介護の現場から～ 勇の負担を減らそうと、幸子の介護を手伝う直美。しかし認知症が病気がとわかっていても、苛立ちからつい暴言をはいてしまう。 ③母の介護をする息子の場合～介護と仕事の間で～ 直美の後輩、小林哲也は独身で働きながら、認知症の母、和子と同居をしている。深夜に頻繁に息子を呼ぶ母親に振り回され、哲也は睡眠もままならず、仕事にも悪影響が出る。ある夜、突然異物に出かけようとする和子を止めようと、もみ合っているうちに、哲也は和子に手を上げてしまう。 ④高齢者虐待を起こさないために 直美と哲也が訪れたのは、地域包括支援センター。直美は介護の悩みや相談があるところを訪れ、色々と助けられてきた。この日は高齢者を介護している家族の会が行われており、みんな楽しそうに話している。家族の会で語り合う中、直美と哲也は、新たに介護に向きあう思いを抱いていく…。	高齢化の進む現代社会において、親や年配いた夫・妻の介護は、多くの人にとって避けて通れない問題となっています。思い通りにならず、弱い立場の高齢者を心ならずも虐待してしまうことは、誰にでも起こりうるかもしれません。本作品では、働きながら認知症の親の介護をしている2つの事例を、老老介護の話も含めドラマで描いていきます。どのような場面で虐待をしそうになるか示すことで、視聴者が虐待発生を未然に防ぐにはどうすればいいかを考え、理解できることを目的に制作しています。	28分	H27年度 (2015年度)	H29年度 (2017年度)
性的少数者の人権	DVD	ドラマ	誰もがその人らしく ～LGBT～	①LGBT(性的少数者)に対するセクシャルハラスメント 会員の蓮尾沙奈は仕事も熱心だが、人権についても興味を持っている。ある日、部長の鳥飼研治が沙奈の先輩社員である正岡紀明が結婚する話題で性的少数者を揶揄する発言をする。また、別の日には、部長が無神経に、沙奈を「女子力の低さ」という言葉でからかってくる。紀明は、部長に、その発言はセクシュアルハラスメントにつながると注意する。LGBTの人をからかうような仕事や言葉などは、セクシュアルハラスメントにつながるのだ。 ②性のグラデーション 沙奈がいつも覗く花屋には、さわやかな男性店員がいるのだが、ある日、その店員が女性のように薄い化粧をしていることに沙奈は驚く。会社で同僚の森笑里とそのことについて話題にする。LGBTをテーマにした社内の人権研修に参加した笑里は、LGBTの割合が、一説によると左利きの人と同じくらいだということを語ると、部長も反応をみせる。セクシュアリティーはグラデーションになっており、どこからどこまでがLGBTと明確には分けられないということ、沙奈も理解していく。 ③カミングアウトとアウティング ある日、沙奈は、紀明が男性とデートしているのを目撃する。紀明は、しばらく会社を休んだ後、出社してきて沙奈と笑里を屋上に誘う。紀明は、自分がゲイであることを二人に告白する(カミングアウト)。学生時代に、仲のよい友達に悩んだ末に自分がゲイであることを打ち明けたら言いふらされたこと(アウティング)がトラウマになっていて、今もそれを恐れていたとのこと。しかし、沙奈が言いふらさなかったことで沙奈に信頼をよせた。カミングアウトすることは本人が決めることで、他者が本人の確認をとらずにアウティングすることは大きな人権侵害につながる。 ④誰もがその人らしく 紀明はシンガポールに赴任することになる。笑里と沙奈はアライ(LGBTの理解者)になり、社内の風土をかえていくことを宣言する。部長も、自分が左利きで無理な矯正をさせられた思いを語り、少しずつ、LGBTについての理解を深めていく。沙奈は、花屋で男性店員と交わす会話の中から、違いを認め合い、誰もがその人らしく生きることの大切さを改めて見出ししていく。	この作品は、主人公の周りにいざいざ見えないLGBT(性的少数者)の人達が見えてくるストーリーです。LGBTの人達に対する社会の偏見はまだ強く、存在していてもなかなか見えない、その存在を見いだすのが現状です。しかし、各種の統計からも明らかのように、LGBTの人達は確かに存在し偏見や差別に苦しんでいます。このDVDを視聴したあなたの身近にもそうした人々がいるかもしれません。LGBTの問題は他人事ではなく、タイトルにあるように、誰もが自分らしく生きることと考えていくうえで、あまねく全ての人々に関わりのある問題だと思えます。LGBTの人を別のカテゴリーの人と見ずに、自分とも続く性のグラデーションの中で、たまたまその位置にいる人々というふうにご覧いただければ、LGBTの人達への見方も広がり、誰もが生きやすい社会をつくる一歩になるのではないのでしょうか。	20分	H29年度 (2017年度)	H29年度 (2017年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
女性の人権	DVD	ドラマ	あした咲く	<p>外食チェーンのお客様相談室で働く風間茜は、父の稔と二人暮らし。ある日、東京で専業主婦をしている茜の姉の翠が、娘の葵を連れて突然帰ってきた。家事と子育ての大変さを語る翠に対し、「専業主婦はまだ気楽でしょ」と口走る茜。その言葉をきっかけに二人は口論、風間家にまますい空気が流れる。翌日、お客様相談室では、子連れのお客を非難する投書が話題に。また、産休直前の課長・玉城愛子が病院に寄ってから来ることを受けて、室長の糸島洋治は辛辣な態度。会社の制度は整っていても、平気でハラスメント発言をする上司に呆れる茜。</p> <p>翠を息抜きさせるために、茜は葵を預り公園へ、そこで子どもの扱いに長けた青年・立花真澄と出会う。立花は二年前に亡くなった稔の妻・多佳子と一緒に園芸ボランティアをしていたという。茜は、立花が最近スタートさせた「まちの子育てひろば」のチラシを受け取る。休日、わかまわりを払拭すべく、茜は翠を誘って外出し、話を聞き出す。</p> <p>翠は家事に非協力的な夫・健太郎からの心無い言葉に深く傷つき、家を出てきた。自分にはない視点を持つ翠の話を聞いて、視野の狭さを痛感する茜。二人が帰宅すると葵が健太郎に電話をかけていた。娘にも辛い思いをさせていたことに気づき、ショックを受ける翠。明るくて大らかだった母のようにはならないと落ち込む翠に、茜は保管していた離婚届を見せる。仕事人間だった稔の自分勝手な言葉に傷ついた多佳子はかつて離婚を考えたことがあったというのだ。母一人で悩んでいたことを初めて知る茜と翠。</p> <p>葵の提案で、立花のいる「まちの子育てひろば」を訪れる茜たち。立花は自分がLGBTであることを告げ、多佳子に声をかけてもらったことで、地域に溶け込むことができたことと語る。翠と稔との対話や、地域の活動に触れたことで、自分の視野の広がりを実感した茜は、会社に新たな提案をする決意をする。そして、翠もまた夫と向き合うために行動を起こして・・・。</p>	<p>女性が輝く社会の実現に向けて、平成27年8月の「女性活躍推進法」成立をはじめ、これまで様々な取り組みが進められてきました。しかし、現状は、職場や地域における女性の能力発揮のための環境整備や意識改革は必ずしも十分ではなく、また、女性の家事、育児、介護における負担も多い状況にあります。さらに、ドメスティック・バイオレンス（言葉の暴力を含む）やハラスメントなどの女性に対する人権侵害も生じています。これらの問題は、女性が輝いて生きるための大きな障壁となっています。このため、私達一人ひとりがこのような課題に目を向け、性別に関わらずその個性と能力を十分に発揮し、ともに輝ける共生社会を目指していかなければなりません。この作品には、生き方の異なる姉妹が登場します。独身会社員の妹・茜と、専業主婦の姉・翠。それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えています。姉妹の対立や父との対話、そして、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。「幸せ」の形は十人十色です。自分で自分の生き方を選択し、女性はもちろん全ての人が「自分の花」をイキイキと咲かせることのできる、多様性尊重社会。その実現を目指すきっかけとなる人権啓発ドラマです。</p>	36分	H29年度 (2017年度)	H29年度 (2017年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	<p>企業と人権 ～職場からつくる人権尊重社会～</p> <p>【平成29年度法務省委託人権啓発教材】</p>	<p>①企業にとって人権とは ②ハラスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーハラスメント（ドラマ） ・セクシャルハラスメント（ドラマ） ・インタビュー、取組事例紹介 <p>③LGBT（性的少数者）に対する差別・偏見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LGBT（ドラマ）、取組事例紹介 <p>④障がいのある人に対する偏見・差別（取組事例紹介）</p> <p>⑤外国人に対する偏見・差別（取組事例紹介）</p> <p>⑥えせ同和行為</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えせ同和行為（ドラマ）、インタビュー <p>⑦エンディング</p>	<p>近年、長時間労働による過労死、セクハラやパワハラなどのハラスメント、さらには様々な差別に関わる問題などが社会の注目を集めています。こうした「人権問題」への対応は、時として、企業の価値に大きく関わります。そのため、人権尊重の考え方を積極的に企業方針に取り入れられたり、職場内で人権に関する研修を行う企業も増えてきています。</p> <p>企業が人権を尊重することの重要性は、国際的にも浸透しています。例えば、1999（平成11）年、国連が提唱した「グローバル・コンパクト」の中でも、人権の尊重が大きく位置づけられており、160か国以上、13,000の企業や団体が参加しています。さらに、2011（平成23）年には、国連で「ビジネスと人権に関する指導原則」が策定され、世界中の企業や団体に影響を与えています。</p> <p>今、企業は人権をはじめとするさまざまな社会的責任について、率先して対応していくことが求められています。</p> <p>本DVDは、企業がなぜ人権に取り組む必要があるのか、企業が関わる主な人権課題にはどのようなものがあるのか等について、対処のポイントや先進事例を含め、分かりやすく解説しています。</p>	40分	H29年度 (2017年度)	H29年度 (2017年度)
部落差別問題	DVD	ドラマ	そんなの気にしない	<p>香坂丈史と佐藤光太は、高校時代のサッカー部のチームメイトで親友だった。高校を卒業した後、丈史は東京の大学に進学し、今は住宅販売会社のリフォーム部門で働いている。入社6年目の今年、丈史は東京本社から故郷の町にある支店へと異動した。ある日、光太が自宅のリフォームの相談をするために丈史の勤めている支店を訪れた。不意の再会を二人は驚く。二人は、高校を卒業してからお互いに連絡を取っていなかった。丈史は、卒業式の前日にランドで光太と話をしたことを思い出す。東京に行く丈史に光太は、自分が被差別部落の出身であることを告げる。それに対し、光太は、丈史への思いやりととまどいを同時に含むように「そんなの気にしない」と答えた。その言葉を最後に、二人の間に言葉が交わされることがなかった。</p> <p>丈史は、職場で上司や職場の同僚と話をしながら、自分がかつて光太と交わした言葉の意味を改めて考える。そして、光太に会いに行くことを決意する。</p> <p>10年前、卒業式の前日に会話を交わしたランドで、光太は水をまいてランドを整備していた。丈史は光太に話しかける。あの時、どうして自分は「そんなの気にしない」と言ったのか。なぜその先の光太の話を聞けなかったのか。光太も答える。「光太は光太、何も変わらない」という意味で丈史が言ってくれたということが、今ならわかる。しかし、あの時には丈史が自分に無関心なのだとさえ、悲しかったのだと。再会した二人は、離れてしまったお互いの距離を埋めるよう、言葉と言葉を重ねていく。</p>	<p>人権問題は難しい問題ととらわれがちですが、実は身近な生活のなかに潜んでいます。日常のなにげない一言や行動の中にその芽があります。人権の基本は、相手を思いやり大切にすること、そして、自分の尊厳も守り大切にすることです。こうしたことは、「人権」だとあらためて考えなくても、私たちの日常生活や社会生活の上で意識していきたいものです。このシリーズは、テーマごとの人権課題をとりあげ、その人権課題をドラマで掘り下げていくことで、そこにある人権を意識し、気づき、そして視聴者それぞれが、明日の自分のために一歩ふみだせるよう工夫し、構成したものです。</p> <p>この作品は、二人の友だち同士が主人公です。タイトルの「そんなの気にしない」は、親友に自分が同和地区出身だということを告白したときに返ってきた言葉です。告白したほうは、相手にもっと知って欲しかった。告白されたほうは相手も、そのままの相手でも何も変わらないことを伝えたかった。しかし、その一言がきっかけで二人はすれ違っていきます。フランスのイメージを持っていることに、人は「気にしない」とは言いません。「気にしない」という言葉の底には、そのことをマイナスに見る意識があるのかもしれない。私たちが普段になげなく使う言葉や態度のなかには、相手を傷つけるものがあるのかもしれない。そして、壁を乗り越えるのもまた、相手を信じる力だということを作品で伝えたいと思います。</p>	17分	H28年度 (2016年度)	H28年度 (2016年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
高齢者の人権	DVD	ドラマ	認知症と向き合う	<p>認知症の文乃は夫と死別後、娘夫婦(春樹・翔子)や孫娘(樹里)と同居することになる。しかし、ひどい物忘れや徘徊、家族への暴言・暴力といった症状を現す文乃に家族は振り回され、ばらばらになってしまう。そんなとき、春樹は立ち寄った喫茶店で格別においしいコーヒーを飲み、感動する。しかも、マスター(茂)の妻(節子)から、「夫は3年前から認知症です」と言われてびっくりする。節子は春樹に次のような話をする。「認知症って、確かに色々な事を忘れちゃうし、大変な事もいっぱいある。でも、その人であることに何も変わりがないのよ。大切な事はちゃんとして(胸)で覚えてる。悲しかったり、嬉しかったり、他の人と同じように一生懸命生きてるの」春樹が帰宅すると、翔子と樹里が打ち沈んだ表情をしていた。春樹は樹里から一冊のノートを渡される。その中には、家族の誰もが気づかなかつた文乃の思いが散りばめられていた…。</p> <p>後日、節子に誘われ参加した「認知症カフェ」で、春樹と翔子は、認知症の専門の杉山孝博医師の講演を聞く。「まず正しい知識を持つことです。認知症の人の世界や気持ちを理解すれば、介護者の苦労は減り、患者さんの症状も改善され、互いに良い関係を築けるようになります」杉山医師は、基礎知識として次の3つを提示する。●記憶になければ本人にとって事実ではない●本人が思ったことは、本人にとって絶対的な事実●認知症が進行しても、プライドを持ち続けよう</p> <p>講演を聞きながら、春樹と翔子の頭の中では、文乃の以前の言動がフラッシュバックする。「あの時の行動は、そう いうことだったのか」と、思わず納得する二人。ある日の夕食。献立は、やはりカレー。しかし、今度はうまく受け入れようになった。認知症を理解しようとし、文乃の気持ちに寄り添っていく春樹と翔子と樹里。文乃の表情にも笑顔が戻る。その笑顔は春樹たちの心をも温めるのであった。</p>	<p>高齢化の進展に伴い、認知症の人が今後、更に増加することが予測されています。一方で、多くの人たちが認知症に対して知識不足であり、偏見を抱いているのではないのでしょうか？確かに認知症の人の行動は不可解であり、その気持ちや行動の理由を理解するのは大変なことです。しかし、認知症の人の立場に立てば、どんな行動にも本人なりの理由や思いがあります。健康な人の常識で認知症の人の言動をおかしいと判断し、改めさせようとするのが、介護する家族と認知症の人の両方を苦しめてしまいます。大切なのは、認知症の人が楽にいる世界を理解し、尊重することなのです。</p> <p>本作品は、認知症によくみられる症状、認知症の人の思いと家族の気持ちの変化、症状の理解、介護者の交流の大切さなどを描いたドラマ教材です。認知症の人もその周囲の人も、よりよく生きていけるように、認知症について正しい知識を持ち、認知症の人の視点に立つて、認知症への理解を深めることを目的に制作しています。</p>	30分	H28年度 (2016年度)	H28年度 (2016年度)
障がいのある人の人権	DVD	ドラマ	風の匂い	<p>渡辺正人が働くスーパーに、知的障がい者である森野歩が配属される。店長の犬塚は即戦力が欲しかったと嘆くが、正人は、すぐに小学校の頃の親友、歩だと気づく。しかし、余計な仕事を増やされたくないという思いから言い出せない。</p> <p>ある日、車椅子の客、茅乃が高い棚に置かれたワインを取ろうとするが、その対応を正人が後回しにしたことで、ワインが割れてトラブルに。言い訳をする正人に犬塚は「障がいのあるお客様への合理的配慮について」と書かれた資料を渡すが、正人はどこか他人事。道の端みに車椅子の車輪がはまった茅乃を、歩が助けたことをきっかけに、二人は仲良くなる。茅乃に仕事ぶりを褒められた歩は、誠心誠意働き、次第にスーパーの同僚にも認められていく。歩以外の店員も販促イベントである北海道フェアを控え盛り上がりつつ…。しかし、翌朝、歩は北海道フェアによって変更された店内のレイアウトに混乱し、皆が必死に準備した特設コーナーを撤去してしまう。気づいた正人は店員に責められた歩は、過去に虐待された時の記憶が呼び起こされ、その日を境に出社しなくなってしまった。歩を解雇しようとする犬塚に驚いた正人は、歩の家に足を運ぶが、歩は心を閉ざしていた。悩む正人は、歩の机に20年前のラジオ体操の出席カードを見つけた。あの頃の自分にあって、今の自分が無くしてしまったもの…歩の為に、正人は動き出す。犬塚に直談判する正人だが、犬塚は、障がい者である歩と自分達の間には壁があると、聞く耳を持たない。正人は、壁を作っているのは自分達の方ではないかと訴え、障がい者就業・生活支援センターのジョブコーチ、竹村に来てもらうことを提案する。竹村の指導の下、仕事の伝え方や店内の様子を歩と一緒に確認していく店員たち。大切なことは、どうすればうまくいけるか、一緒に考えて、一緒にやってみよう。店員だけでなく店全体が良い方向に向かう姿を前に、犬塚の心にもやがて変化が。そして正人も歩に隠していたことを伝えようと決心する。</p>	<p>平成28年4月に「障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律」が施行されました。この法律では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。障がいのある人は社会の中にあるバリアによって行動の制限や不当な扱いを受けるなど、生活づらい状況におかれることがあります。このバリアは物理的な問題だけではなく、障がいのある人への差別意識や知識不足からも生まれています。私たち一人ひとりが意識を変えて、「バリア=壁」をなくしていかなければなりません。</p> <p>本作品は、スーパーマーケットで働く青年、歩と正人が主人公です。歩には知的障がいがありますが、子どもの頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になった二人を隔てる健常者と障がい者という壁。その壁を作っているのは誰なのか。二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある『合理的配慮』についても触れ、見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなるドラマ教材です。</p>	34分	H28年度 (2016年度)	H28年度 (2016年度)
さまざまな人権問題	DVD	アニメ	光射す空へ	<p>大学生の有吉朝陽には、悩みがある。父の和正が若年性認知症と診断されたのだ。和正は会社を休職中。母の典子は明るく振舞っていたが、朝陽は記憶や理解力を失っていく父に苛立さを隠せない。何でも話せる幼なじみの颯太だけが心の支えだ。その颯太もまた、生きづらさを感じていた。</p> <p>朝陽は大学の同級生・優海と共同で「自分がよく知らない人権課題」について調べ、レポートを書くことになった。2人が選んだ課題は、「部落差別問題」。何の知識もない朝陽はインターネットで部落差別問題の歴史や現状について調べると、情報の中には同和地区の人々に対する誹謗や中傷もあり、何が真実なのかわからない。朝陽と優海ともに偏見に惹かれず、自分自身で正しく知ることに、人と向き合うことの大切さを学ぶ。</p> <p>夜中に和正が家から姿を消した。颯太とともに、公園にいる和正を見つけた朝陽は、そこで認知症になっても失われぬ、父の誇りと愛情を知るのだった。和正は職場の理解を得て仕事に復帰。朝陽と典子は家族として和正に寄り添い、胸を張って生きていく決意をする。</p> <p>颯太は突然、優海に自分がLGBTのT、トランスジェスターであることを告白する。これまで打ち明けたのは朝陽だけ。自分の家族にすら言えなかったことだ。優海に告白したのは、「普通」とは少し違う自分の事を他の人に理解してもらうための第一歩だ。優海は戸惑いつつも、颯太という人間をあるがままに受け入れる。そんな優海を見て、朝陽も父のことを打ち明けるのだった。</p> <p>梅雨が明け、空に光が射す頃。人権課題に関するレポートを提出する朝陽と優海。それを読む井上教授の顔に笑みが浮かんだ。</p>	<p>同和对策審議会答申が出されて50年。その間、国や地方自治体等で様々な取り組みが行われ、生活環境は大きく改善されました。しかし、被差別部落と呼ばれる地区の出身者や住民に対する差別は形を変えて根強く残っています。また、まだ十分に認識されていない人権課題として、性同一性障がいや性的指向における少数派の人々、若年性認知症と診断された人々に対する誤解や偏見もあります。</p> <p>この映画では、大学生たちの悩みと学びを通して、「正しい知識と理解」、「多様性の受容と尊重」の大切さを描いています。登場人物たちとともに、誰もが人権を尊重され、自分らしく生きていける社会について考えていただければ幸いです。</p>	32分	H28年度 (2016年度)	H28年度 (2016年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
外国人の人権	DVD	ドラマ	外国人と人権 ～違いを認め、共に生きる～ 【平成28年度法務省委託人権啓発教材】	①オープニング ②家庭・地域で見られる偏見や差別（ドラマ） 住宅街のごみ集積所、地域の住民が、2か月前に越してきた外国人の家族についてうわさをしている。ゴミ出しのルールや、夜の大声などの問題で迷惑になっているというのがその内容だ。 住民は大家に苦情を言いに行く。しかし、実際に会って話をすることで、誤解が解け、少しずつ外国人一家と地域住民は打ち解けていく。 ③職場で見られる偏見や差別（ドラマ） 日系ブラジル人3世のカルロスは、日本語は片言程度しか話すことができない。1か月前から金属加工工場で働いているが、言語がつかないことで、職場でコミュニケーションを取るのが難しく、仕事もなかなか覚えられない。職場で物がなくなっても、カルロスが疑いの目で見られるなど、孤立していた。そんなある日、カルロスが職場だけがをした先輩を助けたことがきっかけとなり誤解が解け、日本人の同僚と親しい関係になっていく。 ④ヘイトスピーチ（ドラマ） 正訓は在日韓国人の4世。中学2年生だ。地元の高校に通い友人にも恵まれている。そんなある日、インターネットでヘイトスピーチの映像が流れるのを正訓は目にする。憎悪にあふれる動画がアップされているのを見て、正訓は恐怖を感じ、見えない陰におびえるようになり、学校に行けなくなってしまった。友人の彰人は、正訓を励まそうとクラスメイトとともにメッセージを伝える。 ⑤多文化共生社会をめざして（解説）	日本には、平成27年12月現在で200万人以上の外国人が住んでおり、日本を訪れる外国人も年間1900万人を超えるなど年々増加しています。異文化との出会いは日常的なものとなっており、誰もが地域や学校、職場で外国人と接する機会があるといえます。異なる文化が共存することは、社会に様々な価値観をもたらし、より豊かな未来を築くことにつながります。しかし、その一方で、言語や宗教、文化の違いが外国人と日本人の間に摩擦をもたらし、外国人の人権が侵害されるケースもあります。ヘイトスピーチと呼ばれる、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動も生じています。 本DVDは、外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切に人権尊重の社会をつくりあげるために何ができるかを考えるものです。外国人に対する偏見や差別をなくし、皆が住みよい社会を築くために私たちにどのようなことが問われているか学んでいきましょう。	33分	H28年度 (2016年度)	H28年度 (2016年度)
その他	DVD	ドラマ	インターネットと人権 ～加害者にも被害者にもならないために～ 【平成28年度法務省委託人権啓発教材】	①オープニング ②下着姿の画像を送信してしまった事例（ドラマ） 高校1年生の麻里絵の家に、クラスメイトの美由、香奈が泊まりに来る。三人は、家の玄関先や夕食の様子、部屋の中などもスマートフォンのカメラで記念撮影する。香奈にはSNSで知り合った“愛ちゃん”というネット上の同い年の友達がいる。香奈は、“愛ちゃん”の言葉巧みな要求に応じ、自画撮りした下着姿の写真を送信してしまう。しかし、“愛ちゃん”は実は、女子高生を装った30歳代の男であった。その写真を口実に、香奈は男から実際に会うように脅される。それを香奈は拒否するが、男は憤慨する。そして、香奈の下着姿の写真がネット上に公開されてしまう。 ③インターネットの落とし穴（解説） ④無断で個人情報やインターネット上に公開してしまった事例（ドラマ） 麻里絵は、ネット上の美由の日記にお泊りのときの写真が掲載されているのを見つける。麻里絵は無断で写真を掲載したことを抗議するが、美由は取り合おうとしない。ある日、麻里絵のスマートフォンに見知らぬ男からのメールが届く。男は、麻里絵の学校や塾をネット上の写真の情報から割り出しつきまとい、自宅の前で待ち伏せするようになる。それを知ったクラスメイト達は、原因を作った美由を無視する。しかし、麻里絵の写真やメールアドレスがネット上に掲載されたのは、クラスメイトの俊太の軽い気持ちでの書き込みが発端だった。 ⑤加害者にも被害者にもならないために（解説） ⑥インターネットの危険性（ドラマ）	我が国のインターネット利用人口は年々増加し、「平成27年通信利用動向調査」（総務省）によると平成27（2015）年末のインターネット利用者数は1億46万人（人口普及率83.0%）となっており、私たちの生活を豊かにするとともに欠かすことのできないものとなっています。 しかしその一方で、インターネットの匿名性を悪用した他人への誹謗中傷、根拠のない無責任な噂、個人情報の無断掲載、差別的書き込みなど、人権やプライバシーの侵害につながる行為は後を絶たず、近年特にネットいじめや子どもたちをターゲットとした犯罪が大きな社会問題になっています。 また、インターネットに関する知識や意識が十分でない中学生や高校生は、被害者になるだけでなく、意図せず加害者にもなることも少なくありません。 本DVDは、主に中高生やその保護者、教職員を対象に、インターネットを利用するうえでの危険性や、安全な利用法・対策について、わかりやすくまとめています。	30分	H28年度 (2016年度)	H28年度 (2016年度)
その他	DVD	アニメ	わたしたちが伝えたい、大切なこと ～アニメで見る全国中学生人権作文コンテスト入賞作品～ 【平成28年度法務省委託人権啓発教材】	■差別のない世界へ 中学生である主人公が、自らの経験を通して差別される側の心の痛みを知り、父の言葉を思い起こして差別に立ち向かう勇気を得る経緯を描きます。 ■手伝えることはありませんが 事故で右手を失った父に対して「何でもやってあげよう」と考えた主人公ですが、実際の父との暮らしのなかでやがて大事なことに気付きます。 ■共に生きるということ 主人公が、人権学習の講師として来た視覚障がいのある小林さんの言葉を聞くことで、自分が今まで持っていた障がいのある人＝弱者という考え方が変わっていく過程を描きます。	「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品に基づいて制作され、どの作品も日常生活の中で「人権」について理解を深めていった気付きのプロセスを描いています。 入賞作品を原作とした3つのアニメーションを通して「人権ってなんだろう」と、自分自身の問題として考えることを目的としています。	31分	H28年度 (2016年度)	H28年度 (2016年度)
高齢者の人権	DVD	ひとり芝居	～社会福祉施設等における人権～ 私たちの声が聴こえますか	女優の渡辺美佐子による「ひとり芝居」（施設職員編・入所者編）を中心に、施設職員の人権意識を高める必要性、手法等に関する専門家へのインタビューや、人権意識を高める取組として、実際に施設内で行われた人権啓発活動の紹介等「どんな行為が入所者の人権を侵害する行為に当たるのか」ということが、自然に理解されるような構成になっており、施設の運営に人権の観点不可欠であることを強調しています。	近年、高齢化が急速に進行する中で、社会福祉施設等の入所者に対する身体的・心理的虐待等が表面化し、大きな社会問題となっています。このような問題への対策として、平成18年4月に、養介護施設従事者等による高齢者虐待の定義や、職員等が虐待を発見した場合の通報義務などを定めた「高齢者虐待防止法（正式名：高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律）」が施行され、制度面の整備は進みつつあります。しかし、いくら制度を整備しても、施設職員の人権に対する認識が改善されなければ、入所者の人権を侵害する行為はなくなりませんと専門家は指摘しており、実際に、施設内における虐待等の人権侵害事案は、後を絶たない状況にあります。施設内における虐待を根絶していくためには、施設職員の人権意識を高めていくことが、一層必要になっています。	30分	H19年度 (2007年度)	H28年度 (2016年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
HIV感染者・ハンセン病患者等の人権	DVD	ドキュメンタリー	こんにちは 金泰九さん ハンセン病問題から学んだこと	<p>■審査員の心を掴んだ作文 ■第33回全国中学生人権作文コンテストで法務大臣賞に輝いた作文を大ホールで朗読する、後藤泉稀さん（広島県福山市・盈進中学2年）の姿を捉えて、後藤さんと元ハンセン病患者・金泰九（キム・テグ）さんとの交流を紹介する。</p> <p>■ハンセン病とは？ ■金泰九さんの暮らす長島愛生園とハンセン病の歴史を描く。長い間、ハンセン病患者を苦しめた「らい予防法」についても、その悲しい歴史を細解していく。そして、金さんの生い立ち、入所当時の思い、今、私たちに望むことなどを聞きだしていく。</p> <p>■ヒューマンライツ部の活動 ■20年前から続く長島愛生園での体験学習。この学習を通して後藤さんは「差別と偏見に翻弄された人々、そして今の自分」に思いを馳せるようになった。卒業生で聴覚障がいをもつ濱田さん。彼女もまた金さんと出会い、差別と偏見を乗り越え、力強く生き抜いてきた姿に勇気をもらい、人生を切り開いてきた一人だ。</p> <p>■金さんが教えてくれたこと ■過去の悲しくつらい思いを胸に秘めながらも、終始穏やかに生徒たちと接する金さん。金さんとの語りの中で、後藤さんを始め多くのヒューマンライツ部員が、「ハンセン病を正しく知って正しく伝えることの大切さ」、「周りの人の愛で支えられて生きている自分」を実感し、今日も何かを学んでいる。</p>	<p>今、ハンセン病問題は大きな課題に直面しています。長島愛生園でも、現在260名程の入所者が療養生活を送っていますが、平均年齢が83歳と高齢化し、毎年数10名ほどが亡くなっています。</p> <p>ハンセン病に対する厳しい差別、その悲しい歴史とその中を生き抜いた人々の歴史が風化しないように伝えていきたい一広島県福山市にある盈進中学高等学校ヒューマンライツ部では、らい予防法が廃止された翌年の1997年から同園を訪問、入所者の苦しみや悲しみの人生から「生きる意味」や「生き抜いた証」を聞き取る体験学習を続けています。そうした活動の中で、現在中学2年生の後藤泉稀さんが中学1年生の時に書いた「ハンセン病から学んだこと」についての作文が、第33回全国中学生人権作文コンテストで法務大臣賞を受賞しました。</p> <p>そこで、この作品は、その作文の内容を映像化することで、かつてハンセン病を患った人たちや、ご家族への人権侵害の歴史を二度と繰り返さないように強く訴えかけていくものです。</p>	25分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたい(第27巻) 出会いから学ぶ ～しなやかな新世代・高田美樹～	<p>生涯の仲間との出会い 鳥取県の山間にある被差別部落。高田美樹は建設業の父と教師の母の下に生まれ育った。中学での人権教育に不満を抱えていたが、高校生のときに、たまたま出会った社会問題研究部のメンバーたちとの交流が生き方を変えた。暗くなく重くなく辛くなく、爽やかに素直に人権を語り合う姿に共感。人と人とのつながりの原風景をしっかりと心に刻んだ。</p> <p>両親の受けた結婚差別 母方の祖父は、父が部落出身という理由で結婚を許さず、22年間音信を断っていたが、親戚の看病を機に再会が実現することに。美樹がそこに見たのは、偏見と差別に凝り固まった鬼ではなかった。温和な普通の老人の姿だった。和解後は真に信頼できる関係が生まれた。祖父と父の二人の結晶、霞神社は今も端然と立ち続けている。</p> <p>子どもたちとつながる 高校を卒業して上京、飲食店の店長を勤めた。その後、故郷に戻り介護の現場や行政施設で働き、結婚。1歳の子どもを育てるなか、最近、講演を依頼されることも増えた。自身の体験や出会いで学んだ差別との向き合い方…。そのしなやかな姿勢は子ども達にも大きな共感を呼んでいる。今、学校保健室の養護教諭という子どもたちにかかわる仕事を目指し準備中だ。</p>	<p>人は人との関わりなくして生きることではできない。マイナスの出会い、プラスの出会い、…そして、出会いが人を変え人生を豊かに作り上げていく。高田美樹（29）、高校での生涯の仲間との出会い…母方の祖父との18年目の出会い直し…働く現場で体体験した様々な差別…それらを全て墓分に転換し、しなやかに生きる。暗・重・辛を明・軽・楽に変える新世代の誕生</p>	29分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたい(第28巻) 夢のために ～闘い続ける家族・中山末男～	<p>父が始め、兄弟が受け継ぐ 九州の久留米に生まれ育った中山末男は、解放同盟筑後地区協議会委員長を務める。父は解放運動の先駆者として地元をはじめ全国を飛び回った。兄は狭山事件の主任弁護士を務める。中山が語る人生の足跡、少年時の生々しい差別体験、結婚差別、そして、長男に降り掛かった差別事件。その闘いの日々を熱く語る。</p> <p>ばあちゃんのリアカー 母は38年間、廃品回収で家計を支えた。その生き方は人権劇となり、幾度も上演されてきた。2015年絵本になり出版された。「私の生きてきた姿を伝えておきたい。たくさんの人達と手を結べ。ばあちゃんは決して負けんやったハイ」解放運動を陰から支えつづけた母の姿は、いつしか反差別・平等・平和の象徴となった。</p> <p>夢は人権のまちづくり 中山が中心となり久留米市人権啓発センターが設立された。人権啓発、教育を続けることが差別との闘い。「久留米から発信する人権のまちづくり」を中山は仲間と共に確信をもって挑み続ける。住民の意識調査や現状認識の事実、加えて赤裸々に語る自らの生い立ち。熱く、やさしく、穏やかに…講演の引き合いも絶えない。</p>	<p>中山末男（68）、久留米を拠点に人権啓発一筋に生きてきた。剛直+やさしさを併せ持つ人間性が中山の真骨頂だ。今も第一線を飛び回る日々。父は解放運動の先駆者として生きてきた。母は廃品回収のリアカーを引き家族を支えた。兄は狭山事件の主任弁護士を務める。人権フェスタでは「ばあちゃんのリアカー」を上演。夢のために…、中山の熱い思いを伝える。</p>	28分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)
さまざまな人権問題	DVD	その他	その人権問題わたしなら どうする？「地域編」	<p>障がい者 障がい者施設建設反対の署名を迫る隣人と、それに賛同したくない妻 ホームレス ホームレスに退去してほしい隣人と、迷う夫 外国人 「外国人はルールを守らない」と言う隣人と、孤立している外国人が気になる妻 性同一性障がい 性同一性障がいの家庭教師に戸惑う妻と「問題ない」と言う夫 部落差別問題 妹の結婚相手が被差別部落出身者、父を説得してほしいと頼まれる。</p>	<p>人間が人間らしく生きる権利、人権。それが侵害される場面が、私たちの生活の中に存在しています。たとえ人権の知識があっても、複雑な人間関係が絡み合い、自分が正しいと考える方を選択することが困難な場合があります。この作品は、さまざまな人権問題を通して、もしも登場人物の立場になったら自分はどう行動するかを考える、視聴者参加型の人権学習映像集です。</p>	29分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
障がいのある人の人権	DVD	ドラマ	聲の形（こえのかたち）	<p>①転校してきた少女 石田将也のクラスに転校してきた西宮硝子は聴覚障がい者だが、筆談ノートで皆に積極的に語りかける。当初は好意的に硝子を受け入れていたクラスだったが、硝子が原因で授業が止まったり、筆談ノートの煩わしさに徐々にストレスを感じていく。</p> <p>②合唱祭 学校の名物行事である合唱祭が近づいていた。練習に励むクラスの中でも、発音が苦手な硝子は目立ってしまう。将也に口バクを強要された硝子を見かねた合唱部の佐原は、硝子に問いかける。「歌いたい？歌いたくない？」</p> <p>③いじめの始まり クラスが合唱祭の入賞を逃したことで、硝子はいじめの標的になってしまう。黒板や机に悪口を書かれたり、体育の時間にボールをぶつけられたり。「西宮っていじめられてもいつも笑ってるよな？」「聞こえてないから平気なんじゃね？」徐々にエスカレートするいじめ。そんなある日、最悪の事件が起こる。</p> <p>④学級裁判 硝子の怪我の原因を追究する学級会が行われるが、クラスメイト達は、全ての原因を将也にすりつけようとする。周囲の裏切りに愕然とする将也だったが、これが新たないじめの標的となる日々が始まりだった。</p> <p>⑤「西宮はいじめられていた時、何を思ってたんだろう…」辛い自らの境遇と硝子を重ねる将也。そんな時に硝子が現れ、傷ついた将也にハンカチを差し出し笑みを浮かべるが、将也は激しく反発する。「卑怯なんだよ、お前は！一度でも腹の底にある気持ち言ったことがあんのかよ！」激しく詰め寄る将也に、自らの気持ちをその“声”で初めて伝える硝子。それからしばらくして、硝子は転校してしまう。</p> <p>⑥残されたノート ある日、将也は自ら投げ捨てた硝子の筆談ノートを見つめる。誰もいなくなった教室で一人、ノートを見返す将也。そこには誰も気に留めなかった硝子の“声”が溢れていた。「あの時、アイツの声が聞こえていれば。いやアイツの声を聞こうとしていれば…」将也の頬に一筋の涙が伝う…</p>	<p>原作の「聲の形（こえのかたち）」（講談社）は、現代の子どものリアルな表現を描きつつ、「いじめ」や「障がい者との共生」など難しいテーマを、読者が自然に考える事のできる優れた物語であり、人権意識を常に高く持っていないと、周囲の人間を傷つける可能性がある事を教えてくれます。本作は原作の物語を基本に、教材としてのテーマを付加したドラマ形式の学習教材です。</p>	30分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)
部落差別問題	DVD	ドラマ	あなたに伝えたいこと	<p>鈴木真央とその恋人の渡辺拓海がドライブに出かけようとしている。行先は真央の祖母・ツワのところ。しかしその矢先に、真央の親友の亜美からメールが入る。亜美の父のレストランがネット上の悪質な書き込みにより中傷されているとのこと。二人は亜美の店に行く。拓海は、削除願いやなどの対策を取ることを亜美に勧める。その店が被差別部落地区にあるという書き込みもあった。拓海は、自分の両親も結婚相手の身元調査をするかもしれないことを真央に語る。</p> <p>真央がその事を母・幸子に言うと、幸子の様子が一変し、拓海との結婚に反対するようになる。真央は、そんな母の態度に違和感を覚える。幸子は、真央に黙って自分の実家に帰る。そこに、真央も会社を休んでやってくる。</p> <p>真央、幸子、ツワの三人を穏やかな日差しが包み込む。幸子は、本当のことを真央に伝える。幸子も結婚差別を受けた。しかし、真央の父・義則は、全てを承知した上で、幸子に対する自分の素直な気持ちのままプロポーズし、そして二人は結婚したという。真央は、自分のこと、自分の家族のことを、拓海に告げる決心をする。</p>	<p>部落差別問題について、結婚における差別や身元調査に関する話などから、解決に向けて正しく知ることが重要であることを認識する。インターネットについて、利便性とともに匿名性に関する誤った理解から差別的な書き込みが行われていることに気づき、対応方法を学ぶ。身の回りの人権問題を他人事とせず、知らず知らずのうちに他者を傷つけていないか、自分の言動を振り返る。阪神・淡路大震災や東日本大震災で実感した人と人のつながりの大切さについて、改めて見つめ直す。</p>	36分	H26年度 (2014年度)	H27年度 (2015年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
部落差別問題	DVD	ドラマ	今日もよか天気たい	<p>青柳京子（46）は、人生の半ばで視力を失ったにもかかわらず、人の悩みや苦しみに耳を傾ける傾聴ボランティアとして、明るく元気に暮らしている。しかし、突然障がい者となってしまった当初は、自分を避けるようになった友人や周囲の人たちの仕打ちに、戸惑い、傷つき、京子はひとりぼっちと思い込み、5年間も引きこもる暮らしをしていた。でも、京子は決して孤独ではなかった。</p> <p>多くのボランティアも京子を救おうとしてくれていた。そして、母の存在も京子の生きる支えであった。やがて、障がいをもって自分も人の役に立てるのだと気づいた京子は、歩行訓練にも熱心に取り組むようになり、生きがいを感じるようになった。また、さまざまな勉強会にも参加。障がい者差別だけでなく、部落差別問題をはじめとした多くの差別が残っている事も知った。</p> <p>「自分にしか出来ない仕事がある！」という事を励みに、社会と接していこうと前向きになった京子は、障がい者の感じる不自由な問題などをバス会社に報告したり、さまざまな形で言葉を発するようになった。そんなある日、いつものように母の病院へ向かう京子と、ボランティアの瞳（30）がバスに乗り込むと、あとから乗り込んできた斉藤雄治（21）が、京子を押しつけて優先座席に座ってしまう。ともに乗り込んだ中小企業の人事部長の岡崎志郎（51）は声をかけることなく周囲の人の動向を見守る。</p> <p>次のバス停で井上達也（5）と母親の里美（36）が乗り込んでくる。無邪気な達也は、京子の杖や優先座席を見て「あれ何？」と聞く。その子どもたちの声で、雄治は優先座席に座ったことに気づく。次のバス停でお年寄りが乗り込んでくると、京子がその人に席を譲ろうとする。志郎は京子の行動を見て、自分の会社に面接に来た車椅子の青年の事を思い出す。情熱的な青年、しかし、障がい者である事を理由に採用をためらっていた。そのことが「差別」であることに気がつく。</p> <p>雄治も勇気を出してお年寄りに席を譲り、車内は温かい空気に包まれる。京子の行動に会話はなくとも心を動かされた乗客たちは、胸に思いを抱き目的地へ向かう。京子もまた、白い杖をたよりに母のいる病院へ向かって行く。</p>	<p>この物語は、視覚障がいのある一人の女性”京子”を通して、周りの人が「人権」の大切さに気づいていくストーリー展開になっています。</p> <p>ある日、京子とたまたま同じバスに乗り合わせた乗客は、京子の存在や京子のとる行動によって、自分の心の中にある偏見や差別に気づいていきます。さらに、多くの人から支えられてきた京子自身もまた人の役に立つことで生き甲斐を見つけています。</p>	35分	H19年度 (2007年度)	H27年度 (2015年度)
高齢者の人権	DVD	ドラマ	ここから歩き始める	<p>商社会社の課長・岩崎信介のもとに、姉・早苗から「父が倒れた」という電話が入る。一人暮らしをしている父・功一が、熱中症で倒れ病院に運ばれたのだ。病院で、功一は認知症と診断される。</p> <p>早苗も嫁ぎ先での介護があり、信介が功一を自宅に引き取る。信介の妻・恵子は急なことで戸惑う。功一は、家族の名前を間違えたり、ガスコンロを消し忘れたりするなど、認知症の症状が出ている。功一は寿司職人だったこともあり、恵子の作る食事も気に入らない。功一の孫・蓮だけが功一をかばう。</p> <p>ある日、功一がいなくなる。信介、恵子、蓮と早苗で功一を探す。地域の認知症サポーター・花房美紀の協力も得て、功一は花屋で見られる。功一は、亡くなった妻の月命日の墓参りのために花が欲しかったのだ。</p> <p>信介たちは、功一をつれて墓参りに出かける。そのあと、家族みんなで近くの砂浜まで下りる。信介は、中学生の頃、功一に寿司屋を継がなくていいと言われたことが心のわだかまりになっていた。功一が砂で寿司を握り始める。その様子を見ているうちに、信介の心はほぐれていくのだった。</p>	<p>超高齢社会を迎え、日常生活の中で、どうすれば高齢者の尊厳が守られ、その豊かな経験や知識が尊重され、活用される地域社会づくりができるかを考える。</p> <p>身近な人々との関係づくりやコミュニケーションのあり方について振り返り、相手を尊重した言葉遣いや行動ができていくのかを考える。</p> <p>認知症に対しては、正しい理解と、適切な対応をするための知識と技術が必要であり、そのためにふさわしい相談窓口・治療の方法があることを認識する。</p> <p>自分自身や家族一人ひとりのこれからについて思いを巡らし、それぞれが安心して幸せに暮らすためにできることについて見つめ直す。</p>	34分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)
HIV感染者・ハンセン病患者等	DVD	ドラマ	<p>(1)ハンセン病問題～過去からの証言、未来への提言～ 〈人権教育・啓発担当者向け〉</p> <p>(2)家族で考えるハンセン病 〈一般向け〉</p> <p>【平成27年度法務省委託人権啓発教材】</p>	<p>(1)ハンセン病問題～過去からの証言、未来への提言～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロローグ ②ハンセン病とは ③強制隔離政策 ④らい予防法の廃止 ⑤ハンセン病問題の今 ⑥人権尊重社会へ向けて <p>(2)家族で考えるハンセン病</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ハンセン病とは ②ドラマ ③ハンセン病の歴史と隔離政策 ④ハンセン病問題の現状と課題 ⑤人権尊重社会へ ⑥ハンセン病療養所の今 	<p>(1)ハンセン病問題～過去からの証言、未来への提言～</p> <p>ハンセン病問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべきハンセン病問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心に分かりやすく簡潔にまとめた啓発映像です。</p> <p>(2)家族で考えるハンセン病</p> <p>ハンセン病問題に焦点をあて、ドラマを中心に、関係者の証言や解説等を交えて分かりやすく簡潔にまとめた啓発映像です。</p>	(1)56分 (2)20分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドキュメンタリー	すべての人々の幸せを願って～国際的視点から考える人権～ 【平成27年度法務省委託人権啓発教材】	①国連の人権への取り組み 世界人権宣言と国際人権諸条約 ②女性の人権 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約 ③子どもの人権 児童の権利に関する条約 ④障がいのある人の人権 障害者の権利に関する条約 ⑤外国人の人権 あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約 ⑥まとめと人権相談窓口の紹介	人権の保護や促進に多大な貢献を果たしてきた国際連合創設70周年を記念して、本DVDでは、世界人権宣言及び国際人権諸条約が自分たちの身近にある人権課題とどのように関わっているかを国際的な視点から考えるために、4つの人権課題とそれぞれに関連する条約を資料映像や写真、事例の再現ドラマなどで紹介しています。 世界には、性別や人種、肌の色の異なる人々、大人や子ども、障がいの有無など、一人ひとり違いを持ったたくさんの人たちが暮らしています。すべての人々が幸せに暮らせるように、私たち一人ひとりが相手の違いを認めつつ、同じ一人の人間として、相互に尊重し合うことの大切さを一緒に考えていきましょう。	35分	H27年度 (2015年度)	H27年度 (2015年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	家庭の中の人権カラフル	主人公、福沢聡は大手商社に勤めながら、妻の優子と、2人の子ともと共に暮らしている。一見順風満帆な生活を送っている聡の最近の気がかりは、就職後すぐに会社を辞めてしまい、再就職しようともせずに、フリーターを続けている息子・一馬のこと。また就活中の娘・愛美も社会や人間に対する考え方がまだ未熟で、端から見てるとあぶなっかしい。 ある日の休日、いつまでアルバイトを続けるのか問う聡に、一馬は今のバーの仕事が向いており、将来的にはパティシエを目指すと言った。それを聞いた聡は、たかが水商売のアルバイト、もっと真剣に考えろと激高するが、珍しく一馬は声を荒げて自分の決意が本気であることを伝える。「俺、いい会社に入って、いい給料をもらっても、幸せだって思えなかった。そういう人間もいるんだよ。」 そういう人間もいる・・・その言葉は、聡の元部下の蓮田麻衣子が発した言葉と同じだった。先日、麻衣子の女性向け新規プロジェクトの就任祝いの席で、聡は、麻衣子から自身が性同一性障がいであることから、このプロジェクトを降りるべきではないかと相談されていた。「どうしても、この身体や性別に馴染めない。そういう人間もいるんです。」性同一性障がいについて知識もない聡は、適切なアドバイスを麻衣子にすることができなかった。 それ以来、心の落ち着かない日々を送る聡。しかし、翌日自宅に遊びに来た愛美の幼馴染の琴音から、自分の知らなかった一馬の一面を聞いた聡は、「大切なことは他人がどう見るかではなく、自分がどう生きるか」人間が一生を送る上で大切な考え方を再認識する。そんな聡に、妻の優子も語りかける「いろんな人がいた方がカラフルでいいじゃない」会社も社会も多様な人間で成り立つ事を知った二人は改めて、息子ときちんと向き合う事を決意するのだった。		31分	H26年度 (2014年度)	H26年度 (2014年度)
障がいのある人の人権	DVD	ドラマ	秋桜の咲く日	特別養護老人ホーム「向陽園」の主任介護士として働く大谷ちひろは、新しく入った介護士中嶋直也に期待するが、直也は空気の読めない発言をしたり、指示が伝わらなったり、コミュニケーションが取りづらい。ちひろはストレスを感じながらも、直也を育てるべく奮闘する。 そんな中、直也が入居者の元大学教授、乾一成を連れて外出したところ、金山川で乾が倒れて意識不明になってしまう。知らせを受けて病院に駆けつけたちひろは、パニックを起こした直也に、介護士失格だと激しく叱責する。 翌日から直也は欠勤。直也の母が退職届を持って「向陽園」を訪れ、直也がアスペルガー症候群であることを告白する。いったん退職願を受理したものの、ちひろは直也をそのまま辞めさせていいものか悩む。そしてちひろは、直也が乾を金山川へ連れていった理由を聞くため、入院中の乾を尋ねたのであった・・・。	発達障がいとは、一般的に乳児期から幼児期にかけて、様々な原因で発達の遅れなどの障がいが見られるものを言います。本人の怠慢や家族のしつけ、環境などが要因ではなく、基本的に脳の機能障がいから起こります。発達障害支援法（2005年施行）では、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの・・・」と定義されています。 直也の障がいである「アスペルガー症候群」は、発達障がいの中に属し、幼児期に言語発達の遅れはないが、「表情や身振り、声の抑揚、姿勢などが独特」、「親しい友人関係を築けない」、「慣習的な暗黙のルールが分からない」、「会話で、冗談や比喩、皮肉が分からない」などのような特徴があります。発達障がいの症状の出方には個人差があります。本人、家族も含めて、周囲の人々の正しい理解が必要です。	34分	H26年度 (2014年度)	H26年度 (2014年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
性的少数者の人権	DVD	ドラマ	<p>あなたがあなたらしく生きるために ～性的マイノリティと人権～</p> <p>【平成26年度法務省委託人権啓発教材】</p>	<p>①性的マイノリティとは ②トランスジェンダーの中学生 陽菜の場合（ドラマ） 主人公・陽菜は中学2年生。周囲からはボーイッシュな女の子と認識されているが、心の性は男性。家でも学校でも女の子を演じ続けていることがとても辛い。友達や教師にも相談できず、孤独が深まる。陽菜の担任の宮木や養護教諭の小淵は、陽菜の様子がおかしいことに気づき、支援できることがないか話し合う。また、友達の奈々は、陽菜の味方になると言ってくれる。しかし、それでも陽菜は打ち明ける決心がつかない。 ③性的マイノリティが置かれた現状 ④同性愛の会社員 雄輔の場合（ドラマ） 上司から結婚相手について聞かれるたび、主人公・五島雄輔は暗くなった。彼はゲイだ。雄輔には恋人の清人がいる。ある日、二人が公園に行った時、足をくじいた清人をかきいしく看病する姿を雄輔の同僚・武田に目撃されてしまう。武田は雄輔が同性愛者だと気づき、雄輔は噂が広がるのを恐れて仕事も手につかなくなる。そんな中、雄輔は、信頼できる上司の飯塚に自分がゲイであるということを手打ち明ける。飯塚は雄輔の心を受け止め、今後支えていくことを伝える。 ⑤誰もがいきいきと暮らせる社会に（解説）</p>	<p>性的マイノリティとは、レスビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーといった性的少数者を表した言葉です。 私たちは日常的に、男性・女性という二つの枠組みで色々なことを考えがらですが、実際の性・セクシュアリティはもっと豊かで多様なのです。 最近では少しずつ、「LGBTQ」といった性的マイノリティに関する言葉を耳にする機会が増えてはいますが、浸透というレベルには至っておらず、正しく理解している人もごくわずかです。 そのため、ネガティブな情報が多かったり、あるいは否定的にとらえる人もおり、マイノリティの生きづらさにつながっているのです。 本DVDは、性的マイノリティについて正しい理解を持ち、さらに、誰もが自分らしく毎日を過ごすため、立場の異なる一人ひとりが何をすべきか、また社会全体がどんな取り組みをすべきなのかを分かりやすく解説しています。</p>	30分	H26年度 (2014年度)	H26年度 (2014年度)
その他	DVD	ドキュメンタリー	<p>未来を拓く5つの扉 ～全国中学生人権作文コンテスト入賞作品朗読集～</p> <p>【平成26年度法務省委託人権啓発教材】</p>	<p>①導入 ②入賞作品 ■ 本当の国際化とは ■ 電車内に咲いた、笑顔の花 ■ 立ち止まる ■ NO!と言える強い心を持つ ～ハンセン病問題から学んだこと～ ■ 絆 ③結び</p>	<p>全国中学生人権作文コンテストでは、時代を担う中学生が、身の周りで起きたいろいろな出来事や自分の体験などから、人権について考えています。入賞作品の中から5編の作文を朗読して、アニメーションやイラストで紹介しています。 中学生が作文の中でつぶやいている言葉に、あなたも耳を傾けてみてください。それが、きっと新しい明日への一歩につながっていくでしょう。</p>	46分	H26年度 (2014年度)	H26年度 (2014年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	<p>ヒーロー</p>	<p>鶴巻行男は町内会の副会長。秋祭りのヒーローショーで、ヒーロー役として出演し、転倒して腕を骨折する。共働きの忙しいにもかかわらず副会長を引き受けたことへの不満や、怪我をしたことへのふがいなさ妻の恭子にもらす。楽しみにしていた家族旅行もキャンセルになってしまい、リフレッシュ休暇を一人で過ごすことになる。 ある日行男は、見知らぬ少年が他の少年に囲まれ、ボシットを川に投げ捨てられるのを目撃するが何もできない。町内会長の大伴則介から、一人暮らしの牧野富枝に老人会のチラシを届けたいと頼まれた行男は、富枝の元を訪れるが不審者として警戒される。その時、富江と同じアパートに住むボシットの少年・真司がいじめられているのを見かける。富枝はいじめっ子を一喝して追い払い、何もできない行男に呆れる。 ネット上の差別的な書き込みの実態調査を知るために、大伴は行男にその検索の方法を尋ねる。差別に対して「自分は関係ない」と言う行男に、大伴は「他人事にせず、皆でなくしていかないと」と諭す。大伴の親友・高平五郎の店で、真司が弁当を万引きして捕まる。事情を知っていた行男は真司をかばって代金を支払い、真司を家まで送る。 真司と行男は、真司のアパート前で富枝と鉢合わせする。真司がお腹を空かしているのを知った富枝は、二人におにぎりを振る舞う。父と二人暮らしの真司は、父の出張中一人で留守番をしており、ボシットは亡くなった母が作った形見で、留守中の食費が入っていたという。父親に心配をかけたくない真司は、このことを秘密にしたいと頼む。 行男は真司の父・竜樹に偶然会い、真司がボシットを無くしたことを怒らないでくれと頼むが「余計なお世話だ」と拒絶される。余計なことをしなければよかったと後悔する行男は、「いじめられている真司くんを放っておいていいのかな」と恭子に言われ、かつて子どものピンチに駆けつける正義のヒーローに憧れていたことを思い出す。 翌日、「ヒーローになる」とメモを残し家を飛び出した行男は・・・。</p>	<p>「無縁社会と家族」～生きること つながること～ 近年、社会から孤立している人が増えてきており、孤独死などが大きな社会問題となっています。家族や地域、職場のつながり、いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化による問題です。こうした「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対し、私たちは何ができるでしょうか。 この作品の主人公の行男は、働き盛りのサラリーマンです。地域社会と縁を持たなかった行男が、あるきっかけから地域と関わるようになり、今まで意識しなかった近所の高齢者や家族と出会っていきます。そうした体験の中で、自分の家族との絆も深めていきます。 「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてでなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感してもらおうためのドラマです。</p>	34分	H25年度 (2013年度)	H26年度 (2014年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
障がいのある人の人権	DVD	その他	無関心ではいけない！ 障害者の人権	<p>①人権とは？ 人は誰でも生存と自由を確保し、各々の幸福を追求する権利があるが、障がい者の方たちには、この人権が守られていないことが度々起こっている。</p> <p>②障がい者の人権 2006年12月、国連で、障がい者も健常者も、人として当たり前の権利が認められ、尊厳を持って生活できる社会づくりを目指す「障害者の権利条約」が採択された。しかし日本では、まだ批准されていない。日本の現状を検証する。</p> <p>③各障がい者の人権について 日本に暮らす身体、精神障がい者を合わせると約744万人。この中から視覚障がい、聴覚障がい、そして車椅子の方々の生活を捉えながら、それぞれの人権、合理的配慮について考えていく。</p> <p>・視覚障がい者の稲垣さんは、現在、会社を経営。ピルのエレベーターのボタンに点字シールを貼ったり、音声ソフトを活用してメールをチェック。「出れる人は、どンドン街中へ出て多くの人と触れ合って、理解してもらえる機会を増やすことが、最終的にはみんなが理解し合えることへとつながる」と語る。</p> <p>・市役所勤務の小出さんは、聴覚障がい者。手話のできる職員が少ないことや、文字多重チューナーが普及しきれていないなど不便は多い。健常者、聴覚障がい者、仲間として情報交換することが大切だと語る。</p> <p>・電動車椅子で通勤している大村さんはスペースを確保できる特急を利用。わずかな段差などで不自由を感じている。賃貸の自宅でも、車椅子で部屋を傷つけないように配慮する。「他の車椅子の人のため、悪い前例にならないようなユーザーでありたい」と心掛けている。</p> <p>④バリアフリー化の動き バリアフリー新法が平成18年に施行され、ユニバーサルデザインの理念に基づいた施策も進められている。また、高齢者や身体に障がいのある人達へのバリアフリー情報も提供されている。様々な取組みによって、障がい者への偏見、差別、人権侵害が理解されつつも無くなったわけではない。誰もが不自由を感じない社会環境づくりこそが、その改善の第一歩であることを強く訴える。</p>	<p>人は誰でも、老化によって足腰が弱ってきたり、視力や聴覚が衰えてきます。いつかは障害者と同じような不自由を感じる可能性があります。障がい者に対して無関心ではいけない時代になってきているのです。</p> <p>この作品は、現在、日本が取り組んでいる国連の「障害者の権利条約」批准に向けての要件である「差別解消法」への理解を深めてもらうためのものです。具体的に、視覚障がい者、聴覚障がい者、車椅子の方の日常を通して、障がいを理由とした直接差別、障がいを理由としない間接差別、合理的配慮を怠った場合の差別について考えていくものです。</p> <p>これによって、血の通った温かい人間関係を含め、誰もが不自由を感じない社会環境づくりこそが、障がい者の人権を守ってゆく第一歩であることを訴えます。</p>	24分	H25年度 (2013年度)	H26年度 (2014年度)
部落差別問題	DVD	その他	東山文化を支えた 「差別された人々」	<p>2タイトル収録 ・小学生版 ・中学生以上版</p> <p>第一章 「河原者」呼ばれた人々とは 第二章 銀間の庭に隠されたメッセージ</p> <p>PDF資料 ・解説 ・教材と指導展開例 ・中世の河原者の庭づくりについて（上） ・中世の河原者の庭づくりについて（下） ・年表 ・史料（現代語訳付） ・文献目録</p>	<p>先生方や担当者が、「人権の歴史」を取り上げる場合の補助資料・教材として作成されています。 授業の指導展開例や啓発を深めるための参考資料が、文字データとして添付されています。 以下は解説から一部抜粋しています。 教科書で授業をする際の補助教材、あるいは社会啓発する場合の学習教材として作成しました。とくに、若い世代の先生方や担当者が、初めて「人権の歴史」を取り上げる場合、導入などに役立つことを目標としました。さらに授業の指導展開例や啓発を深めるための参考資料を、文字データとして添付しました。</p> <p>このDVDは、15分程度の長さになっています。内容は非常に濃いと思いますが、これを観るだけで授業や学習会を終えていただくたからです。先生や指導者は、これを観た思いを、まず自らの中で明確にし、その上で自分なりに子どもたちや聴衆へ伝えるための工夫をしていただきたいと思うからです。それにより、このDVDは大きな力を発揮すると思えます。</p>	16分	H25年度 (2013年度)	H26年度 (2014年度)
部落差別問題	DVD	その他	江戸時代の身分制度と 差別された人々	<p>2タイトル収録 ・小学生版 ・中学生以上版</p> <p>第一章 身分制度はどのように確立したのか 第二章 「社会外」に置かれた人々の暮らしは？</p> <p>PDF資料 ・解説 ・教材と指導展開例について ・江戸時代の身分に関する学習をすすめるにあたって</p>	<p>先生方や担当者が、「人権の歴史」を取り上げる場合の補助資料・教材として作成されています。 授業の指導展開例や啓発を深めるための参考資料が、文字データとして添付されています。 以下は解説から一部抜粋しています。 教科書で授業をする際の補助教材、あるいは社会啓発する場合の学習教材として作成しました。とくに、若い世代の先生方や担当者が、初めて「人権の歴史」を取り上げる場合、導入などに役立つことを目標としました。さらに授業の指導展開例や啓発を深めるための参考資料を、文字データとして添付しました。</p> <p>このDVDは、15分程度の長さになっています。内容は非常に濃いと思いますが、これを観るだけで授業や学習会を終えていただくたからです。先生や指導者は、これを観た思いを、まず自らの中で明確にし、その上で自分なりに子どもたちや聴衆へ伝えるための工夫をしていただきたいと思うからです。それにより、このDVDは大きな力を発揮すると思えます。</p>	15分	H25年度 (2013年度)	H26年度 (2014年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ・ドキュメンタリー	イマジネーション imagination 想う つながる 一歩みだす	イジメをなくすのはアナタ（10分） 主人公・ヒースは、体が小さいことで一部の同級生にからかわれているY君のことが気になって、ラジオに相談メールを送る。解説の玉聞さんは「実は『いじめを見ている人たち』がポイントです」と、いじめの構図を語り始める・・・ 「関わらないのが一番」それ本当？（10分） 主人公・トキオはプロボースしたミサキから被差別部落の出身であることを告げられる。意に介さないトキオだったが、母親・親戚から猛反発を受ける。「そういう人たちとは、関わらないのが一番なのよ」・・・ラジオに相談電話をかけ、母親たちへの怒りをぶつけるトキオ。解説の臼井さんは語る「部落差別をする人は何が正しいのか自分で考えていないんです」・・・ 見えにくいから知ってほしい、発達障がいのこと（11分） アスペルガー症候群・注意欠陥障がいのある山本さん。これまでどんなことに困難さを感じてきたかなど、職業指導員として働く様子を紹介しながら語っていく。また、当事者でシンガーソングライターの堀川ひとみさんの美しい歌声とメッセージも届けられる。解説の榎原さんが発達障がいについて語っていく。「障がいというよりも個性・性格に近いのです」・・・	いじめを受けている人 いじめをしている人 部落差別を受けている人 差別をしている人 発達障がいのある人 発達障がいのことを誤解している人 そして、それらの問題は「自分とは関係ない」と思っている人・・・ あなたは、どうですか？ 何気ない日常の中で、ほかの人の「心」を想像することを おろそかにしていませんか？ まず「想像」すること、相手のことを知ること、想うこと。 そこから人と人がつながる。 互いが人権を尊重し合って生きていくために、 一歩みだして行動する・・・ あなたはimagination-イマジネーション- できていますか？	34分	H25年度 (2013年度)	H26年度 (2014年度)
部落差別問題	DVD	ドラマ・ドキュメンタリー	(1) 同和問題 ～過去からの証言、未来への提言～ 《人権教育・啓発担当者向け》 ・フロログ(2分) ・部落差別問題の歴史(10分) ・部落差別問題解決への取組(31分) ・部落差別問題の現在(10分) ・人権尊重社会をめざして(8分) (2) 同和問題 ～未来に向けて～ 《一般向け 19分》 ・フロログ(2分) ・部落差別問題とは(7分) ・部落差別問題解決に向けて(6分) ・エピローグ(4分) ・人権尊重社会をめざして(8分) 【平成26年度法務省委託人権啓発教材】	(1) 同和問題 ～過去からの証言、未来への提言～ 《人権教育・啓発担当者向け 61分》 ・フロログ(2分) ・部落差別問題の歴史(10分) ・部落差別問題解決への取組(31分) ・部落差別問題の現在(10分) ・人権尊重社会をめざして(8分) (2) 同和問題 ～未来に向けて～ 《一般向け 19分》 ・フロログ(2分) ・部落差別問題とは(7分) ・部落差別問題解決に向けて(6分) ・エピローグ(4分) ・人権尊重社会をめざして(8分)	わが国固有の人権問題である部落差別問題。昭和44(1969)年施行の「同和对策事業特別措置法」以降、幾度かの法の改正や延長を経て、30年以上にわたって特別対策が行われ、生活環境の改善をはじめとするハード面での格差の解消には一定の成果を上げました。しかし、結婚差別や就職差別をはじめとする、人々の心の中にある差別意識などのソフト面では、いまだに多くの課題が残っています。国や地方公共団体、企業等のさまざまな団体における人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべき部落差別問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心に分かりやすく簡潔にまとめています。 また、一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる有効なツールとしての映像も併せて制作し、部落差別問題の解決のために次世代へ伝承するものです。	(1)61分 (2)19分	H26年度 (2014年度)	H26年度 (2014年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	風化からの告発	1975年の部落地名鑑事件から二十有余年。あの時の戒を破り差別を齎す調査会社。1988年に発覚した、大阪の調査会社による差別身元調査事件を検証。企業啓発のみならず、身元調査の聞き取りに対して安易に答えてしまう市民意識をも問いかけ企業と市民の差別意識を鋭く問うドキュメント！		32分	H11年度 (1999年度)	H25年度 (2013年度)
その他	DVD	ドキュメンタリー	職場の人権を考える パワーハラスメント	ある会社で起こる様々な出来事一本のドラマで描き、多様化する職場のパワーハラスメントの問題に切り込んだ作品です。本ドラマでは、暴力や暴言といった従来型のパワハラなのかそうでないのか、線引きが難しい事例を中心に描いています。 より働きやすい職場を作るために、働く人がそれぞれの立場から、「職場のパワーハラスメント」をなくすためにどうすればいいのか、学んでいただける内容です。		28分	H23年度 (2011年度)	H25年度 (2013年度)
子どもの人権	DVD	ドキュメンタリー	わたしからはじめる人権 子どもの人権編	子どもの人権問題を、ドラマ、ドキュメンタリー、解説と三つのパートで構成。大人からは見えない子どもの本音に迫りながら、子どもの人権を守るためにできることは何か考えてゆきます。「子ども虐待」は、虐待防止センターの相談員の話を中心に、虐待とはなにか。どうしたら防ぐことができるか、掘り下げてゆきます。		17分	H18年度 (2006年度)	H25年度 (2013年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	人の値打ちを問う 人権の詩人・江口いと	江口いとさん、1912年生まれ。人権の詩として広く知られる「人の値打ち」の作者であるいとさんは、息子の差別、孫の差別と三世にわたる差別を経験してきた。就職・結婚・学校現場での差別体験に基づく人間存在への視点は鋭く、しかし暖かい。解放の希いに生涯を賭け続けるいとさん。		25分	H12年度 (2000年度)	H25年度 (2013年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	ほんとの空	<p>向井弓枝は、パート先のスーパーで、高齢の客のおぼつかない行動に不快感を持つ。自宅のマンションのエレベーターでも、高齢の人や障がいのある人に対してイライラを募らせる。弓枝は、面倒な人が多く住むこのマンションを出て、一戸建てや新築マンションに引っ越したいと。夫の勇に訴える。</p> <p>弓枝の一人息子の輝は、空オタクだ。いつも空や雲のことを考えていて、友だちもいない。カメラを抱えた輝が自宅に帰ってくると、隣の部屋のドアが開き、見知らぬ外国人が引っ越しをしている。外国人に対して偏見を持っている弓枝と勇の話を書き、輝も「みんな不法滞在なんだから送り返せばいい」と言う。</p> <p>輝がマンションの屋上に行くとき、同じ年頃の少年・龍太が空にカメラを向けていた。空好きの二人は意気投合し、輝は龍太の家へ招く。夕食をいただいたお礼にと、龍太の母の美里が、故郷福島の草木染めの布を持って来る。最初は喜ぶ弓枝だったが、パート仲間の意見もあり、放射能への恐ろしさから布を捨ててしまう。そしてそれを、龍太がゴミ置き場で発見する。</p> <p>学校からの帰り道、輝は、龍太が同級生たちから放射能のことでいじめられているのを見つけ加勢するが、二人とも投げ飛ばされる。同級生を非難する輝に「お前も同じだろ」と龍太が叫び、「草木染めをなぜ捨てたのか」と詰め寄る。それを同じマンションの高齢者・千代子とタイ人・ロークが止める。帰宅した輝は弓枝を責め、家を飛び出す。</p> <p>輝を探す弓枝と勇。輝は、隣のタイ人夫婦・ロークとノイのところにいた。夫婦はタイ料理店で働いていて、店を持ちたいので試食してほしいと申し出る。皆で囁きを囲みながら、ノイの思いを知った輝は、廊下の鉢植えを割ったことを謝り、勇も偏見を持っていたと告げる。握手をする勇とローク。その様子を笑顔で見つめる弓枝は、ふと台所の隅に、自分が捨ててしまった草木染めがあることに気づく。</p> <p>ノイから、草木染めを譲ってもらった弓枝は、美里の家に。そして、自分の気持ちを伝えようとするが・・・。</p>	<p>高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、部落差別問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これら多くの人権課題に共通する根っこ部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。すべての人権課題を自分に関わることに捉え、日常の行動につなげてもらうためのドラマです。</p>	36分	H24年度 (2012年度)	H25年度 (2013年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	家庭の中の人権 生まれ来る子へ	<p>『おなかに赤ちゃんがいます』 三田村敬は妻の奈緒と祖父母の家を訪ねた。今日は祖母の誕生日だ。奈緒のバックには「おなかに赤ちゃんがいます」マークがついている。奈緒は通勤時、このマークに気づいても隠たふりをする人がいるとぼやく。敬は「自分がその立場にならないと分からないことであるよな」と、気づくのだった。</p> <p>『イクメンは変ですか？』 敬の祖父・幸造と祖母・晴子は新しい『いのち』を授かったことを喜び祝福してくれた。車椅子生活になった晴子に代わり、主夫として家事をする幸造の変化に驚く敬。晴子は奈緒が産後仕事も続けることを知り、敬に「育児休暇は取るの？」と聞いてみる。</p> <p>『よかれと思ってる』 敬の叔母・柿内美知子がやって来た。近くに住んでいるので幸造と晴子の世話をしている。美知子は奈緒の妊娠を祝いながらも、子どもができない隣の夫婦を揶揄する。また、結婚適齢期の子どもの持主美知子は、子を心配する親の気持ちとして「身元調査の必要性」を語るが、敬は不快感を表すのだった。</p> <p>『親の介護をするのは誰』 外国赴任中の敬の父・大輔から晴子宛てに手紙がきた。美知子は大輔が長男なのに親の面倒を見ていないと兄夫婦のことを批判。幸造は「男は仕事上の責任がある」とかばうが、美知子は、「私は娘だから、ただの主婦だから、親の介護をするのは当たり前なの？」と反発する。</p> <p>『愛情とは支配すること？』 安産祈願の帰り道、祖父母は孫夫婦とひ孫のために自分達の人生を振り返り、語りはじめた。敬が初めて聞く幸造のDV。しかし、幸造は2年前の晴子の入院を機に美知子から指摘され、自分が裸の王様だったこと、本当は家族に支えられていたことに気づいたと、懺悔するように語るのだった。</p> <p>『生まれ来る子へ』 敬と奈緒は、祖父母の話に学び誓うのだった。生まれ来る子すべての子どもたちが「生まれてきて良かった」と思えるように、おごることなく、妬むことなく柔らかな心と曇りのない目を持つとうと。</p>	<p>人は皆、幸せになるために生きてきます。その一方で、誰かを傷つけ、排除し、幸せになる権利を侵害しています。このドラマでは、「家庭の中の人権」に目を向け、祖父母と孫夫婦の会話を通して、私たちの身の回りにおける人権問題をクローズアップしました。家庭の中で、人権の尊さについて語りあい、伝えていくことは、すべて『いのち』を大切にすることもでもあります。気づくこと、そして行動することの大切さを描きます。</p>	25分	H24年度 (2012年度)	H25年度 (2013年度)
その他	DVD	ドラマ・ドキュメンタリー	わかったつもりでいませんか？ セクハラ対策の新常識 1. セクハラになる時、ならない時（基礎編）	<p>どのような時にセクハラになり、どのような時にならないのか、セクハラをめぐるこの永遠のテーマをカラオケのデュエットなどを例に考える。また、同じ言動が、相手によってセクハラになったりならなかったりする理由をアニメを用いて分かりやすく解説。他に人権侵害型とジェンダー型のグレーな事例を詳しく解説。</p> <p>■セクハラになる時とならない時の違いは何か ■相手によって、セクハラになったりならなかったりするのなぜか ■人権侵害型セクハラ（うわさ話、絵文字入りメール、プライバシーと携帯電話、宴席） ■ジェンダー型セクハラ（男性のお茶出し、女性軽視、女性の服装、性別役割）</p>		24分	H22年度 (2010年度)	H25年度 (2013年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
その他	DVD	ドラマ・ドキュメンタリー	わかったつもりでいませんか？セクハラ対策の新常識 2. あなたならどうする？（応用編）	ディスカッション用の事例ドラマと、考えるヒントとしての設問・解説によって構成。微妙なセクハラ事例の当事者となったとき、どのような対応をすればよいかを考える教材。 事例1 上司から個人的な好意を寄せられた部下 ・ヘア業務と業務の範囲 ・部下の携帯電話の取り扱い 事例2 部長によるセクハラ行為を部下から相談された課長 ・部下からの相談と管理職の役割 ・宴会とセクハラ		25分	H22年度 (2010年度)	H25年度 (2013年度)
さまざまな人権問題	DVD	アニメ	桃香の自由帳	ある日、小学校2年生の大江桃香が学校から帰ってくる。母・日菜子は留守で、家のカギも持っていない。どうしていいかわからず、近くの公園までやってくる。少し離れたベンチには、買い物帰りの山村秀次郎が座って、痛む膝をさすっている。そこにクラスメートの堂本志穂と母・恵里が通りかかり、桃香に声をかける。 日菜子が夕食の用意をしながら桃香に「知らない人についていってはだめ」「友達の家に行ったら迷惑かけるからだめ」と教えている。夫・幹夫は「そこまで・・・」とたしなめるが、日菜子は聞く耳を持たない。 日菜子と内藤佐智子は、販売員を怒鳴って追い返す秀次郎と、不良に見える中学生と親しく話す恵里に出くわす。どちらにも関わりたいと思っ日菜子。恵里の昔の噂話も聞き、桃香が志穂と仲良くしていることで不安になる。一方、桃香は、クラスメートから仲間外れになっている志穂のことが気になって仕方がない。 そんなある日、桃香は秀次郎と再び公園で出会う。一人暮らしで、気難しいと疎まれている秀次郎は、桃香の優しさで人懐っこい性格に思わず心を開いていく。桃香もまた、自分の悩みをじっくりと聴いてくれる秀次郎の温かなまなざしに支えられ、ある勇気が生まれる。 放課後、下校する桃香たちの後ろで志穂が寂しそうに歩いているのを見て、桃香は心を決め、声をかける。二人は、恵里が働く地域活動のコミュニティカフェへ。そこで、恵里の中学校時代担任だった松子先生も働いていた。カフェに集う人たちと楽しげに過ごす桃香。そこへ連絡をもらい迎えにきた日菜子が、志穂たちに声を荒げる。 その帰り道、小さな反乱を起こして日菜子の手を振り切る桃香。気づけば公園へ。そこへ秀次郎が通りかかる。秀次郎と一緒にいる桃香を見つけた日菜子はあわてて駆け寄るが、突然のお腹の痛みで倒れてしまう。病院で目覚める日菜子。秀次郎の機転のおかげで腹痛の赤ちゃんも助かったことを知る。翌日、松子先生が、コミュニティカフェに忘れた桃香の自由帳を届けにやってくる。自由帳のページをゆっくりめくると、そこには、桃香の思いがぎっしりとつまっているのだった。 学校の授業で、お母さんの仕事について作文を書き、ここになった愛理（小6）。友達の真由は、ケーキ屋で働いている母親のことをバテジエだと嘘の作文を書いた。別の友人の真由はトンカツ屋で働く母親のことを作文に書きたくないという。これまで母親の仕事について、あまり意識していなかった愛理だったが、自分の母親が清掃員の仕事をしていることが恥ずかしく感じた。 仕事から帰ってきた母親に、つい冷たく当たってしまう愛理。その夜、母親はトイレに落ちていたぬいぐるみを洗っている。トイレの清掃をしている母親を思い浮かべ、その母親の手に嫌悪感を感じてしまう愛理。翌朝、母親が握ってくれたおにぎりを食べない愛理。子ども部屋の愛理の作文を知っていた姉の朝美にたしなめられ、飛び出していく愛理。夕方、愛理が家に帰ると、学校に行かなかったことがすでにばれていて、母親に問い詰められる。愛理は、母親の仕事が汚いから、恥ずかしくて学校に行かなかったと、母親を責めてしまう。愛理の気持ちに、ショックを受ける母親。 次の日、姉の朝美は嫌がる愛理を、母親の仕事場に連れていく。そこでは、雑踏の中で一生懸命に働く母の姿があった。見るに堪えられなくなった愛理は、立ち去ろうとする。そのとき、小さな女の子の「ありがとう！」の音が聞こえてくる。母親が洗っていたぬいぐるみの持ち主だ。女の子の嬉しそうなお顔。ぬいぐるみを渡す母親もうれしそう。朝美は、なぜ母親がこの仕事を始めたかを愛理に話し始める。それは、父親を亡くし、恵里や朝美を育て学校に行かせるためなのだ。「私たちのために働く母親が恥ずかしい？」母親は笑顔で挨拶を交わしながら、凛として掃除を続けている。その姿を見た愛理は、そんな母親を恥ずかしく感じる自分の心が、差別を生み出すのだと知る。 愛理は、自分のお母さんが清掃員だと友達に告げる。果歩と真由は、そんなこと気にするほうがおかしいと愛理の手を取る。愛理は、作文に「私も大人になったら、お母さんのようにやりがいのある仕事をしたい」と書いた。	◆登場人物の言動を通して「人とのつながり」を自ら断っていないか、日頃の自分自身の言動を振り返る。 ◆「きずな」とは、人と人がつながり、共に生きる中で生まれ、それが生きることの素晴らしさや喜びにつながるということを確認する。 ◆一人ひとりが地域社会を担う一員であることを自覚し、人と人との助け合い、支えあいについて、自分の問題として考える。	36分	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	マザーズ ハンド ～お母さんの仕事～	私たちは、だれもが健康・幸福で生きがいのある生活をしたと願っています。そのためには、みんなが身近かなところに存在する様々な人権を理解して、人の尊厳を考え、お互いの立場を尊重して、日々の生活を過ごさなければいけません。 ある家族の姿を描くことによって、身近にある偏見や差別に目を向けもらい、人権の理解を深めるとともに、誰もが幸福に生きていく権利を持っていることを知ってもらうことを目的に制作しています。		19分	H24年度 (2012年度)	H24年度 (2012年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドキュメンタリー	モップと帚（劇場版）	エル・チャレンジとは 正式名称「大阪知的障がい者雇用促進建物サービス事業協同組合」。1999年（平成11年）発足。「エル・チャレンジ」は愛称で“Labor-Challenge=働くことに挑戦する”という意味がある。障がい者施設以外の公共の建物を中心に、清掃業務を通じて約一年間の就労訓練を行う。発足以来400人以上が一般企業（主に清掃作業）に就職した。 一方で大阪府では、清掃業務の落札者決定基準に価格競争だけではなく、積極的に障がい者雇用を行う企業が落札できる総合評価一般競争入札制度が導入された。現在では、府有18施設に70人以上の知的障がい者、100人以上の就職困難者が就職した。この制度は、大阪府下の自治体をはじめ府外にも広がっておりつつある。	知的障がい者が、社会の中で働く 障がい者雇用の場は広がっておりつつある。が、働きたいのに働けない障がい者は、まだ数多く存在する。エル・チャレンジに関わった知的障がい者と支援者の姿を一年半にわたり密着取材した作品。 そこには、固く暗いイメージはなく、人と人とのつながりの中にぬくもりがあった。人と人とのつながり・・・ つながりの中でこそその成長・・・ 社会で働くことの意味を、今一度問いかける。	55分	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドキュメンタリー	モップと髻（教材版）	同上	同上	30分	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)
さまざまな人権問題	DVD	アニメ	プレゼント (対象：小学3・4年生)	<p>小学4年生の綾香は、同級生の美由紀の誕生日に手作りの写真立てをプレゼントする。それは、美由紀のことを思っ作ったプレゼントであったが、美由紀の気に入るものではなかった。腹を立てた美由紀は、それから綾香に意地悪を始める。</p> <p>美由紀が意地悪をするようになってから、それまで仲の良かった茜や恵まで綾香を避けるようになり、やがてクラス中が綾香を仲間はずれにするようになった。ただひとり、クラスで孤立している麻里だけが綾香をかばったが、ある出来事をきっかけに、綾香は学校を休んでしまった・・・（活用の手引き書付き）</p>	<p>人権とは、私たちが幸せに生きるための権利で、私たちの日常生活のいちばん基本のルールといえるでしょう。この人権を尊重する意識を効果的に普及させるためには、幼少年期における子どもの人権感覚を育成することが極めて重要です。</p> <p>しかし、子どもをめぐる人権問題は、いじめを始めとして、体罰、不登校、児童虐待など様々な問題があり、大きな社会問題となっています。いじめの原因については様々なことが考えられますが、他人に対する思いやりやいたわりといった人権尊重意識の後れがあると思われます。いじめを解決するためには、お互いの異なる点を個性として尊重する人権意識を養うことが重要です。</p> <p>この作品は、子どもたちに、身近な問題であるいじめについて考えてもらうことにより、自分の人権の大切さに気づき、さらに自分と同様に他の人の人権も大切であることに気づいてもらうためにつくられました。家庭や学校、地域で、人権についての意識を育てるための教材としてご利用ください。</p>	17分	H15年度 (2003年度)	H24年度 (2012年度)
さまざまな人権問題	DVD	アニメ	虹のきすな ※特別編集版 「ユーナの樹とトモダチ」編 (16分収録)	<p>大学生のひかりは、小学校の図書館で読み聞かせのボランティアをしている。しかし、うまく感情をこめて絵本の読み聞かせができず、子どもたちの評判は良くない。ひかりは、ボランティア仲間の恵に上手に読み聞かせをする方法を聞いてみたが、恵の答えは「本を読んで感じた気持ちを伝えればいい」。それは、小さなころから人付き合いが苦手なひかりにとって何よりも難しいこと。</p> <p>そして、いつも独りぼっちで図書館にいる男の子、ワン・タオロン（王道栄）もまた同じだった。中国から日本に来たタオロンは、下手な日本語を笑われるのが嫌で、クラスメートになかなか話しかけられずにいた。そんな態度が誤解を生み、いじめられるようになってしまったのだ。ある日、絵本を読んで泣いているタオロンに気づいたひかりは、その絵本「ユーナの樹とトモダチ」を読み始める。そこには、薬になる花を求めてよその島からやってきた鳥・リンクをめぐる動物たちの姿が描かれていた。“よそ者だから”という理由だけでリンクを遠ざけようとする者。関わるのは面倒だからと、傍観する者・・・しかし、リンクの話を知ってあげたいと思っていたサルの子・モンチャだけは違っていた。モンチャはリンクの言葉を理解しようとしたのだ。</p> <p>絵本を読み終えたひかりが、あらためて作者の名前を確認すると、そこには「はまだかいと」の文字。かいと・・・かいと・・・ひかりの記憶がよみがえる。小学生の頃、無口なためにいじめられていた海人。いじめに巻き込まれるのが怖くて、知らんぷりをしてしまった自分・・・。絵本の中の動物たちの姿に、自分の姿が重なる。あの時の自分は、傍観する動物たちと同じ。今だって、独りぼっちで寂しそうにしているタオロンにこえもかけてあげられないじゃないか。ずっとなら、自分は変わらないまま生きてきたのだ・・・。</p> <p>うつむくひかりに恵が言う。「でも、今は変わろうとしているじゃない。だから、ボランティアも始めたんでしょ？」と。図書館の外には、クラスメートに傘を隠され、涙をこらえているタオロンがいた。雨の中を駆けだすタオロンを夢中で引き止めたひかりに、タオロンも少しずつ心を開き始める。</p>	<p>制作のねらい 情報不足や誤った情報、あるいはそれに基づく不正確な知識や思い込みは、部落差別問題やHIV感染者・ハンセン病患者等に対する差別に限らず、東日本大震災後の放射能汚染をめぐるいじめや宿泊拒否など、さまざまな人権問題を引き起こす原因の一つと言えます。その点を踏まえて、この映画では、差別に対する「傍観者」あるいは「無関心」という立場に焦点をあてました。そして、さまざまな問題を自分の問題として引き寄せて考えること、人と人がしっかりとコミュニケーションを取ることで、お互いを一人の人として認めあうこと、自立した考えや行動を取ること・・・の大切さを訴える作品です。</p>	31分 (16分)	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたい(第4巻) 人の世に熱と光を ～水平の湯仰者 西光寺・清原 隆宣～	<p>日本で最初の人権宣言 「全国の散在する吾が特殊部落民よ、団結せよ」。1922年、西光万吉が起草した水平社宣言は、日本で最初の人権宣言と言われています。宣言は、人間の尊厳を高らかに謳い上げ、最後にこう結んでいます。 「人の世に熱あれ、人間に光あれ」</p> <p>西光寺に生まれる 奈良県御所市、住井すゑの大河小説「橋のない川」の舞台にもなったところです。清原隆宣さんは、このまちの一角にある西光寺に生まれました。西光寺は、水平社宣言を起草した西光万吉こと清原一隆の生家であり、清原さんは西光万吉の弟の孫にあたります。 水平社発祥の地であるこの川は、今、人権のふるさととして全国各地から大勢の人たちが訪れています。人の世に熱と光を求めた西光万吉の人間への信頼、その思いを清原さんは現代を生きる多くの人たちに伝えていきたいと考えています。この日、三重県の中学校から3年生57人がやってきました。清原さんは、なぜ、それぞれの個性を大切にしなければならぬか、やさしく語りかけます。</p> <p>忘れられない体験 清原さんは大学卒業後、大阪の中学校を経て、御所市内の被差別部落を校区にもつ中学校へ赴任しました。ここで、生涯忘れられない体験をします。 1983年、生徒の不登校や非行が相次ぎ、学校は異例の休校措置で問題に取り組みました。この時、清原さんは初めて子どもたちの傷ついた心に触れたと言います。 1991年、娘さんが通う中学校で起きた差別事件は、娘さんを巻き込み、清原さんにとってもつらい経験となりました。しかし、娘さんたち「部落解放研究会」が解決方法を求めて話し合いを重ね、そのとき娘さんたちの取った行動に、清原さんは心から感動したと言います。それは水平社宣言の精神をそこに見たからです。</p> <p>水平社博物館 1998年、西光万吉ゆかりのこの地に、水平社博物館が生まれました。水平社にまつわる資料5万点を集め、部落解放に向けて闘った人々の熱い思いを伝えます。人権文化が静かな広がりを見せている中、入館者はすでに10万人を超えています。</p> <p>水平の湯仰者 清原さんは現在、全国各地で講演活動を続けています。世間の間違ったものさしを正し、人間は平等であるという水平のものさしを広めたいー 水平の湯仰者として、人の世の熱と光を語り続けます。</p>	21世紀の人権文化の思想的原点である『水平者宣言』。その精神を清原隆宣さんは、ズバリ「水平のものさし」の見直しという。人は何故、平等になれないのか。人は何故、尊敬し合えないのか。西光万吉の系譜を引く清原隆宣さんを通して、『水平社宣言』の核心を描いた。	26分	H13年度 (2001年度)	H24年度 (2012年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたい(第16巻) ドラゴン流 “人権とダンス” /松本柳子	<p>優一人十憂 京都市内の部落で生まれ育ったドラゴン先生。父の遺言「優秀」＝「人の憂いに寄り添う」を実践して30年。8年前から育成学級を担当。</p>		30分	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落解放運動のあゆみ	<p>第1部 戦前編・・・水平社の運動 ●水平社創立に至る道 ●全国水平社の創立 ●全国に広がる水平社 ●少年少女水平社と婦人水平社 ●抗議・糾弾闘争 ●連帯 ●高松差別裁判糾弾闘争 ●部落委員会活動 ●戦争とファシズム ●水平社の戦争協力と消滅</p> <p>第2部 戦後編Ⅰ・・・部落解放運動の再出発 ●行政闘争の開始と運動の広がり ●メディアの取り組み ●三池・安保闘争への参加 ●同和对策審議会答申と「特別措置法」の制定 ●「人権教育」の広がり ●狭山差別裁判 ●結婚・就職差別 ●企業・労働組合・宗教界での取り組み ●研究と文化活動 ●国際連帯活動</p> <p>第3部 戦後編Ⅱ・・・部落解放に向けた新たなステージ ●「部落解放基本法」の制定を求めて ●各地で進む人権条例 ●「特別措置法」期限切れ後と法整備 ●反差別の国際運動 ●国連の人権活動と連携 ●人権博物館 ●石川一雄さんの仮出獄と第3次再審 ●あとを絶たない差別事件 ●震災と部落解放運動 ●部落解放と人権確立を目指して</p>	1922年3月3日、京都市の岡崎公会堂で全国水平社が創設されました。この大会で読み上げられた水平社宣言は、あらゆる差別の撤廃と、すべての人が人として尊重される社会の実現を呼びかけた、日本最初の人権宣言と言われています。 以来、部落解放運動は幾多の試練を経ながら、水平社宣言に盛り込まれた基本精神に基づいて歩み続けてきました。 このビジュアル教材は、部落解放・人権研究所編『部落解放運動の歩み100頁 ビジュアルブック』の内容を、より多くの方に理解していただくため、制作したものです。	3部構成 各部20分	H24年度 (2012年度)	H24年度 (2012年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	今、地域社会と職場の人権は！	<p>主人公の茂木と守山は大学時代の同級生で、同じ悩みを持っている。</p> <p>第1章 商社会社に勤める茂木（48）は、派遣社員の西野（52）が、最近居眠りが多いと、部内の苦情を耳にする。西野は母に認知症が出始め、深夜徘徊するため睡眠不足に陥り、体力にも限界を感じ仕事に打ち込めずいた。それに気づいた同僚の石川（50）は、上司の江原課長（47）に相談を持ちかける。江原はこれから先、高齢者を抱える社員も多くなり、会社として考えていかなければならない問題として、部長の茂木に相談。アドバイスを受けながら、働きやすい職場をめざそうとする。</p> <p>第2章 同じころ、女子社員の岡田和美（32）が、保育園に通う娘、藍（4）のことでたびたび早退し、他の社員に迷惑をかけ、課内は不満がたまっていた。茂木は、少子化社会の中、子どもを育てる女性にとって働きやすい職場をきずいて行く事の大切さを感じる。また、これらのことは大きな社会問題でもあり、地域社会の取組と高齢者の問題と併せて真剣に取り組まなければならぬと決意する。</p> <p>第3章 一方、茂木の大学時代の同級生で不動産会社に勤める営業部長の守山（48）は、自分の部下の尾田咲江（35）が、セクハラ・パワハラ被害に遭っている事実を知り、加害者である咲江の上司、大隈（43）の行動を正していく。そんな中、咲江の携帯に「山下伸幸（33）は、同和地区出身であることを知っていますか？」とメールが届いた。咲江と山下は同じ営業部で恋人同士でもある。咲江の心は揺れる。咲江はハラスメントの問題と、誰からか分からない卑劣なメールの事を守山に話す。</p> <p>第4章 守山は、ハラスメントの問題で上司が部下をいじめ、自殺に追い込んだ問題や、職場のいじめが原因で人間不信になり、家に引きこもってしまうケースなども知っていた。守山は、社内で起こったハラスメントの問題と未だに同和地区の人に対して差別意識を持っている人がいることに気づかされ、これらの問題をみんなで考え解決しようと朝礼で話す。そして、守山と茂木は、会社は違うが、現実社会の人権問題として同じ悩みを持っていることで力を合わせ、「差別のない明るい社会を築いていこう」と二人で誓うのだった。</p>	<p>「増え続ける高齢者の問題」「子育てする女性の問題」「パワ・セク・ハラスメントの問題」「部落差別問題」に視点をあて、誰もが地域と職場で、自分の持っている能力や個性を發揮し、生きがいを持って働ける環境づくりの大切さを問いかけていきます。そして、皆が『生き生きと安全で安心できる社会』の取り組みと、共に支え合う「共生社会」の実現をめざす学習教材用作品です。</p> <p>映像を止めて話し合うことが出来る4部構成ドラマ</p> <p>第1章 高齢社会の中の地域と職場の人権 第2章 子育てと働く女性の人権 第3章 ハラスメントを見逃さない職場と人権 第4章 部落差別問題、差別のない明るい社会を！</p>	36分	H23年度 (2011年度)	H23年度 (2011年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	クリームパン	<p>多田公佑（25）は派遣切りに遭って失業中。アパートで一人暮らし。親しい友人も近所づきあいもなく、携帯ゲームだけが友達。再就職もうまくいかず自暴自棄な生活を送るうちに、心と死のうたか考えベランダに出ると、男の怒鳴り声が聞こえてきた。</p> <p>隣室を見ると、男（戸倉）が小さな男の子（武史）を二階から落とそうとしている。恐怖で泣き叫び、母（美波）に助けを求めると、顔には殴られたようなアザが見える。見ていたら戸倉に脱まれ、逃げるように部屋に戻りアパートを飛び出す。</p> <p>商店街をあてもなく歩いていた公佑は、いい匂いがしてくる小さなパン屋の前で立ち止まる。店主の珠子に試食をすすめられ、公佑はクリームパンを1個買う。部屋に戻ると、腹を空かせた武史がベランダに締め出されていた。クリームパンを武史に渡す公佑。</p> <p>珠子は、顔見知りの武史が虐待を受けているのではないかと噂を聞き、心配する。偶然、隣人である公佑と出会い、事情を聞いて民生委員・児童委員に相談することに決めた。そのことが縁で公佑は珠子の店でアルバイトを始めた。仕事帰り、一人で遊んでいた武史と一緒に遊び、仲良くパンを食べる。それを見た戸倉は嫉妬と怒りの眼差しで二人を見る。</p> <p>公佑が部屋に戻ると、隣室で戸倉が暴れただしている。人が壁にぶつかるような音、そして武史と美波の悲鳴。いてもたってもいられなくなって、珠子に連絡する公佑。武史の助けを求めると、突き動かされるように、美波の部屋のドアを叩く。</p> <p>入院した武史のもとに集まる公佑、珠子、美波。珠子は誰にも話さなかった阪神・淡路大震災で起きたことを話す。公佑も自分の身の上を語り始めるのだった。</p>	<p>「いのちと人権」～つながる命を感じて～</p> <p>子どもや若者たちの間で、あまりにも軽くつかわれる『死にたい』『死ぬ』『殺すぞ』といった言葉。それは、彼らが「いのち」の尊さに気づいていないことの表れでしょう。もしかしたら、大人も気づいていないのかもしれない。</p> <p>「いのち」とは温かく、すっきりと重いもの。一度失われたら、二度と再生しないもの。このドラマでは、人によって生かされ、つながっていく「いのち」を中心に描いています。</p> <p>虐待やいじめなど、人を傷つけ、命を奪うのも「人」ならば、傷つき、死に瀕している人の命を救うのもまた「人」なのです。人と人が互いに、心を通わせることで救えるいのちがあります。子どもへの虐待や若者の自殺など社会問題になっている事件を通して、社会や地域の中で孤立している人々に対する正しい理解を訴えるとともに、このドラマを見た方々に、今一度、「いのち」について自分の問題として考えていただけるような人権啓発ビデオです。</p> <p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動を通して、「いのち」を軽んじる風潮に流されていないか、日頃の自分自身の言動を振り返る。 「いのちのきずな」に気づくとともに、お互いの人権を尊重し合うことは、生きることの素晴らしさや生きる喜びにつながるという事を認識する。 「いのち」を大切に生きる方をするために、人と人とのつながり、家庭の果たす役割、家庭と地域社会の関わり方について、自分の問題として考える。 	36分	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の心を伝えたい(第13巻) 母娘で問うた部落差別	<p>鳥取県米子を拠点に活動する坂田かおりさん。今回、愛梨（18）瑠梨（17）との母娘講演が実現。部落差別をはじめ、あらゆる差別にNO！を。</p>		30分	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ・ドキュメンタリー	日常の人権Ⅰ (女性の人権・子どもの人権・高齢者の人権)	女性の人権 【ドラマ編】自分の無自覚な態度や言葉が、妻や会社の女性たちを傷つけていることに気づいていない 会社員の姿を描く。 【ドキュメンタリー編】ドメスティックバイオレンスの被害者の心の痛みなど、女性たちの声を通して、なぜ女性差別が生まれるのか、男性優位の考え方を見直していく。 子どもの人権 【ドラマ編】親が子供を守るのは当たりまえ。だが、そんな母親と心が離れていく子どもたち。子どもの人権に無自覚な親に気づきはあるのか。 【ドキュメンタリー編】親のどんな態度や言葉で傷つるか、子どもの言葉から子どもの権利と人権について考えていく。子どもの虐待についても触れる。 高齢者の人権 【ドラマ編】認知症が始まった母親の介護をしている女性は、介護に疲れ果て、気持ちのゆとりを失っている。 【ドキュメンタリー編】高齢者は、周りの人々に対してどんなことを望んでいるか、社会の中で孤立感を深める高齢者の心の内を伝える。また、介護の現場で増え続ける高齢者虐待にも触れる。	日常生活の中に潜む様々な人権問題を取り上げています。ドラマで人々の心にある偏見を、そしてドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝えます。人権について様々な角度から考えることができるDVDです。	23分	H21年度 (2009年度)	H23年度 (2011年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	日常の人権Ⅱ (外国人の人権・障がい者の人権・部落差別・インターネットでの人権侵害)	外国人の人権 【ドラマ編】外国人に道を聞かれても無視する若者。入居者の外国人を批判する大家など、多くの日本人が持つ外国人への苦手意識を描く。 【ドキュメンタリー編】日本に住む外国人たちが、この国での孤独感や差別意識など日頃の体験を語る。 障がい者の人権 【ドラマ編】同じ職場にいる知的障がい者の仕事ぶりに苛立つ若者や、会社の面接に来た人が障がい者であることに悩む会社員。彼等は自らの偏見に気づいていない。 【ドキュメンタリー編】障がいを持った人々の生の声を通し、障がいのある方にとっての働く意味を考えていく。 部落差別 【ドラマ編】妹が結婚することになった夫の傍で、妻は問いかける。「相手のこと、よくわかって結婚するのかしら・・・」 【ドキュメンタリー編】部落出身者を誹謗中傷するはがきを受け取った方がその恐怖を語る。未だに終わらない部落差別の現状を考えていく。 インターネットでの人権侵害 【ドラマ編】インターネット上の様々な人権侵害。そこには犯罪を犯した未成年者の顔写真や個人情報載っている。 【ドキュメンタリー編】増え続けるインターネットでの人権侵害について、街頭インタビュー。また、企業ではプライバシー保護マーク、通称Pマークの重要性について語る。	日常生活の中に潜む様々な人権問題を取り上げています。ドラマで人々の心にある偏見を、そしてドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝えます。人権について様々な角度から考えることができるDVDです。	23分	H21年度 (2009年度)	H23年度 (2011年度)
子どもの人権	DVD	アニメ	桃色のクレヨン (少年・青年向)	「そうやねん、8年ぶりにいとこの雪ちゃんが外国から帰ってくるねん」美奈子の胸は期待でいっぱいです。自分より1歳年上の素敵なお姉さんに成長した雪に再会することがとても楽しみです。 英語を教えてもらったり、洋服を取り替えてくれたり、ビデオを見たり・・・。美奈子は雪といっしょにいろんなことをして遊びたいと思います。 美奈子は、雪のことを学校で一番仲良しの沙希や夏子にも自慢します。ところが、美奈子の前に現れた雪は自分が想像していたよりも幼く見えました。美奈子は思いました、「何かへんや?」。父から、雪には知的障がいがあることを知らされます。戸惑った美奈子はそのことをかくすためにみんなにウソをつき、そのウソがばれてクラスのみんなから仲間はずれにされてしまいます。 そんな中、雪のやさしさにふれることで美奈子は様々なことに気づかされるようになります。一方、雪は桃色のクレヨンを探しています。みんなは雪にピンクのクレヨンを出しますが、「ピンクと桃色は違う」と言って受取ろうとしません。雪が探している桃色のクレヨンとは、いったい何なのでしょう?それは美奈子が忘れてしまった幼い頃の雪との思い出にかくされているようです。 最後に、美奈子、沙希そして夏子も雪の姿を通して大切なことに気づきます。	基本的な人権は、日本国憲法で保障された権利で、民主主義の基本です。基本的な人権を中心に人権尊重の考え方を正しく身につけるには、幼少年期から子どもの人権意識を培っていくことが、極めて重要になります。 しかし、近年、子どもの人権をめぐる、「仲間はずれなどのいじめ」や「保護者による児童虐待」、「いじめを見て見ぬふりをする」といったような問題が数多く発生しており、他人に対する思いやりや、いたわりといった人権尊重意識の希薄化が危惧されています。人権意識とは、分かりやすい言葉で言うところ「かけがえない命」の大切さを感じることであり、「思いやり」の心」を大事にすることだと言えます。 「桃色のクレヨン」は、このような大切な事に気づいていく主人公の姿をテーマにしており、子どもと大人と一緒に見て楽しめ、少しほろろときて、それでいて心が温まります。大切なことをいっばい気づかせてくれるでしょう。	28分	H18年度 (2006年度)	H23年度 (2011年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	アニメ	探梅（たんばい）～春、遠からじ～（早咲きの）梅の花を探して見歩くこと。冬の季語。	<p>生まれも育ちも東京で、内向的な性格の石田亜紀（40）が、夫・誠（45）の故郷、北九州市に引っ越してきて初めての冬が来た。「世話好きおばさん」として有名な照井邦子（63）が何かと声をかけてくるが、その親切も亜紀にとっては「余計なお世話」だ。しかし、愛猫のバニラが家出してしまったため、亜紀は苦手な邦子にも助けを求める。</p> <p>バニラを拾って面倒を見てくれたのは、同じ町内に住む一人暮らしの男・浪岡康弘だった。しかし、浪岡は昼間から酔っぱらっていることが多く、近所の人たちからも警戒され、孤立している人物だった。それでも、バニラのことと浪岡に恩を感じている亜紀は、邦子と一緒にあらためてお礼に行く。邦子は福祉協力員として「ふれあいネットワーク」に積極的に参加しており、地域の見回りや見守りをしてきた。だが、浪岡はドアを開けてはくれなかった。</p> <p>そんなある日、二人の目の前で、浪岡が倒れた。浪岡は重い病気で、しばらく入院することになった。浪岡は、自分を助けた亜紀や邦子に対しても心を閉ざし、悪態をつく。「自分みたいな人間は死んだほうがいいんだ」と。浪岡は自分が地域の住民から疎まれていることを自覚していた。浪岡が自暴自棄な態度を取るのには、もう一つ理由があった。遠い昔、自分の勝手に家族を捨てたことへの負い目があったのだ。娘が二人いるが、いまさら会えるわけがないと…。</p> <p>亜紀は邦子と共に、親身になって浪岡の世話をした。浪岡が退院した日、亜紀と邦子は、お互いの胸の内を語り合う。邦子は、息子に発達障がいがあり、死を考えると悩んだことがあったと打ち明けた。そんな時、支えてくれたのが、民生委員の橋本で、今自分がかかっていることは返したと。亜紀は、邦子の言葉に心を動かされ、福祉協力員のメンバーになる。</p> <p>2月、亜紀と邦子は地域の交流イベントを提案する。白洲梅林へのピクニックだ。車いすの浪岡も参加した。白洲梅林は、浪岡にとって娘たちとの大切な思い出の場所だった…。</p>	<p>学習ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会からの排除と孤立 ・ 包み込む社会へ <p>人権課題の多くは、人を排除する意識から生まれ、人が孤立することで深刻化していきます。しかし、「困った時はお互いさま」その気持ちの人が温かく結び付けます、助け合う社会へと導きます。「排除」「孤独」を生み出す社会ではなく、互いに違いを認め、支え合い、あらゆる人を包み込む社会をつくっていききたい。北九州市が展開する『いのちをつなぐネットワーク』を取り上げながら、「包み込む社会」に焦点を当てています。人と人とのつながりや助け合いの根底となる人権尊重について考える作品です。</p> <p>なぜ包み込む社会が必要なのでしょう。私たちは自分への関心と同じように「他者への関心」を持つことが大事だとされています。自分の行動がより大きな共同体のためになるように積極的に活動しようとするのが包み込む社会の理念です。このような地域に貢献しようとする個人の感覚は「共同体感覚（他者への関心 Social Interest）」と呼ばれます（アドラー心理学）。この感覚は三つの側面を持ちます。①私は共同体の一員だという「所属感」②共同体は私を助けてくれるという「信頼感」③私は共同体のために役立っているという「貢献感」の三つです。これらの融合した感覚の育成と発達包み込む社会では望まれるのです。</p> <p>映画の中では、この共同体感覚を失ってしまった人物が描かれます。地域で孤立した一人暮らしの浪岡康弘です。そしてその彼のかたくなな心と何とかなうかろうとする福祉協力員（別名：見守り隊）の照井邦子の日常的な活動が描かれます。一見「おせっかい」に見られる邦子の行動に東京から転居してきた亜紀は影響を受けます。その結果、亜紀は包み込む地域社会実現への関心を高め、彼女自身の共同体感覚を育てていくことになりました。</p> <p>私の恩師の言葉です。「無関心は心の死である。他者の苦しみを発見を見ぬかりをすることによって、自分の心の大切な何かをマヒさせ、死に至らしめている。」この映画は、心の死を感じていた人たちの蘇生のドラマです。そして蘇生に必要なのは他者への関心であり、「独りぼっちの死を迎えさせてはならない。孤独や寂しさを感じさせてはならない」という、地域社会を支える私たちの強い意志と行動であることをこの映画は訴えているのです。</p>	40分	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)
その他	DVD	ドラマ	あの空の向こうに	<p>放課後、下校する福永明日香と小坂紗織。明日香はケータイを取り出し、自分のブログの「AS☆KAはあつろく」にアクセス。ブログの画面には、明日香が遊び心で載せたスクープ写真と文章。寄せられたコメントを読む2人は一気に表情が強張る。</p> <p>篠山に住む祖父の弥一からの電話に、元氣なく答える明日香。明日香の様子が気がかりな弥一。福永家の夕食時、明日香の母の千恵美は夫の崇史に、メールばかりしている明日香に意見してくれと頼むが、真剣に取り合ってくれない態度に千恵美の怒りが爆発。</p> <p>明日香の担任の高遠が福永家を訪問し、明日香が作っているブログの一件を千恵美に知らせる。まったく知らなかった千恵美は、愕然とする。高遠は明日香にブログの削除をさす。</p> <p>明日香のケータイに着信音。メールに添付された盗撮写真を見てショックを受ける千恵美。祖父の弥一が明日香のことを心配して、篠山から出てくる。崇史と千恵美は明日香のブログのことで夫婦喧嘩を始めてしまう。たまりかねた弥一が「当分、明日香を預かる」と言い出して、明日香は篠山の弥一の家で過ごすことに…。</p> <p>篠山の家で、明日香は弥一に「人と話すのは面倒だし疲れる、メールのほうが楽だ」と話す。弥一は、人と人とのつながりというものについて、自分の思いを語る。明日香の心の中にたまっていた様々な思いがこみ上げてくる。</p> <p>豊かな自然の中で、弥一と隣家の嘉子とのふれあいを通して、少しずつ落ち着きを取り戻す明日香。時間と距離を置いた家族は、それぞれが相手の立場に立って考え直す機会であった。それぞれの出した結論とは…。</p>	<p>私たちが普段何気なく使っているケータイやインターネットがある日突然「凶器」に変わってしまう。ケータイやインターネットによる人権侵害は、いつ、だれの身に起きてもおもたない深刻な問題です。誰もが被害者に、そして加害者にもなり得るのです。</p> <p>このドラマは決してケータイやインターネットを敵視するものではありません。文明の利器を凶器に変えるのも、傷ついたり心を癒すのも「人」なのです。本当の意味での心のつながりとはどういうことかを改めて見つめなおし、お互いに「思い」を交わし、心の寄り添うようなコミュニケーションを図ることの大切さと家庭の果たす役割にも気づかせます。インターネット等の利用に当たっての人権意識・人権感覚の重要性や人と人とのふれあい・語り合いの大切さを訴え、心豊かなコミュニケーション社会をめざしています。</p> <p>■気軽にケータイやインターネットを使うことが日常化した中、それが常に人権侵害と隣り合わせにあることを忘れていないか、ネット依存症に陥っていないか、自分自身の生活を振り返ってみましょう。</p> <p>■本当に豊かなコミュニケーションとはどういうものかを考えるとともに、インターネット等の活かし方について考えてみましょう。</p> <p>■ここから豊かな社会を形成するために、人を思いやることの重要性を認識し、人と人とのつながり、家庭の果たす役割、地域社会に生きる一員としてのあり方を、私たちの生き方の問題として考えてみましょう。</p>	38分	H21年度 (2009年度)	H22年度 (2010年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
その他	DVD	アニメ	ボクとガク	<p>八幡東区・商店街のスーパー。小学校5年生の藤村希望（のぞむ）は、同じクラスの横田岳（がく）が弁当を万引きするのを目撃した。岳と一緒にいた妹とともに事務所に連れて行かれる。店長である希望の父・哲夫は岳の母・千秋を呼び出すが、千秋はいきなり岳を激しく叩く。哲夫は千秋の態度に腹をたてた。その話を聞いた希望の母・玲子は、希望に岳とあまりかわらないようにと言う。</p> <p>翌日、岳は学校を休んだ。希望が岳のアパートを訪れると、岳は熱を出して一人で寝ていた。岳の両親は離婚しており、母・千秋は昼も夜も働いていて、仕事を休めないという。岳がかわいそうになった希望は自分が看病しようとする。その折に知り合ったアパートの2階に住む杉内美代というおばあさんが一緒に看病をしてくれる。</p> <p>仲良くなった希望と岳は、ある日商店街で美代と偶然会った。途中で荷物を下ろし、一休みしながら歩いている。そんな美代を見て希望と岳は荷物運びを手伝う。美代は喜び、二人に「困った時はお互い様」という言葉を教える。帰宅した希望は哲夫に「買い物した荷物を自宅まで届けるサービスはできないか」と提案する。しかし、哲夫は「子どもの意見」をまともに聞こうとしない。</p> <p>数日後、岳の家に自慢のおもちゃを見せに行ったら希望は、岳が千秋に激しく叱られているのを見る。同情した希望は持ってきたおもちゃを岳にやろうとするが、その言い方が岳を怒らせけんかになる。そんな二人を仲直りさせるために特製の焼きうどんを振る舞ったのが美代だった。いつの間にか仲直りする希望と岳。美代は、そんな二人に1945（昭和20）年の八幡大空襲で兄を失った話をする。二度と戦火で家族が引き離されることがないように願っていると。美代の家から希望と岳が帰ろうとした時、美代が胸をつかみ倒れる。驚く希望と岳は救急車を呼ぶ。幸い一命を取り留めた美代は、見舞いに来た希望の両親と岳の母と初めて話をする。希望と岳は夏休みの工作で商店街に置いてもらうパンチづくりをしようと思いつく。そのことを聞いた哲夫は、商店街会長の浅見と相談して商店街の活性化につながるイベントを8月8日に決めた・・・。</p>	<p>「子どもの人権」と言えば「与えること」「守ること」と思われがちですが、子どもは「いや！」と拒否することも「自分でやる」と主張することもできる存在です。権利の主体として社会に参加し、意見を表明する権利があります。</p> <p>この映画では、希望（のぞむ）と岳（がく）という二人の子どもと近所に住むおばあさんとの交流を描きながら、そうした子どもの人権と、地域ではくくむ人権文化というものに目を向けました。</p> <p>また、私たちが決して忘れてはならないもの、次代に受け継ぐものとして「戦争と平和」についても描いています。</p>	42分	H22年度 (2010年度)	H22年度 (2010年度)
その他	DVD	ドラマ	人権のヒント《地域編》	<p>「思い込み」から「思いやり」へ</p> <p>街の喫茶店「カフェ・ヒューマンライツ」のママのところに、さまざまな思いをいだいた人々が集まってくる。その交流のなかから、「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解していく内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■結婚したら女は家庭にはいるのが常識？ ■障がいのある人は何が何でも介護されるべき存在でしょうか？ ■自分を通すために強く主張して相手を傷つけたり、いい世せなくて自分が傷ついてしまったりしたことはありませんか？ ■部落差別問題や外国人差別など、根拠のない思い込みと決めつけはありませんか？ 	<p>私たちは、一人ひとりが異なる個を生きています。</p> <p>人種、信条、性別、社会的身分、門地、障がいのある・なし・・・と、ひとそれぞれ、違っています。ですから相手の立場に立つことはできません。</p> <p>しかし、立てないと自覚して、そこに近づこうと努力することはできます。それが想像力であり、思いを馳せる、思いやりということだと思つたのです。地域の何気ない暮らしの中から、「思いやり」を考えてみませんか。</p>	25分	H22年度 (2010年度)	H22年度 (2010年度)
その他	DVD	ドラマ	人権のヒント《職場編》	<p>気づきのためのエピソード</p> <p>ごく普通の会社員の日常を描きながら、日頃は気づかない「人権のヒント」を探り、職場の中で私たちが考えるべき人権問題について提起する内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「男女の役割」女性は常に男性にリードされるべき存在ですか？ ■「セクシュアルハラスメント」相手が嫌がる言動はすべてセクハラです。 ■「パワーハラスメント」相手の立場に立つことが大切です。 ■「双方向のコミュニケーションがつくるもの」普段からの関係が重要です。 ■「アサーティブな主張」キーワードは（心くばり）と（思いやり）です。 ■「障がい者との共生」障がい者を先入観だけで見ていませんか。 ■「出自で差別」ある地域出身というだけで差別される部落差別問題は今も残っています。 ■「ダイバーシティの尊重」多様性を認め合うことがとても大切です。 	<p>それがなくては生きていけないものなのに、普段の暮らしの中では、なかなか意識されにくい人権。そんな大切なものだからこそ、自分で気づくということ、気づいたら自分はどう行動するべきなのかを考えるということが大事なのだと思います。</p> <p>キーワードは多様性、心配り、思いやり、デリカシーに想像力、・・・そしてあなたの見つけたキーワードは・・・？。</p> <p>職場での人と人とのふれあいの中から、人権を考える糸口を探してみませんか。</p>	22分	H22年度 (2010年度)	H22年度 (2010年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
部落差別問題	DVD	ドラマ	私の中の差別意識	<p>パート1 現代の部落差別の特徴のひとつは、インターネットでの悪質な書き込みなど、差別問題が見えにくくなっているということです。それゆえ、人々は差別問題に関し、無関心になりつつあります。人権問題に詳しい竹内良さんは語ります。「差別とは、『バカにする』『仲間外れにする』『いじめる』そして、『人を傷つける』ことだ」あなたは身近なところにおきていた差別を見落としていませんか？差別とは何か、考えてみましょう</p> <p>パート2 「部落の人と、子どもが結婚って言ったらどうするだろうね。ちょっと考えるね」「汚い食べ方をすると『エタみだいな食い方すな』って」取材された人々の何気ない一言に、差別意識が見え隠れしています。差別について、深く考えず偏見を持ち続ける人々と、結婚差別に苦しむ女性のインタビューを通してなぜ差別は残るのか、考えてみましょう</p> <p>パート3 人権啓発に取り組む川口さんは語ります。「差別する側を不自由にする。だから自分のために学習してほしい」また、隣保会館の館長、村上さんは語ります。「この社会で、差別心を持たず育つ人なんかいない。しかし人は、学習することで偏見に気づき、変わることができる存在だ」あなたの中にある差別、偏見について考えてみましょう</p>	<p>部落差別問題を通し、人の中に巣食う差別意識への気づきを促してゆきます。 あからさまな部落差別は影を潜めましたが、まだまだ結婚差別や就職差別などは残っているのが現状です。 この作品では、ドキュメンタリーを通して、差別された人々の心の痛みを伝えつつ、どうすれば差別がなくなるのか考えるきっかけを提供します。そして、自らの差別意識に気づき、正しい知識や判断力を持つことの大切さを伝えます。</p>	24分	H22年度 (2010年度)	H22年度 (2010年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	<p>部落の心を伝えたい(第12巻) 《若い力は今》 吉岡 綾</p>	<p>差別体験 吉岡綾さんは、十代のときに職場で受けた差別体験を、今でも夢に見るといいます。部落について何も知らない自分を見つめ直すことから、綾さんの解放運動は始まりました。</p> <p>母から娘へ 綾さんが始めて部落について話したのは、綾さんが小学4年生の時。部落外から嫁いだ母親にとって子育てにおいての最大の試練でした。</p> <p>若い力をつなぐ 市協で高校生を担当する綾さん。多彩なメンバーたちが目の前で見る強い信頼感とつながりは、明日への展望を確信させると言います。</p> <p>思いやりの人権教育 相手を思いやる心を育てることが、人権教育の基本だと信じる綾さん。若さあふれるエネルギーを元気づけます。</p>	<p>自らの差別体験を通して、「差別をなくす人生」を生きる吉岡綾さん。いま、講演依頼が相次ぐ。若さあふれる熱く力強い語りは、行政、企業、学校で大きな反響を呼んでいる。</p>	30分	H21年度 (2009年度)	H22年度 (2010年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	<p>部落の心を伝えたい(第14巻) 《人権感覚を磨きませんか？》 大滝 昇</p>	<p>ユニークな講演 沖縄出身の父と部落出身の母をもつ大滝昇（おおわんのぼる）さん。心理テストや自ら描いたマンガを使った講演は人権問題を分かりやすく説き起こすと話題に</p> <p>人権感覚って？ 学習会指導員として子どもたちと関わる中でいじめ等の差別的芽がどのように生まれるのか鋭く指摘、問題解決にも踏み込んでいく</p> <p>徳島県西部青年の会「友輝」 企画したシンポジウムでは仲間たちが自ら体験した結婚差別の実態を生々しく告白支え合う仲間づくりの大切さを訴える。</p>	<p>難しいと捉えがちな人権問題を、日常の身近な例を用いて、温かいかたまりで講演。また、心理テストや紙芝居などを使い当たり前前に潜む人権課題を浮き彫りにする。</p>	30分	H22年度 (2010年度)	H22年度 (2010年度)
高齢者の人権	DVD	ドラマ	<p>虐待防止シリーズ(全3巻) 高齢者虐待</p>	<p>《事例1 介護サービスを受け入れられない》 友里恵の父、昭一は、脳梗塞になった妻、みさきの面倒は自分が看るとサービスを受け入れない。介護の苛立ちはみさきへの暴力に。 友里恵は訪問看護師、澤田のアドバイスでみさきを老人保健施設にショートステイさせる。</p> <p>《事例2 虐待の自覚がない》 長男の泰樹は赤ん坊がいの出た父、勲雄を訓練で回復できると思い、妻、咲子と運動を強要。食事も少量しか与えない。 ケアマネジャーの内村が訪問すると介護放棄の状態。泰樹たちには虐待の自覚がない。介護指導を受け、過ちに気づく。</p> <p>《事例3 要介護状態を受け入れられない》 雅子は母、佳江の認知症を受け入れられず、人目に晒したくない。仕事の間、徘徊しないよう柱に縛り付ける。佳江はサービスを受けることは娘に恥をかかせることだと思い、我慢している。 民生委員、飯田のアドバイスで雅子は自分の行為が虐待に当たると気づく。</p>	<p>高齢者虐待 ～尊厳を奪わないために～ 実例3話のオムニバスドラマ。田中荘司先生がドラマに沿って、介護の問題点と虐待防止の対応法をわかりやすく紹介します。</p>	26分	H21年度 (2009年度)	H21年度 (2009年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
女性の人権	DVD	ドラマ	虐待防止シリーズ(全3巻) 配偶者虐待	<p>《事例1 やさしいときを信じたくて》 由美子と結婚して、康之はすぐに怒って物に当たるようになる。由美子は二人がうまくいけばと仕事をやめる。だが、頻繁に電話をし、家をあけることを嫌う。セックスの強要も、康之の顔を伺うようになる由美子。 友人の智子は女性相談センターに相談することを勧める。だが、康之を信じたい由美子は決心がつかなかった。</p> <p>《事例2 気づかぬうちに子どもの虐待へ》 小枝子は賢一と結婚後も暴力を我慢していた。交際中に妊娠。当初から暴力があったが、亮が生まれれば変わると期待した。しかし、暴力は激しくなる。生活費も入れない。亮が心配で暴力に耐えながら、賢一の気に障ることをすると亮を叱りつけている自分。 自分も亮もダメになる。しかし、家を出ても生活できない。小枝子は苦しみに耐えていた。</p>	<p>配偶者虐待 ～DVを許さない・しないために～ 実例2話のオムニバスドラマ。自らがDV被害者でもある高橋実先生がドラマに沿って、問題点と対応法を紹介いたします。</p>	25分	H21年度 (2009年度)	H21年度 (2009年度)
子どもの人権	DVD	ドラマ	虐待防止シリーズ(全3巻) 幼児・児童虐待	<p>《事例1 エゴの押し付け》 範子はエリを稽古事に通わせ、できないと言葉の暴力やネグレクトがある。娘の将来のためだと思い、自分の行為が虐待だという自覚がなかった。そして、ある日、保育園でエリが嘔吐を繰り返す。</p> <p>《事例2 発育への不安と孤立》 明子は孝之の読み書きが劣っていると不安にかられ、他の子と遊ばせず、部屋に閉じこめる。逆らうと体罰を加える。後に後悔し、苦しむが、自分の子育てで不安が暴力に繋がっている自覚がない。</p> <p>《事例3 過干渉としつけへの思い込み》 友美は、娘の優紀子の態度や言葉使いがよくないと暴力を。父の宏幸は、優紀子の学校での行動を細部にわたって、問い糾す。二人ははそれが親として当然と思い、優紀子の育ちを見守ることができない。そして、優紀子は・・・。</p>	<p>幼児・児童虐待 ～見えない虐待をしないために～ 実例3話のオムニバスドラマ。仁木やす子先生がドラマに沿って、問題点と虐待を防ぐ対応法をわかりやすく紹介。巻末で富田富士也先生が求められる親の気づきをアドバイスします。</p>	25分	H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)
さまざまな人権問題	DVD	アニメ	声を聞かせて	<p>八木沢優衣は念願の携帯電話を買ってもらい、友人とのメール交換に夢中だ。親友のまどかに「返信は5分以内」と言われて、食事中も気になって仕方がない。父の健介も、家にいるときは仕事の電話やメールばかり。目の前にいる家族よりも携帯電話ばかり見ている健介に、（優衣の）母・直美はあきらかに近い表情で見ている。</p> <p>優衣は、在校生や卒業生が匿名で自由に書き込める「学校裏サイト」と呼ばれるインターネット掲示板の存在をまどかに教えてもらった。そこには、級友や教師の悪口・噂が匿名の人たちによって書き込まれていた。優衣はそれを怖いとも不愉快とも思わず、友達と話のネタにしていた。</p> <p>クラスにいる安藤夏希は、携帯電話を持っておらず、人と群れない、「あの子少し変わっている」と敬遠されていた。夏希の複雑な家庭事情を好き勝手に噂する者もいた。しかし、優衣はあることをきっかけに次第に夏希の人柄にひかれていく。「携帯電話は持たない」という夏希。「自分は夏希のようになれない、みんなと同じじゃないと怖い」と言う優衣に、夏希はこんな言葉を返す。「いいじゃないあなたはあなた。私は私」。優衣は携帯電話やメールがなくても心がつながることを知る。しかし、夏希を悪く言うまどかたちに反論したことで、優衣はグループから一斉に無視をされる。</p> <p>優衣は学校裏サイトの中に夏希のことを書いた書き込みを見つけた。その夏希を擁護する書き込みをしたら、今度はその悪意ある書き込みの矛先が自分に向けられ恐ろしくなる。翌日、「学校裏サイト」に優衣の名を語った「男大好き、彼氏募集」の書き込みがなされたことから、優衣の携帯電話にいたずらメールが続々と届く。ショックで人間不信になり、学校に行けなくなる優衣。</p> <p>学校裏サイトへの書き込みに気づいた担任の青島や母の直美が優衣のために動き出す。「親として教師として何ができるか」。同じころ、父の健介も職場での不動産トラブルをめぐって、部落差別問題への偏見に直面していた。この問題でもインターネットが悪用されている。健介の中で過去の自分の体験と優衣の問題が重なる。そして、健介は娘のためにある行動をとる。一方、夏希も友達として優衣のために、動き始めた。そして、優衣は・・・。</p>	<p>携帯電話は、もはや単なる“電話機”ではありません。メールやインターネットなど、様々な機能を持つようになり、大人も含めて、「ケータイがないと不安」なケータイ依存までもつくり出しています。このケータイを子どもが持つということは、どのような環境に子どもたちを置くことを意味するのか。私たちはこの現実はどう向き合っていけばいいのか、一緒に考えてみませんか。</p> <p>この映画では、インターネット上の差別的な書き込みなど、今なお差別意識が残る「部落差別問題」についても取り上げています。</p> <p>・心の通い合う対話で、人権が尊重される社会を</p> <p>優衣は、大きな声で「まどか！声を聞かせて！」と呼びかけます。まどかが携帯のメールで「優衣、ずっと言いたくて、でも言えなかったことがあります。ごめんなさい。」と謝ってきたのです。</p> <p>優衣は親友となった夏希や両親、学校など周囲の人々の温かい支えもあり、一時は「死にたい!」とまで思いつめた孤独感から解放されていきます。そして、夏希とのメッセージ（手紙と写真と絵）の交換を通して、再起への第一歩を踏み出しました。同時に、この体験を通して、コミュニケーションは情報を伝達するだけでなく、感情を伝え合う重要な役割もあることを学びました。</p> <p>コンピュータ、インターネット、携帯などIT機器の進歩で、情報伝達の世界は一気に広がり、便利になりました。しかし、反面、負の影響も多くなってきました。インターネットの普及に伴い、その匿名性や情報発信の容易さを利用して、他人を誹謗中傷したり、差別を助長する表現や有害な情報を掲載したりする人権問題が発生しています。部落差別問題に関しても、インターネットを利用して差別的な情報を掲載するなどの事象が後を絶ちません。</p> <p>「携帯やインターネットがあるから、いじめが起きるわけじゃないんです。問題なのはそれを凶器に変えてしまう人間の心だと思うんです。」学校での先生の言葉を反芻したいと思います。</p>	40分	H21年度 (2009年度)	H21年度 (2009年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	こころに咲く花	<p>矢野加奈子は洋菓子会社で働く派遣社員。夫の純一はサラリーマンで、12歳の息子、健斗がいる。</p> <p>加奈子は、上司の田村真紀子課長が部下の小久保麻衣に厳しすぎるのを、「いじめ」であると感じていた。一方、健斗は同級生の加藤琢磨からいじめを受けているが、加奈子はそのことには気づいていなかった。健斗は最近引っ越してきた里中弓恵と出会う。弓恵には7年前に息子を亡くした悲しい過去があるが、事情を知らない加奈子や琢磨の母の知美たちから偏見の目で見られ、陰口を叩かれている存在であった。</p> <p>ある日、いじめられている健斗を助けたことから、弓恵は自分の息子が生きていたら同じくらいいじめられること、野路菊が大好きだったことを話すのだった。食卓で健斗が父親純一に「お父さんだって、いつも人の悪口を言ってる」と非難しているところに、携帯メールの着信音が鳴るが、健斗は出ない。不審に思った加奈子は携帯を取り上げ、メールを開くと「ウザイ」「死ね」などの文字。送信者が琢磨であることを知って加奈子は驚く。知美にこのことを知らせると、彼女もショックを隠せない。息子のいじめ問題を重大な問題として受け止めた知美は、家族でよく話し合うとともに学校に相談してみることにする。</p> <p>加奈子の職場では、真紀子のいじめに耐えかねた麻衣が体調を崩していく。そんな麻衣に「体調管理もできないなんて、社会失格ね」と真紀子は言い放つ。心配する加奈子だったが、上司に抗議する勇気はなく、どうしたものかと悩んでいる。そして、麻衣がついに病気休暇。心配になった加奈子は麻衣の自宅を訪ねる。心身ともに疲れ果てて自信をなくした麻衣は、仕事をやめるところまで追い詰められていた。</p> <p>加奈子は弓恵から、健斗に出会ったことで、亡くなった息子の話を初めて人に話せたことや健斗が優しい言葉をかけてくれたことを聞かされ、息子の知らない一面に驚き、自分の誤解と偏見に気づく。</p> <p>ついに加奈子は決意する。「もう傍観者はやめると。」「健斗のためにも、まずは大人の俺たちが「いじめ」をなくしていかないと」と純一も応援してくれた。加奈子は男性社員の錦戸に立ち会ってもらって、上司の陣内室長と真紀子に、麻衣の退職問題で抗議する。真紀子は適切な指導をしていたけれど反論するが、「指導なんかじゃない。いじめです。」と加奈子はきっぱりと言い切る。はたして、話し合いの結末は・・・。</p>	<p>いじめのない、人権文化の息づく社会をつくるために ～パワハラ、子どものいじめを通して～</p> <p>今、学校や地域でのいじめ、職場でのパワハラ、セクハラが人権侵害として大きな社会問題になっています。いじめは決して他人事ではなく、「私」「自分」の問題なのです。それは、いじめに関して私たちは皆、いずれかの形で加害者、被害者、観衆、傍観者の中にいるといわれているからです。そのことを自覚しているか、いないかで状況は大きく変わってきます。</p> <p>このドラマでは、いじめ構造の中で多数を占める傍観者、観衆たちが一歩を踏み出して、勇気を持って声を発すれば、必ずいじめの解決につながるということを訴えかけます。私たち一人ひとりが、自らの内面に潜む「いじめの心」を克服し、みんながお互いを認め合い、支え合って、「誰もが幸せに生きる」社会づくりを進めていくために、このドラマを制作しました。</p> <p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自らの意識を再点検し、日ごろの言動を振り返ることで、「いじめの心」は誰の内面にも潜んでおり、いじめの問題は他人事ではなく「自分自身」の問題であることを自覚する。 子どものいじめの実態と、職場でのいじめ・パワハラ、また、日常生活の中でのいじめの現状を知り、それぞれの原因や背景を認識する。 いじめを解決するために、傍観者から脱して一歩を踏み出し、勇気をもって声を発するなど、他人や社会への積極的な関わりを持つ生き方を考える。 	35分	H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	親愛なる、あなたへ	<p>小野寺弘務は、仕事一筋に生きてきた。まもなく定年退職を迎えようとしている。妻陽子は、まちの定食屋「まちの灯」を経営する近松芳雄・春江夫妻らとともに地域のボランティアをしているが、弘務は地域のことに関心がない。</p> <p>ところが、弘務の退職を目前にして、陽子は脳梗塞で急死してしまう。葬儀後、自分に反発心を持つ一人息子の信吾と口論し、孤立する。そして、退職を迎える。陽子がいなくなった今後は思うと、途方にくれる。そんなとき、陽子の世話になっていた長田チヨノの訪問や「まちの灯」での近松夫妻の話を通して、弘務は自分が地域での陽子の様子をほとんど知っていなかったことを痛感する。</p> <p>また、チヨノの息子修二にとって、母の介護が重い負担になっていることも知る。弘務は、「まちの灯」で、磯辺美奈代・竜親子に出会う。派手な外見の美奈代に反感を覚え、春江と子育て論を戦わす。久々に心を開いて話したり、笑ったりしている自分に気づく。</p> <p>翌日、チヨノの家に行くと、老人ホームに預けられようとするチヨノを目の当たりにして、愕然とする。</p> <p>竜が一人で鉄棒の逆上がりの練習をしているところに通りかかった弘務は、思わず指導を始める。そこへ、事情を知らない美奈代が現れ、弘務と言い争いになる。</p> <p>数日後、再就職の誘いの電話がかかってくる。そこへ、信吾が陽子の好きだった絵の裏に隠されていた手紙を届けに来る。弘務は、自分に対する陽子の思いが綴られた手紙を読むが・・・。</p>	<p>現在、都市化や核家族化が進行し、地域社会における人々の結びつきが弱まっています。近隣同士であっても互いに無関心、無理解でいることにより、様々な人権問題が起きています。</p> <p>本来、地域の主人公はそこに暮らすすべての人々であるはずですが。しかし、実際には、自分も「まちづくり」の主人公であることをすっかり忘れて、他人任せになりがちです。</p> <p>このドラマでは、一人の人間の気づきと再生を中心に描いています。一人ひとりの「気づき」こそが、互いに支えあう力が低下した地域の「再生」につながります。無関心、無理解という冷たい壁を破って、温かい見守りと相互支援を進めることの大切さを語りかけます。</p> <p>地域に関わるすべての人が、同じ社会の構成員として、よりよい暮らしづくりを実践する地域社会を創造していくために、このドラマを作成しました。</p> <p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ビデオの主人公の行き方を追体験することを通して、日頃の自分自身の言動をふり返る。 私たちの身の回りに人権に関わる課題が数多くあることから、まず身近な人や出来事に関心を持つことが人権尊重の第一歩であることに気づき、地域を見つめ直す契機とする。 一人ひとりが地域社会の構成員であることを自覚し、自分の能力や経験を生かすなど、主体的な生き方について考える。 	37分	H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	ありったけの勇氣	<p>小学5年生のクラスメート、直子、真由美、美紀、千恵子たち。クラス対抗のドッチボール大会が近いので練習にも熱が入る。</p> <p>ある日・・・、勉強も運動も優れ、人に負けるのが大嫌いな千恵子は、クラスの練習で運動が苦手の美紀に負かされる。その日の帰り、千恵子は美紀の靴を隠し、翌日には美紀にいじめさながらのドッチボールの特訓をする。直子と真由美は心配そうに特訓の様子を見ていたが、たまりかねた真由美が助けに入り、美紀の代わりに千恵子らへ立ち向かう。一方、直子は一歩も足を踏み出す勇氣が出なかった・・・。</p> <p>やがて、千恵子たちのいじめは真由美に向けられるが、真由美は親友の直子を巻き込まないよう、みんなと距離を置いて一人で無言を貫く。直子は自分の勇氣のなさや真由美の態度に悩むが、あることで真由美の真意を伝え聞く。直子は何とか真由美を助けたいと思うが、どうすればいいかわからない。しかし、美紀と相談を重ね、先生や両親のアドバイスもあって少しずつ元氣と勇氣を取り戻していく・・・。</p> <p>その後いじめが直子にも及ぶが、直子は真由美や美紀から勇氣を集め、三人分のありったけの勇氣でいじめに立ち向かう決心をする。</p> <p>試合前の教室で、みんなに「『いじめるグループ』が無くならないのなら、『いじめないグループ』を作りたいと思います」と提案し、みんなが拍手で賛同した。</p> <p>千恵子は後で直子らに言い訳をするが、真由美たちの「美紀や直子の気持ちを考えたことある?」「いじめてるつもりがなくても、相手がいじめられてると思ったら、それはいじめや!」の言葉にがっかりする。だが、直子たちはそんな千恵子を励まし、みんなで試合へと向かった・・・。</p>	<p>「いじめはやめよう!」といえる勇氣を子どもたちに伝えたいー</p> <p>子どもたちは「いじめは良くない・悪いことだ」と心の中では思っている。「自分がいじめられるのでは?」という不安から、いじめる側に回ったり、見てみない振りをしてしまうのではないだろうか。</p> <p>このドラマでは、友達との関わりや相手の気持ちを考えることの大切さ、いじめをなくすためにお互いに認め合い、本音で話せる関係づくりなどいじめに立ち向かう勇氣の大切さを伝えます。</p>	27分	H19年度 (2007年度)	H20年度 (2008年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	職場の人権 ～相手のきもちを考える～	<p>職場にはさまざまな人間関係がある。上司と部下、男性と女性、先輩と後輩、正社員と派遣・パート社員。両者の間には様々なトラブルが生じ、パワハラやセクハラ、心の病に発展することも珍しくない。</p> <p>これらは、コミュニケーション不足や相手への理解不足が原因であることが多い。</p> <p>職場を取り巻く環境が激しく変化している現在、自分の価値観だけを押し通しては、共に同じ目標を目指すことは難しくなっている。つまり、今まで以上に“相手のきもち”を考えて仕事をしないといけないということである。</p> <p>しかしながら、発想を変えれば、“相手のきもち”を考えていい仕事ができれば、職場とは多様な人々の多様な価値観に接することのできる貴重な場所である。</p> <p>立場や条件の異なる仲間と、お互いの人権を尊重しながら良い職場環境を作るためにはどうすればよいか。この作品は、パワハラやセクハラ、コミュニケーション不足で起こるトラブルを防ぐために“相手のきもち”を理解することの重要性を説く。</p>		27分	H20年度 (2008年度)	H20年度 (2008年度)
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	名前・・・ それは燃えるいのち	<p>桜が舞い散る、新学期。4年3組の新しい担任になったのは、姜明子先生でした。</p> <p>元氣いっぱいクラスの中で、よりかと平吉は宿命のケンカ友だち。名前のことでケンカになったよりかと平吉に、姜先生は、宿題を出します。「自分の名前のことを調べて、みんなの前で発表してください」</p> <p>翌日、みんなの前で発表する二人の顔は輝いていました。両親の深い愛情に気づいた、よりか。ブラジルに移住した祖父を誇りに思う、平吉。そして姜先生にも、自分の名前への深い思いがありました。</p> <p>民族を隠し、「あきこ」と名乗っていた中学生の頃、姜先生が出会ったのは、ゴダイゴの「ビューティフル・ネーム」でした・・・。</p>	<p>ひとりにひとつ、誰もが持っている、名前。自分の名前、友達の名前・・・名前に込められた思いに気づいたとき、ひとりひとりの命の大切さ、ひとりひとりの違いの素晴らしさが、見えてきました。</p>	18分	H18年度 (2006年度)	H20年度 (2008年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
外国人の人権	DVD	ドラマ	ホームタウン 朴英美 (パク・ヨンミ)のまち	<p>大阪市生野区で生まれ育った在日韓国人3世「朴英美（パク・ヨンミ）」は、大阪市内の総合病院で働く新任看護師。小学校のときに民族学級で学んだ英美は、両親の教えもあり、本名を使うことは当然のことと思っている。</p> <p>ある日、英美は、就職で大阪に来たばかりの患者から「在日の方と会うの、初めてなんです」と屈託なく言われる。その夜、英美は、「本名を名乗りたくても名乗れない在日韓国人・朝鮮人がいる」ことを両親から聞く。</p> <p>英美が担当する高齢の患者（垣内忠雄）は、英美が在日韓国人であることを知り、問いかけても返事をしなくなる。垣内の娘（陽子）が親の反対を押し切って韓国人と結婚し、その後、絶縁状態になっていたのである。また、先輩看護師の「韓国人やけど、よう頑張ってる」という言葉に、英美はさらに傷つく。</p> <p>数日後、保育園児のマリアが男児ともみ合い、頭を打って入院する。フィリピン人の母エリーが、言葉の問題で日本人の保護者と打ち解けられず、マリアもいじめられるようになっていた。英美は、思いを十分に伝えられていないことが原因と気づき、真紀（英美の友人、保育園で働く保育士）とともに何か行動を起こしたいと考える。</p> <p>垣内の手術が近づき、英美は韓国で暮らす陽子に電話をかける。病状を知った陽子は、夫と子どもをミョンヘとともに病院に駆けつける。しかし、垣内は英美に「余計なことを・・・」と大声を出し、陽子は落胆する。垣内に会うのを楽しみにしていたミョンヘは、一人で病室に行き、「おじいちゃん」と呼びかける。垣内と会える日のことを考え、日本語も教えながらミョンヘを育ててきたスンチョル（陽子の夫）の思いを知った垣内は、韓国・朝鮮人に対する自らの偏見に気づく。</p> <p>真紀がエリーのために企画したアジアン・フード・パーティには、保育園児やその保護者など、多くの人々が参加し、エリーの夫も駆けつける。フィリピンへの帰国を考えていたエリーは、「もう少し日本にいる」と真紀や英美に伝える。</p> <p>パーティが終わり、帰って行く人々を見送りながら、英美は母に「ずっと守ってくれてありがとう」と言い、母は「あなたがあなたらしく生きられれば、オンマはそれでいい」と応え、2人はうなずきあう。</p>	<p>在日外国人が学校や社会で経験する様々な葛藤を描きながら、本名を名乗り、看護師として前向きに生きようとする在日韓国人3世の姿を通して、名前や国籍の違いを認め合い、それぞれの生き方・考え方を大切にして相互に理解しあうことの必要性を学び、すべての人の人権が尊重される豊かな社会の実現について考えるきっかけとする。</p> <p>話し合いのポイント ○「やっぱり違うんですかね、私たちとは」といった看護師の気持ちについて考えよう。 ○「本名で育てるかどうか迷ったんや」と言った英美の母の気持ちについて考えよう。 ○「その場合のおいしいドレッシングって何？」という英美の問いかけについて考えよう。</p>	54分	H19年度 (2007年度)	H20年度 (2008年度)
高齢者の人権	DVD	ドラマ	老いを生きる	<p>認知症の三浦富江は徘徊癖があり家族を困らせていた。ある日、徘徊の途中おしっこを濡らし息子の嫁・貴子に叱られ、交番の前をうろろしているところを保護される。巡査はそのとき、腕にあるアザを見逃さなかった。事情を知った民生委員は、地域包括支援センターに連絡する。</p> <p>早速、社会福祉士の山西と保健師の水上が、富江の家を訪ね「手足を縛ることは虐待ですよ」と貴子は二人から指導を受ける。さらに山西は認知症の人のための家族の会を紹介する。家族の会に出席した貴子は、吉岡紀子から高校生の孫娘が介護の手助けをしてくれたことを聞き、この問題は、家族ぐるみでとり組むことが大切だと言うことを学ぶ。</p> <p>同じく一緒に出席した夫の洋一は、日ごろは自分の親を貴子に任せて、好きな釣りや仕事にかこつけ、貴子に大きな負担をかけていたことに気づく。</p> <p>貴子もまた、高齢社会の中、悩みを持っているのは自分だけではないことを知り、心に変化が出てくる。二人は、認知症ケア専門士の谷口から、認知症を隠すのではなく、病気なので徘徊することを自治会とか老人会に相談しておいた方がいいとアドバイスを受ける。</p> <p>また、介護に疲れて夫に虐待をしていた武本好恵からも地域包括支援センターの山西に命を助けられたことを聞き、お互いに助け合うことを約束する。</p> <p>そして貴子は、夫に「私たちの親やないの、おばあちゃんにもっと長生きしてもらおう」と病気を認め、二人ですすり泣く。その後、地元の人たちの協力もあり、貴子も少し元気が出てきた。</p> <p>ある日、歩こう会の会長から、紅葉真っ盛りの根来寺へ富江が誘われる。幼馴染の吉田は「富ちゃんに恥かかしどうない」と反対するが「明日はわが身かも知れない、助け合うことが大切だ」と会長に説得され、しぶしぶ了解する。</p> <p>その当日、吉田は体力がないため途中でへたばってしまう。足の遅者な富江は、吉田の手を引き無事ゴールする。みんなの大きな拍手と笑いが、根来寺にこだまし「富江さん、あなたはまた優しさや思いやりの心を忘れてへん」と会長の言葉と富江の久しぶりの笑顔に貴子と洋一は涙するのだった。</p>	<p>一緒に考えてみましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者・認知症の方に対する偏見や固定観念等を取り除くにはどうしたらいいでしょうか。 ●高齢者介護における問題点とはどんなことでしょうか。 ●高齢者虐待の問題解決にはどんなことが必要か、虐待の原因と解決方法についてどうしたらいいでしょうか。 ●高齢者も社会の一員であることを認識し、その知恵や豊かな体験を十分に活用できる環境をつくり、人権を尊重して共に生きていく社会をつくっていくにはどんなことが必要でしょうか。 <p>虐待、高齢者のサインを見抜くには!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お年寄りだけで暮らしている場合・・・民生委員を中心に隣近所、自治会、老人会の人たちの気配りが常に必要です。 ●家庭内で起こる場合・・・虐待を見抜くのは、非常に難しいことですが、例えば、大声が聞こえたり、顔や手にアザがきたり、しばらく見なかったり、家族の誰かがやせ細ってきたり、色々な兆候がみられます。気づいた時は、市町村か地域包括支援センターに直ぐに連絡してください。 <p>認知症とは</p> <p>記憶や判断力などの精神機能の減退により、日常生活に支障をきたした状態をいいます。認知症は病気によるものであり、代表的なものとして「アルツハイマー型認知症」と「脳血管障害が原因による認知症」があります。</p> <p>地域包括支援センターってどんなところ？</p> <p>高齢者のみなさんが安心して生き生きと暮らすために、様々な面から総合的に支えるために設けられた、身近にある相談窓口です。</p>	35分	H19年度 (2007年度)	H19年度 (2007年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
さまざまな人権問題	DVD	ドラマ	人権と向き合う～違いを認めあうために～ 障がいがある人・外国人・ハンセン病・部落問題	<p>■障がいがある人 横河ファウンダー株式会社・・・知的障がいがある人が多数働いている会社です。この会社では、障がいがある人がいきいきと働いている姿が見られます。「職場で知的障がいがある人たちと仕事をするために大切なことは何なのでしょう？」という問いの答えから、障がいがある人への私たちの思い込みや偏見について考えていきます。</p> <p>■先天性脳性麻痺のために、車椅子での生活をおくっている大野牧子さん。大野さんは障がいのために働くことができず苦労してきました。パートナーである川手泰郎さんとも籍を入れることが出来ません。しかし、二人は自分らしい生活を模索して努力しています。このパートでは「障がいがある人の“障がい”とは何か？」を中心に考えていきます。</p> <p>■外国人 東京外国人雇用サービスセンター・・・外国人の雇用相談や紹介を行う、公共職業安定機関です。外国人が日本で働くにあたっての障壁について、外国人を支えている方の言葉を通して考えていきます。</p> <p>■ハンセン病 ハンセン病国立療養所多磨全生園で暮らす人々とハンセン病回復者を支援する方の言葉を通して、ハンセン病に対する根強い差別と偏見について考えていきます。らい予防法の廃止が遅れたのは、私たちの偏見や差別意識と無関係ではないことを理解していきます。断種・墮胎・強制隔離についても、風化させてはいけない問題として考えていきます。</p> <p>■部落差別問題 部落差別問題は、過去のものと考えられていますが、今でも存在します。今回、結婚差別に遭っている方に出演していただき想いを語ってもらいましたが、顔を出しての出演ではありません。これこそが、差別が現存していることの表れだと思います。この事実を私たちはどのように受け止めるべきなのでしょうか。次に、浦本誉至史さんです。浦本さんは、周辺住民に差別ハガキを送りつけられたり、インターネットの掲示板に差別的な書き込みをされたりしました。その恐怖の渦中、浦本さんを救った大家さんの存在をクローズアップします。自分が大家さんの立場だったらどうするか、自分が周辺住民として差別ハガキを受け取ったらどうするか考えていただきたいです。</p>	<p>「先祖が悪いことをしたのかもしれないけれど・・・」と現在の自分に降りかかる差別を「先祖」と結び付けて考えることは、いまを生きる「個」を大切にしようとする人権の考え方とは相容れない、理不尽なものです。</p> <p>だけれども、「何で、自分は今こんな目に遭っているんだろう、いったい私が何をしたっていうんだろう、誰が悪いんだろう、私と周りの人って何が違うんだろう、違っていていけないことなんだろうか、なんで、なんで・・・」と、何とか自分が置かれた状況を理解しようと、時に理不尽なことにまで思いを巡らし、それでもやっぱり納得のいかない、受け止めがたい差別が現にあります。</p> <p>彼我の間に何らかの「違い」を見出し、差別する・・・でも元来、人は一人ひとりが違った、かけがえのない存在です。差別の現実深く学び、当事者の声に耳を傾け、違いを個性と考え、人権の視点から「違っていいんだよ、そのままいいんだよ。」と認め、互いに尊重する社会、職場を目指してこのビデオは創られています。</p>	28分	H18年度 (2006年度)	H19年度 (2007年度)
女性の人権	ビデオ	ドラマ	大助花子の男・女どっちが得？	<p>僕、育児休業を取りたい、この手で子どもを育てたい 私、トラックの運転手になりたい、将来は運送会社を起こしたい 商店街の会長には人望、決断力、統率力が必要や、それには花子さんがピッタリや 女が得(損)か？男が得(損)か？</p> <p>■会社員(女性)のつづやき 「うちも共働きやけど、旦那に子育て意識がないって言うか・・・子育ては疲れるわあ、男は仕事だけしてたらええやなくて、やっぱり男は得やなあ・・・」</p> <p>■会社員(男性)の悩み 「僕、育児休業取りたい思ってますねん。この間それとなく上司に聞いてみたら、育児休業取らなあかんやつは気の毒や、子育ての嫌いな嫁さん持って・・・って、ああ、どないしょ」</p> <p>■大学生の迷い 「私、トラックの運転手になりたいんです・・・でも父が、トラックの運転手は男のする仕事や、女のする仕事やない。女だてらに男の仕事するなんて恥ずかしいことしてくれるな。それだけはやめてくれて」</p> <p>■商店街会長のつづやき 「女性の会長というのはちょっとな・・・花子さんが男だったらなあ。別に規約に書いてるわけではないけれど、会長は男と決まってるな」</p>	<p>男だから・・・、女だから・・・、そんな固定観念の垣根を取り払って、一人の人間としていきいき生きることのできる社会、それが男女共同参画社会です。</p> <p>日々の暮らしの中で「変だな」「おかしいな」と感じたり、気づいたりすることから見つめ直してみよう。当たり前と見過ごしていることの中に、性別を理由とした不合理な取扱や、固定的な見方が潜んでいることがあります。</p> <p>このビデオを楽しみながら、暮らしの中にある問題点について考えてください。</p>	26分	H15年度 (2003年度)	H19年度 (2007年度)

人権課題	規格	種類	題名	内容	解説及び視点	上映時間	制作年度	購入年度
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の歴史(中世～江戸時代)～差別の源流を探る～	<p>現在でも被差別部落出身の人々に差別的な内容のハガキが多数届けられる事件が起こっています。それは多くの市民の中に差別意識が残っているからです。この差別意識はいついどこから来たのでしょうか？</p> <p>中世に遡ると、「非人」と総称される被差別民は、都市の周辺や河原に住み、神社や寺・都の掃除、死んだ牛馬の処理、死者の埋葬、芸能など、穢れを取り去る仕事に従事していました。当時の人々にとって生死に関わる仕事は「穢れ」に触れる事で、仏教の教えに反する残酷な行為。このような仕事に携わる人々を恐れ特別視する社会でした。</p> <p>江戸時代に入ると、「宗門改帳」が作成されるなど、身分が固定化されたことで、差別が厳しくなっていました。当時、被差別身分の人々は、「皮役」「警吏役」「掃除役」など、の幕府や藩が決めた役目を果たしていました。中には、農業をはじめ、草履、雪駄、竹製品を製造販売したり薬の製造や医者、助産などの仕事に携わる人々もおり、また、必ずしも経済的に貧しい人々だけではありませんでした。</p> <p>江戸中期になると、幕府は権力を維持するために身分統制を強化。被差別身分の人々の行動をさらに規制していきました。これに対して、被差別身分の人々が一揆を起こして差別的な政策の撤回を勝ち取った例もあります。</p> <p>部落差別は、江戸時代の身分制度によって起こったのではなく、中世からの差別がその源流にあります。部落の人々が担ってきた役割は、穢れたもの、危険で汚いことと思われてきましたが、実は人々が生きていく上で必要不可欠なことでした。</p> <p>現代に生きる私たちも、そうしたマイナスの部分を部落の人々に押し付けるのではなく、自分自身の問題として引き受ける覚悟が必要です。</p> <p>「部落の歴史を学ぶ」ことは、私たち自身の意識を問い直すことです。そして、部落差別をはじめとする様々な人権問題に立ち向かう力にしていけることが大切ではないでしょうか。</p>	<p>小・中学校の教科書から、「土農工商えた非人」や「部落、江戸時代に作られた」という記載が、ほとんど消えてしまいました（'01・'05年検定本）。</p> <p>本格的な歴史研究が進むにつれ、そうした考えは誤りであり、修正すべきという理解が、ここ20年、歴史学者の間に定着してきたためです。</p> <p>この大きな部落史観の転換を受け、このたび作られたのが、このビデオです。起源から現代まで、映像を通して、新しい部落史像を多くの人々が共有できると思います。</p>	27分	H18年度(2006年度)	H19年度(2007年度)
部落差別問題	DVD	ドキュメンタリー	部落の歴史(明治～現代)～近代化が存続させた差別～	<p>1871年、明治政府は「賤民廃止令」いわゆる「解放令」を出し、制度上の被差別身分が廃止されました。しかし、急速な近代化を進める明治政府は、被差別部落から皮革の専売権や「警吏役」などの役割を奪います。</p> <p>大企業は就職差別などにより部落の人々を排除。被差別部落の人々は炭産業、紡績業、建設業などの不安定な雇用の下で低賃金の重労働を強いられ、部落はスラム化していきました。</p> <p>1922年、「全国水平社」が創立。「水平社宣言」は、日本で初めての「人権宣言」とも言われ、創立大会の参加者に深い感動と勇気を与えました。しかし、満州事変を契機に日本が軍国主義化していくなか戦争に協力。太平洋戦争が始まると、全国水平社は消滅します。</p> <p>1951年、「オールロマンス」誌の小説の差別的内容が問題となりました。これをきっかけに、部落差別解消のための行政施策への要求が全国に拡大していきました。</p> <p>高度経済成長期に入ると、部落産業は衰退し、部落の人々は都市に仕事を求めて流出。教育を受ける機会を奪われていた人にとって就職は困難を極め、部落の人々は、下請けや臨時工、パートなど低位の労働者になっていきました。</p> <p>1969年、政府は「同和対策事業特別措置法」を施行。以後、長年の取り組みによって、部落の生活環境、社会福祉、産業、教育なども改善され、周辺地域との格差も縮小しました。しかし、その後も「部落地名総監」という差別図書が販売される事件が発覚したり、行政書士による戸籍謄本不正取得が起るなど差別事件は続き、格差社会のなか新たな部落差別意識も形成されてきました。</p> <p>貧困や学歴などを理由とする明治以降の差別意識と、中世からの古い差別意識が複雑に重なりあって現代の部落差別は形成されています。競争・格差社会の中で、私たち一人ひとりが社会システムそのものの在り方を考えていけない限り、部落差別をはじめとする様々な差別は再生産されてしまいます。</p>	<p>小・中学校の教科書から、「土農工商えた非人」や「部落、江戸時代に作られた」という記載が、ほとんど消えてしまいました（'01・'05年検定本）。</p> <p>本格的な歴史研究が進むにつれ、そうした考えは誤りであり、修正すべきという理解が、ここ20年、歴史学者の間に定着してきたためです。</p> <p>この大きな部落史観の転換を受け、このたび作られたのが、このビデオです。起源から現代まで、映像を通して、新しい部落史像を多くの人々が共有できると思います。</p>	26分	H18年度(2006年度)	H19年度(2007年度)
その他	DVD	アニメ	夕映えのみち	<p>インターネット社会の光と影を考える～人権文化あふれる社会をめざして～</p> <p>■私たちが日常何気なく発したり、耳にする陰口・うわさ話が、知らず知らずのうちに人権を侵害していることに気づき、自分自身の言動を振り返ってみましょう。</p> <p>■インターネット社会では、その危険性を認識し、より高いモラルや情報を取捨選択する能力が必要であることに気づき、インターネットの正しい利用のあり方について考えてみましょう。</p> <p>■豊かな社会を形成するためには、人と人との絆、家庭の果たす役割、家庭と地域社会との関わりが大切であることを認識し、私たちの生き方の問題として考えてみましょう。</p>	<p>インターネット社会で、私たちは「どう生きるか」「人とどう関わるか」「社会とどうつながるか」を考え、「相手を思いやる」ことの大切さを見つめなおしていただくために、このドラマを制作しました。</p>	38分	H19年度(2007年度)	H19年度(2007年度)